

茨城県教育財団文化財調査報告第474集

稲敷郡阿見町

# 向 田 遺 跡

主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和 6 年 1 月

茨城県竜ヶ崎工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



茨城県教育財団文化財調査報告第474集

いなしき あみ  
稲敷郡阿見町

むかえ だ  
向 田 遺 跡

主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和 6 年 1 月

茨城県竜ヶ崎工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



## 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の調査を実施し、その成果として調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県竜ヶ崎工事事務所による主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備事業に伴って実施した、稲敷郡阿見町向田遺跡の調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、調査区南部の埋没谷などからは、出土例の少ない縄文時代早期前葉の土器片が出土し、多くの情報を得ることができました。また、古墳時代後期の竪穴建物跡を確認し、当時の集落形成の一端が明らかになりました。さらに古墳時代の遺物では、ミニチュア土器や手捏土器、土製勾玉や土玉、管玉などが出土し、祭祀行為の一端を示す貴重な資料を得ることができました。

本書は、これらの調査の成果をまとめたものです。本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました、委託者であります茨城県竜ヶ崎工事事務所に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、阿見町教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和6年1月

公益財団法人茨城県教育財団  
理事長 川 股 圭 之



## 例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が、平成28年度及び平成30年度に調査を実施した、茨城県稲敷郡阿見町小池65-136番地ほかに所在する向田遺跡の調査報告書である。
- 2 調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。  
調査 平成28年4月1日～5月31日、平成30年10月1日～平成31年1月31日  
整理 令和5年6月1日～9月30日
- 3 調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、平成28年度の調査では、首席調査員兼班長駒沢悦郎、次席調査員埴厚宜、調査員内堀団が担当した。平成30年度の調査では、首席調査員兼班長本橋弘巳、次席調査員盛野浩一、調査員倉橋裕真が担当した。
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長本橋弘巳のもと、次席調査員柳瀬樹が担当した。
- 5 本書の作成にあたり、縄文時代早期前葉の土器形式について、栃木県茂木町教育委員会生涯学習課埋蔵文化財調査員中村信博氏に御指導いただいた。また、炭化材の樹種同定については、パリオ・サーヴェイ株式会社に委託し、結果を付章に掲載した。金属製品のX線写真撮影及び保存処理については、埋蔵文化財の保存処理いしかわに委託した。
- 6 当遺跡の出土遺物及び実測図・写真などは、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

## 凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、X = 560 m、Y = 31240 mの交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系 (測地成果 2011) による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表で使用した記号は次のとおりである。




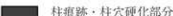

遺構 HG - 遺物包含層 P - ピット SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 SX - 不明遺構 TP - 陥し穴  
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 500 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土	 火床面・黒色処理			
 竈部材・粘土範囲	 柱痕跡・柱穴硬化部分	 須恵器断面		
● 土器	○ 土製品	□ 石器	△ 金属製品	- - - 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社) を使用した。また、土層解説中の含有物の量、粘性・締まりの表示は、次のとおりである。

ローム - ロームブロック 焼土 - 焼土ブロック 粘土 - 粘土ブロック

A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 ○' - 極めて

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

粘 - 粘性 締 - 締まり

A - 強い B - 普通 C - 弱い ○' - 極めて

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は ( ) を、推定値は [ ] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸 (径) 方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した (例 N - 10° - E)。

- 7 調査・整理の段階で遺構名を変更したものと、欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SK116 → SX 1

欠番 SK65・70・93・114・115



# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 位置と地形	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	7
第1節 調査の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 縄文時代の遺構と遺物	8
(1) 陥し穴	8
(2) 遺物包含層	10
(3) 不明遺構	14
2 古墳時代の遺構と遺物	18
(1) 竪穴建物跡	18
(2) 土 坑	56
3 時期不明の遺構と遺物	57
(1) 土 坑	57
(2) 遺構外出土遺物	68
第4節 総 括	70
付 章	76
写真図版	PL 1～PL18
抄 録	
付 図	



# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成13年7月12日、茨城県竜ヶ崎工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成14年8月26日、平成27年6月17日、平成28年8月25日に現地踏査を、平成14年10月28・29日、平成18年9月20・21日、平成27年7月7・8日、平成28年9月28・29日に試掘調査を実施した。平成27年7月22日・平成28年10月26日、茨城県教育委員会教育長は茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに、事業地内に向田遺跡が所在することと、その取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成28年2月10日・平成29年1月19日、茨城県竜ヶ崎工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成28年2月15日・平成29年2月3日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための調査が必要であると決定し、工事着手前に調査を実施するよう通知した。

平成28年2月23日・平成29年2月17日、茨城県竜ヶ崎工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備事業に係る埋蔵文化財調査の実施について協議書を提出した。平成28年2月23日・平成29年3月2日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに、向田遺跡について、調査の範囲及び面積などについて回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県竜ヶ崎工事事務所長から埋蔵文化財調査事業について委託を受け、平成28年4月1日から5月31日までと、平成30年10月1日から平成31年1月31日まで、それぞれ調査を実施した。

## 第2節 調査経過

向田遺跡の調査は、平成28年4月1日から5月31日までの2か月間と、平成30年10月1日から平成31年1月31日までの4か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成28年度

工程	期間	4月	5月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	
遺構調査			■
遺物洗浄 注記 写真整理		■	■
補足調査 撤収			■

平成30年度

工程	期間	10月	11月	12月	1月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■		
遺構調査			■	■	■
遺物洗浄 注記 写真整理		■	■	■	■
補足調査 撤収					■

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

向田遺跡は、茨城県稲敷郡阿見町小池 65 - 136 番地ほかに所在している。

阿見町は、茨城県南部に位置し、町の北西に土浦市、南西に牛久市、東には美浦村が隣接している。地形は、標高 24 m から 30 m の洪積台地である筑波・稲敷台地と、町内を流れる清明川・桂川・乙戸川・花室川などの河川と、霞ヶ浦の浸食による沖積低地で形成されている。台地の北部は、急傾斜で霞ヶ浦沿岸の低地へと続き、町内を流れる河川は、台地を浸食し、複雑な樹枝状の谷津を形成している。

地質は、洪積世の古東京湾期に堆積した海成の砂層である成田層を中心に、その上に斜交層理の顕著な竜ヶ崎層と呼ばれる砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層、関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている<sup>1)</sup>。

当遺跡は阿見町の南西部に位置し、標高約 22 m の乙戸川右岸の台地縁辺部に立地しており、乙戸川に沿って南北に細長く広がっている。遺跡の中央部には、乙戸川の低地から伸びる谷津が入り込んでいる。遺跡の調査前の現況は、山林及び畑地である。

### 第2節 歴史的環境

向田遺跡周辺の台地上には、旧石器時代から近世に至るまでの遺跡が数多く分布している。ここでは、当該地域の主な遺跡を時代ごとに概観する。

乙戸川流域における旧石器時代の遺跡は、細石刃が出土した実穀古墳群<sup>2)</sup> (16)、谷ノ沢遺跡<sup>3)</sup> (20)、ナイフ形石器が出土した西ノ原遺跡<sup>4)</sup> (28)、実穀寺子遺跡<sup>5)</sup> (31)、ヤツノ上遺跡<sup>6)</sup> (41) などが知られている。

縄文時代の遺跡は、台地縁辺部に立地しており、実穀寺子遺跡と於山遺跡<sup>7)</sup> (46) から早期から後期の土器片が、下小池東遺跡<sup>8)</sup> (21) から早期から前期の土器片が、それぞれ出土している。また、小野川流域のヤツノ上遺跡からは、晩期の土器片とともに土偶が出土している。

弥生時代の集落は少なく、下小池遺跡<sup>9)</sup> (9) から後期の竪穴建物跡 1 棟、花房遺跡<sup>10)</sup> から竪穴建物跡 2 棟が確認されている程度である。

古墳時代の遺跡は、乙戸川沿岸の台地縁辺部に数多く分布しており、大きな集落跡が存在していたことが知られている。当遺跡の付近では、実穀寺子遺跡、実穀寺子西遺跡 (15)、上宿遺跡 (7)、実穀神田遺跡 (8)、下小池遺跡、下小池東遺跡、福田遺跡 (33) が所在している。下小池遺跡からは、竪穴建物跡を 47 棟、下小池東遺跡からは、竪穴建物跡を 13 棟確認しており、いずれも 4 世紀代から 6 世紀にかけての集落跡である。また、実穀寺子遺跡からは、石製模造品を用いた建物内での祭祀行為が確認されている。さらに、小野川と乙戸川に挟まれた台地上にも、華入山遺跡 (42) とヤツノ上遺跡、西ノ原遺跡、中下根遺跡 (27) が所在しており<sup>11)</sup>、中期の大集落跡の可能性がある。

古墳は、集落跡の周辺の台地上に分布しており、乙戸川沿岸の台地上には、北古辺古墳 (48)、大塚古墳、内記古墳群 (43)、タメキ古墳 (14)、実穀古墳群、塚越古墳群 (18) などが分布している。実穀古墳群は 5 世紀末から 6 世紀後葉にかけて築造された後期古墳群である<sup>12)</sup>。小野川沿岸の台地上には、ヤツノ上古墳 (40)、

愛宕脇古墳(39)、琴塚古墳(26)などがあり、これらは6世紀後半から7世紀前半のものと思われる<sup>13)</sup>。

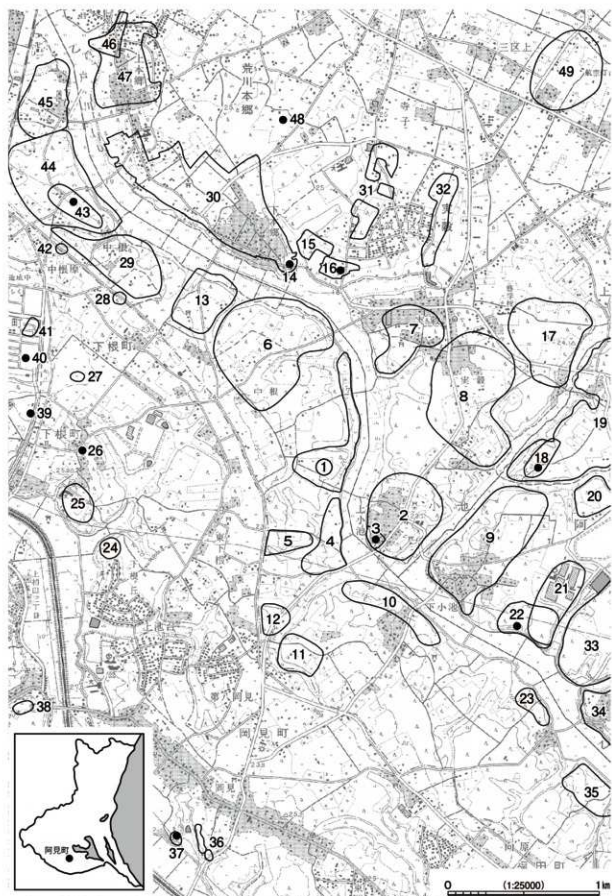
奈良・平安時代の遺跡は、乙戸川と小野川に挟まれた台地上に多く分布しており、華人山遺跡や中下根遺跡、ヤツノ上遺跡では、平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡などを確認している<sup>14)</sup>。

中世になると南北朝の内乱を経て、室町時代に至る時期の勢力の攻防が著しく、多くの城館跡が存在している。戦国時代には、土岐氏が勢力を拡大して下小池城跡や福田城、久野城を築いている。豊臣秀吉の小田原征討以降、北条氏に味方した土岐氏が滅亡し、代わって芦名氏が天正18年から約12年間支配するものの、関ヶ原の合戦以降は、徳川氏の幕藩体制による領主の統治となった<sup>15)</sup>。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び第1表の当該番号と同じである。

#### 註

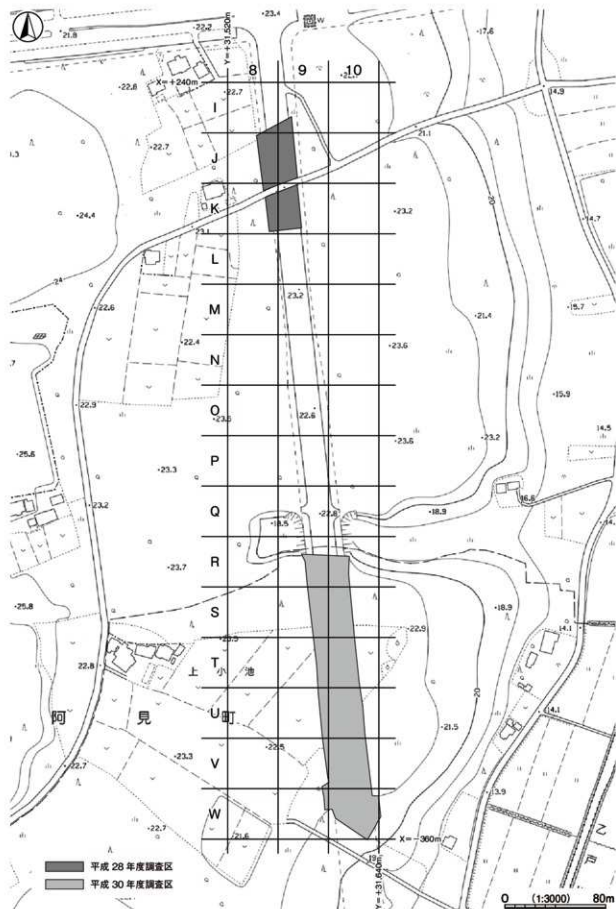
- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会『日本の地層3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 浅野和久「荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(1) 実穀古墳群 実穀寺子遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第144集 1999年3月
- 3) 柳引美樹 後藤孝行「谷ノ沢遺跡 手接遺跡 花房遺跡 大日遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第212集 2004年3月
- 4) 深谷憲二 柴田博行「牛久東下根特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中下根遺跡 西ノ原遺跡 華人山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第113集 1996年6月
- 5) 註2)と同じ
- 6) 小高五十二「牛久市北部特定土地区画整理事業工事地内埋蔵文化財調査報告書(1) ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第81集 1993年3月
- 7) 矢ノ倉正男「主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 於山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第96集 1995年3月
- 8) 汀安衛 他「下小池東遺跡発掘調査報告書」阿見町教育委員会 1979年3月
- 9) 鴨志田祐一 浦和敏郎 小竹茂美「下小池遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第210集 2004年3月
- 10) 註3)と同じ
- 11) 註4)と同じ
- 12) 註2)と同じ
- 13) 牛久市史編さん委員会「牛久市史 原古代中世」2004年3月
- 14) 註6)と同じ
- 15) 阿見町史編さん委員会「阿見町史」1983年3月



第1図 向田道跡周辺遺跡分布図(国土地理院 25,000分の1「土浦」「牛久」)

第1表 向田遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代								
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・桃山	江戸	
①	向田遺跡		○		○				26	琴塚古墳			○					
2	前畑遺跡				○				27	中下根遺跡	○	○	○	○	○			
3	上小池城跡						○		28	西ノ原遺跡	○	○		○	○			
4	大高田遺跡				○				29	中根遺跡				○				
5	反子遺跡		○		○				30	本屋敷遺跡				○				
6	延戸遺跡		○		○	○			31	実穀寺子遺跡				○	○			
7	上宿遺跡				○				32	寺子東遺跡				○				
8	実穀神田遺跡				○				33	福田遺跡		○		○	○			
9	下小池遺跡		○		○				34	十郎山遺跡					○			
10	農場遺跡					○			35	向遺跡					○			
11	追越遺跡				○				36	千佛塚古墳群				○				
12	岡見道遺跡					○			37	岡見城跡							○	
13	釜田遺跡				○				38	出し山遺跡		○	○	○				
14	タメキ古墳				○				39	愛宕脇古墳				○				
15	実穀寺子西遺跡		○		○				40	ヤツノ上古墳				○				
16	実穀古墳群				○		○		41	ヤツノ上遺跡	○		○	○	○		○	
17	向辺田遺跡		○		○	○			42	隼人山遺跡	○	○		○	○			
18	塚越古墳群				○				43	内記古墳群				○				
19	道記遺跡		○	○	○				44	内記遺跡				○				
20	谷ノ沢遺跡	○	○						45	鑿ノ内遺跡				○				
21	下小池東遺跡		○		○				46	於山遺跡		○						○
22	下小池城跡		○		○				47	西久保遺跡				○				
23	砂崎遺跡					○			48	北古辺古墳				○				
24	ヲサル下遺跡		○						49	阿見原遺跡				○				
25	水落下遺跡				○													



第 2 図 向田道跡調査区設定図(阿見町都市計画図 3,000 分の 1)



## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

向田遺跡は、阿見町の南西部に位置し、乙戸川右岸の標高約22mの台地上に立地している。遺跡の地形は、平坦な台地上であり、乙戸川縁辺部では若干の傾斜がみられる。調査面積は10,165㎡で、調査前の現況は山林及び畑地である。

調査の結果、堅穴建物跡10棟（古墳時代）、土坑110基（古墳時代2、時期不明108）、陥し穴3基、遺物包含層1か所、不明遺構1か所を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に26箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（坏・碗・高坏・鉢・壺・甕・瓶・ミニチュア土器・手捏土器）、須恵器（甕・甕）、土製品（勾玉・土玉・管玉・支脚）、石器（石鏃・敲石・砥石・スタンプ形石器・礫器・剥片）、金属製品（鉄鏃）などである。

### 第2節 基本層序

平成28年度の調査区（J9a2区）にテストピット1を、平成30年度の調査区（V10h8区）にテストピット2を設定し、基本土層の観察を行った。以下、各層の特徴を述べる。

第1層は、黒褐色を呈する表土（耕作土）層である。粘性は普通で、締まりは弱い。層厚は25～45cmである。

第2層は、暗褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子が少量、ロームブロックを中量含み、粘性は普通で、締まりはやや弱い。層厚は10～28cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。ロームブロックを少量含み、粘性は普通で、締まりはやや弱い。層厚は30～50cmである。

第4層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりはともに普通で、層厚は5～30cmである。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強い。層厚は5～34cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を極微量含み、粘性・締まりはともに強い。層厚は10～30cmである。

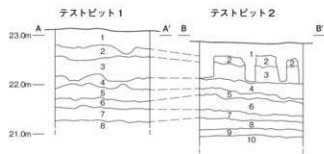
第7層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりはともに強い。層厚は10～30cmである。

第8層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。ロームブロックを少量含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は17～24cmである。

第9層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりはともに強い。層厚は13～18cmである。

第10層は、灰白色を呈する常総粘土層である。黒色粒子を少量含み、粘性・締まりはともに強い。層厚は7cmまでを確認した。

遺構は、第3層上面で確認した。



第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

陥し穴3基、遺物包含層1か所、不明遺構1か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

##### (1) 陥し穴

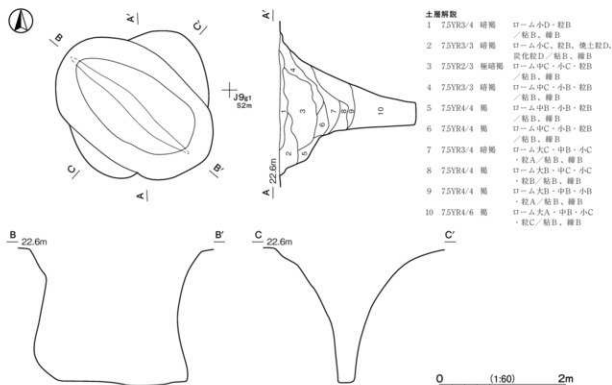
##### 第1号陥し穴（第4図 PL 5）

**位置** 調査区北部のJ 8g0区、標高22mほどのほぼ平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長径2.74m、短径2.53mの楕円形で、長径方向はN-54°-Wである。深さは216cmで、底面は若干の凹凸がある。長径方向の壁は下部が内傾し、中部から上部にかけて外傾している。短径方向の壁は外傾している。

**覆土** 10層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

**所見** 遺物は出土していないが、遺構の特徴的な形状から、時期は縄文時代と考えられる。



第4図 第1号陥し穴実測図

##### 第2号陥し穴（第5図 PL 5）

**位置** 調査区南部のT10e3区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

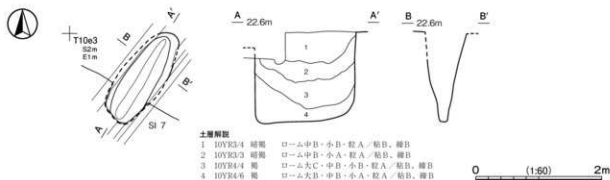
**重複関係** 第7号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 確認できた規模は、長径1.65m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-34°-Eである。深

さは141cmで、底面はほぼ平坦である。長径方向の壁は直立し、短径方向の壁は外傾している。

**覆土** 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

**所見** 遺物は出土していないが、遺構の特徴的な形状から、時期は縄文時代と考えられる。



第5図 第2号陥し穴実測図

### 第3号陥し穴 (第6図 PL 5)

**位置** 調査区南部のW10d2区、標高22mの台地縁辺部に位置している。

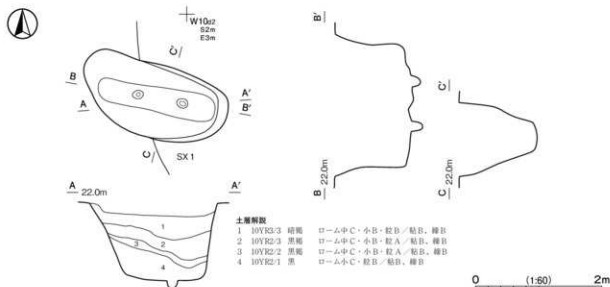
**重複関係** 第1号不明遺構を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径2.40m、短径1.18mの楕円形で、長径方向はN-69°-Wである。深さは125cmで、底面は平坦である。長径方向の壁は直立し、短径方向の壁は外傾している。

**ビット** 底面に2か所のビットを確認した。長径16~19cm、短径12~13cm、深さは15~20cmである。配置から逆茂木を設置した痕跡と考えられる。

**覆土** 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

**所見** 遺物は出土していないが、遺構の特徴的な形状から、時期は縄文時代と考えられる。



第6図 第3号陥し穴実測図

第2表 縄文時代陥し穴一覧（第4～6図）

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	J8g0	N-54°-W	楕円形	274 × 253	216	内傾・外傾	ほぼ平坦	自然		
2	T10c3	N-34°-E	楕円形	165 × 075	141	垂直・外傾	ほぼ平坦	自然		本跡→SI 7
3	W10d2	N-69°-W	楕円形	240 × 118	125	垂直・外傾	平坦 ビット有	自然		SX 1→本跡

(2) 遺物包含層

1か所を確認した。第1号遺物包含層は、調査区南端の埋没谷部に位置していることから、谷の主軸に沿って1m四方のグリッドを設定し、土層の堆積状況を確認しながら、遺物の取り上げを行った。

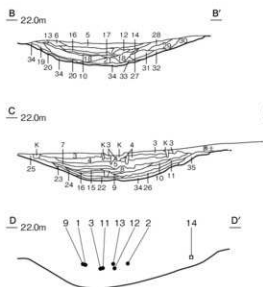
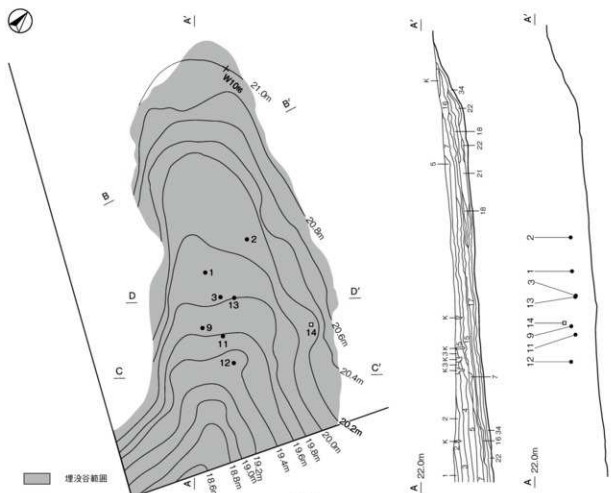
第1号遺物包含層（第7～11図 第3・4表 PL 3・4・10）

**位置** 調査区南端のW10e5～X10a8区、標高202m～212mの斜面部埋没谷に位置している。埋没谷は、開口部と最深部を軸とするとN-40°-W方向に延びている。長径232m、短径70～102mで、谷頭から開口部の比高差は、220mである。堆積土は35層に分層でき、黒色土と暗褐色土を中心に自然堆積していた。上層の第4～7層はローム粒子を多く含み、褐色土の第16層には赤色土ブロックが、黒色土の第18・22層には白色粒子が、それぞれ含まれている。

**規模と形状** 遺物は谷頭では確認できず、中央部の主軸よりやや東部に多く散在しており、南部では出土数が少なくなる。出土遺物の範囲は、D2b1～E2c7区の東西12m、南北7mにまとまっており、遺物の出土層位は、主にローム粒子を多く含む第4・5・7層で、確認面からの深さ10～100cmほどの埋没谷上層部にあたる。

**遺物出土状況** 縄文土器片81点（深鉢）、石器4点（石英斑岩製スタンプ形石器、ホルンフェルス製礮器、石英斑岩製剥片、頁岩製剥片）、礫4点（ホルンフェルス3、チャート1）が出土している。土器片は、第5層から52点、第7層から28点、第4層から1点である。土器片を出土層位ごとに器高別（小片3cm未満、中片3～5cm、大片5cm以上）に分類すると、第4層では中片1点、第5層では小片15点、中片24点、大片13点、第7層では、小片4点、中片17点、大片7点である。器高別の平面分布をみると、中片は中央部に散在しているのに対し、大片は中央部の他、北部からも少量ではあるが出土している。逆に、小片はやや南東部に多い傾向がみられる。なお、土器片の器高と層位の関係からは、平面分布に有意な傾向は見受けられなかったが、全体的に第7層から出土したものは、谷の軸線付近に多くみられる。口縁部片は8点出土しており、そのうち6点が第7層出土で、主に中央部主軸付近から出土している。第7層から出土した口縁部は1～5・7、第5層から出土した口縁部は6・13である。口縁部のものを含め、接合関係が認められたものは9点確認され、いずれも同一地点から出土しているもの同士が接合している。別地点から出土したものの同士の同一関係は、胎土や施文技法に類似点はみられたものの、判然とはしなかった。また、14～16は北部の埋没谷際から出土している。

**所見** 出土した縄文土器片は、いずれも早期前葉である。堆積状況から、本跡が形成された谷は長い期間をかけて自然堆積し、早期前葉には谷の深さの約3分の2以上が埋没していたと考えられる。遺物の多くが埋没谷の中央部に分布していることから、浅い窪地であった埋没谷の北西部谷頭付近から廃棄し、小片が南部に流れたと推察される。なお、北西部に隣接している第1号不明遺構でも、同時期の土器片が出土している。



土層編號

- |    |         |    |                              |
|----|---------|----|------------------------------|
| 1  | 10YK3/3 | 砂質 | ローム小C・粒C、炭化粒C/粘B、雜B          |
| 2  | 10YK2/2 | 泥質 | ローム小C・粒B/粘B、雜B               |
| 3  | 10YK2/3 | 泥質 | ローム粒D/粘B、雜B                  |
| 4  | 10YK2/3 | 泥質 | ローム大C・中B・小B・粒B/粘B、雜A         |
| 5  | 10YK2/3 | 泥質 | ローム中C・小C・粒B、炭化粒C、赤色粒子D/粘B、雜B |
| 6  | 10YK2/3 | 泥質 | ローム小C・粒B、炭化粒C/粘B、雜B          |
| 7  | 10YK2/2 | 泥質 | ローム粒B/粘B、雜B                  |
| 8  | 10YK3/3 | 砂質 | ローム小C・粒A、赤色粒D/粘B、雜B          |
| 9  | 10YK2/2 | 泥質 | ローム粒D、炭化物粒D/粘B、雜B            |
| 10 | 10YK3/3 | 砂質 | ローム小D・粒C、炭化粒D、赤色粒D/粘B、雜B     |
| 11 | 10YK4/3 | 土砂 | ローム中A・小A・粒A/粘B、雜B            |
| 12 | 10YK2/1 | 泥  | ローム小D・粒C/粘B、雜B               |
| 13 | 10YK3/1 | 泥質 | ローム粒B/粘B、雜B                  |
| 14 | 10YK3/4 | 泥質 | ローム中B・小A・粒A/粘B、雜B            |
| 15 | 10YK2/1 | 泥  | ローム中C/粘A、雜B                  |
| 16 | 75YK4/6 | 泥  | 赤色土中C・小B・粒B/粘B、雜B            |
| 17 | 10YK2/1 | 泥  | ローム粒D/粘A、雜C                  |
| 18 | 10YK2/1 | 泥  | ローム粒C、白色粒C/粘B、雜B             |
| 19 | 10YK3/1 | 泥質 | ローム粒B/粘B、雜B                  |
| 20 | 10YK3/1 | 泥質 | ローム粒B/粘A、雜B                  |
| 21 | 10YK2/1 | 泥  | ローム小D・粒C/粘A、雜C               |
| 22 | 10YK2/2 | 泥質 | 白色粒A/粘A、雜C                   |
| 23 | 10YK2/3 | 泥質 | ローム小C・粒B/粘B、雜B               |
| 24 | 10YK2/3 | 泥質 | ローム小C・粒C/粘B、雜B               |
| 25 | 10YK4/6 | 泥  | ローム中B・粒B、炭化粒B/粘B、雜B          |
| 26 | 10YK2/3 | 泥質 | ローム小C・粒B/粘B、雜B               |
| 27 | 10YK2/2 | 泥質 | ローム小B・粒B/粘B、雜B               |
| 28 | 10YK3/3 | 砂質 | ローム中B・小B・粒A/粘B、雜B            |
| 29 | 10YK3/3 | 砂質 | ローム中B・小B・粒B、炭化粒C/粘B、雜B       |
| 30 | 10YK4/4 | 砂質 | ローム中B・小A・粒A、炭化粒C/粘B、雜B       |
| 31 | 10YK2/2 | 泥質 | ローム中B・小A・粒A、炭化粒D/粘B、雜B       |
| 32 | 10YK3/3 | 砂質 | ローム中C・小C・粒A/粘B、雜B            |
| 33 | 10YK2/3 | 泥質 | ローム粒A、炭化粒C/粘B、雜B             |
| 34 | 10YK2/3 | 泥質 | ローム小C・粒B/粘B、雜B               |
| 35 | 10YK4/6 | 泥  | ローム小B・粒B、炭化粒B/粘B、雜B          |

0 (1:200) 8m

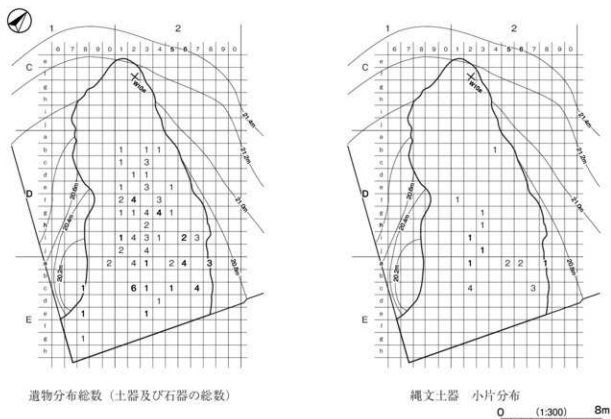
第7圖 第1号遺物包含層実測図

第3表 第1号遺物包含層遺物出土点数内訳表

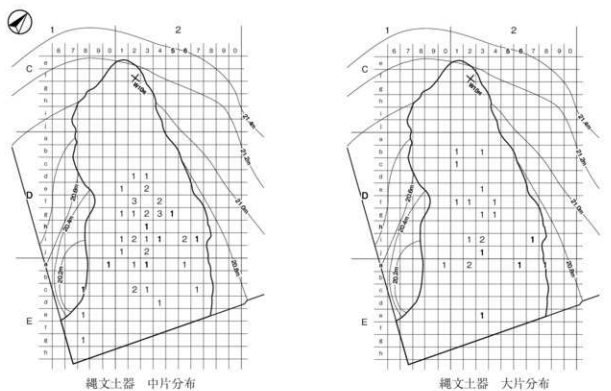
グリッド(層位)	D2b(17)	D2b(5)	D2b(3)	D2c(17)	D2c(5)	D2c(3)	D2d(5)	D2d(3)	D2e(17)	D2e(5)	D2e(3)	D2f(17)	D2f(5)	D2f(3)	D2g(17)	D2g(5)	D2g(3)	D2h(17)	D2h(5)	D2h(3)	小計	
小3cm未満			1									1								1	3	
縄文 中3-5cm							1	1	1	1	2		1	1	2	2	1	1	2	3	17	
土器 大(5cm以上)	1	1		1								1			1	1				1	9	
総数	1	1	1	1			1	1	1	3		2	4	4	3	1	1	4	4	4	29	
石器																						
スタンプ形																						
網片										1											1	
礫器						3																3
計	1	1	1	1	3	1	1	1	3	1	2	4	3	1	1	4	4	4	4	4	33	

グリッド(層位)	D2g(5)	D2g(3)	D2h(17)	D2h(5)	D2h(3)	D2i(17)	D2i(5)	D2i(3)	D2j(17)	D2j(5)	D2j(3)	D2k(17)	D2k(5)	D2k(3)	D2l(17)	D2l(5)	D2l(3)	D2m(17)	D2m(5)	D2m(3)	小計	
小3cm未満		1										1								2	1	9
縄文 中3-5cm	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1					1	17
土器 大(5cm以上)				1		2			1		1	1	1	1							1	10
総数	1	2	1	4	4	3	1	2	2	1	4	2	4	4	1	2	4	2	4	2	3	36
石器																					1	1
スタンプ形									1													1
網片																						1
礫器											1											1
計	1	2	1	4	4	3	1	2	3	2	4	2	4	4	1	2	4	3	3	3	3	39

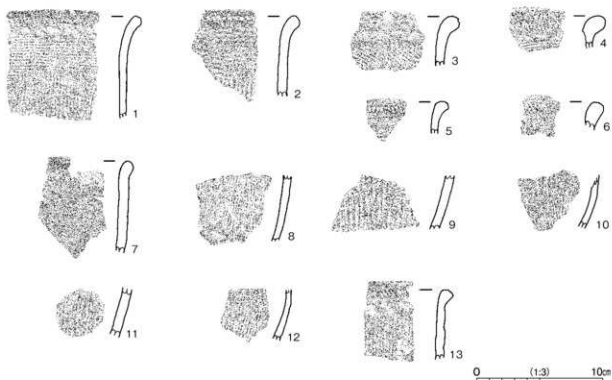
グリッド(層位)	E1d(17)	E2d(5)	E2d(3)	E2e(5)	E2e(3)	E3d(17)	E1e(8)	E2e(5)	E1g(6)	小計	合計	重量(g)
小3cm未満		4			3					7	19	74.75
縄文 中3-5cm	1	2	1		1	1	1		1	8	42	381.12
土器 大(5cm以上)								1		1	20	86.66
総数	1	6	1		4	1	1	1	1	16	81	905.53
石器												
スタンプ形												
網片					1					1		
礫器												
計	1	6	1	1	4	1	1	1	1	17	89	



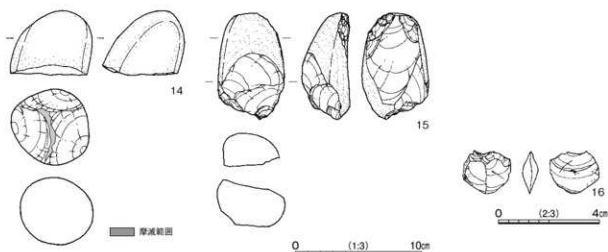
第8図 第1号遺物包含層出土遺物分布図(1)



第9図 第1号遺物包含層出土遺物分布図(2)



第10図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第11図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(2)

第4表 第1号遺物包含層出土遺物一覧(第10・11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口唇部LR単筋縄文施文・口縁肥厚部下層指頭圧痕 腹部縁位のLR単筋縄文施文	D 2f 第7層	早期前遺 5% PL10
2	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口唇部LR単筋縄文施文・口縁肥厚部下層指頭圧痕・石斑文 腹部縁位のLR単筋縄文施文・腹部縁位のLR単筋縄文施文	D 2-c3 第7層	早期前遺 5% PL10
3	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	口唇部1列の原体欄間圧痕文・口縁肥厚部単筋縄文施文・腹部縁位のLR単筋縄文施文	D 2a2 第7層	早期前遺 5% PL10
4	縄文土器	深鉢	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部同一方向のLR単筋縄文施文・口縁肥厚部下層指頭圧痕 腹部縁位の無筋縄文施文	D 2f 第7層	早期前遺 5% PL10
5	縄文土器	深鉢	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部単筋縄文施文・口縁肥厚部下層1列の原体欄間圧痕文施文	D 2f3 第7層	早期前遺 5% PL10
6	縄文土器	深鉢	-	(2.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口唇部・口縁肥厚部上端LR単筋縄文施文	E 2a2 第5層	早期前遺 5% PL10
7	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	無文	E 2a2 第7層	早期前遺 5% PL10
8	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	腹部縁位の燃糸文施文*	D 2a2 第5層	早期前遺 5% PL10
9	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	腹部縁位のLR単筋縄文施文	D 2f1 第5層	早期前遺 5% PL10
10	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	上部無文 下部縁位の燃糸文施文*	E 2c2 第5層	早期前遺 5% PL10
11	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	明赤褐色	普通	縁位の無筋縄文施文*	D 2f2 第5層	早期前遺 5% PL10
12	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	縁位の無筋縄文施文*	E 2a3 第7層	早期前遺 5% PL10
13	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい赤褐色	普通	口縁肥厚部上端縄文施文・下部指頭圧痕 腹部縁位の燃糸文施文*	D 2-c3 第5層	早期前遺 5% PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	スタンプ 瓦片(器)	5.2	6.6	6.5	268.82	石灰質珪岩	楕円椀素材 側縁部平坦な割摩調整痕 機能面後縁摩耗	D 2f 第5層	
15	磨器	8.5	5.3	3.8	187.78	ホルンフェルス	楕円椀素材 下部・上部からの加工痕 自然面残す	E 2-a8 第7層	
16	割片	1.7	1.9	0.6	1.53	頁岩	横長割片素材 2次加工のある割片	D 2-c5 第7層	PL10

(3) 不明遺構

第1号不明遺構(第12～15図 第5表 PL 3・4・10・11)

位置 調査区南部のW10b2区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号陥し穴に掘り込まれている。

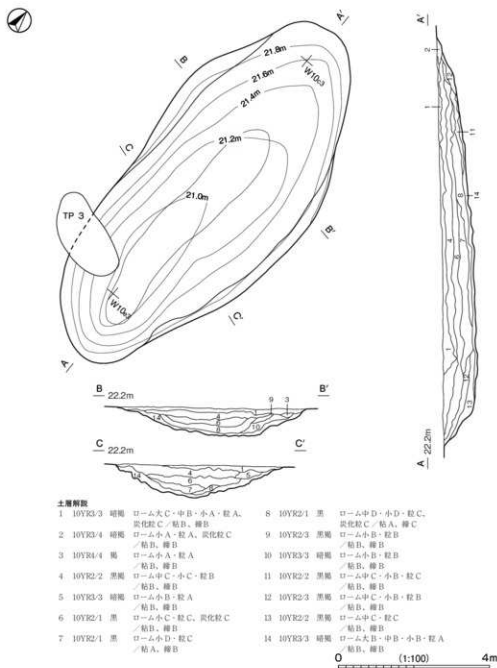
規模と形状 長径10.82m、短径4.88mの不整形円形で、長径方向はN-1°-Wである。底面は皿状で、南部が深く、中央部から北部にかけて徐々に浅くなっている。深さは最大90cmである。壁は北部のみ緩やかな外傾を呈し、その他は外傾している。



**覆土** 14層に分層できる。第1～3・14層は、ロームブロックやローム粒子を多く含み、第4～13層は、黒色・黒褐色を主体とした層である。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

**遺物出土状況** 縄文土器片92点(深鉢)が出土している。遺物は主に遺構中央の東側の第1層に集中している。6・8・11は、第1層に接する第4層から、それぞれ出土している。

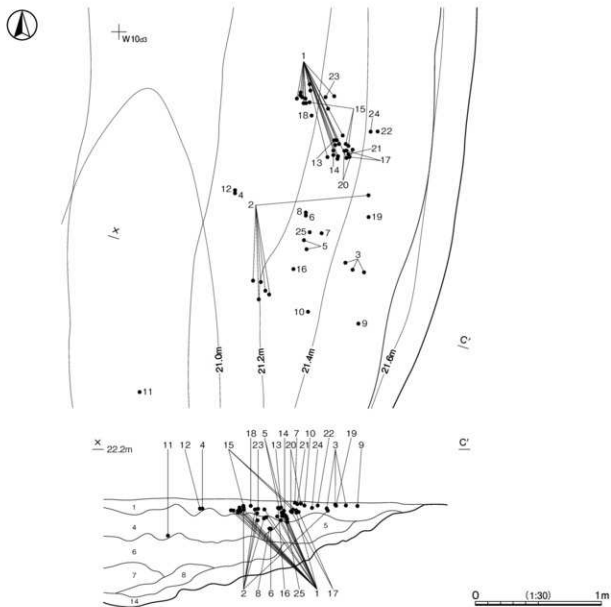
**所見** 本跡と同時期の土器片が出土している。第1号遺物包含層との位置関係は、約10m離れており、接合関係も認められないことから不明遺構とした。



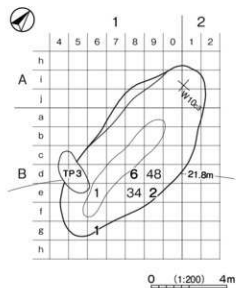
**土層解説**

- |               |                             |                |                          |
|---------------|-----------------------------|----------------|--------------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色 | ローム大C・中B・小A・粒A、炭化粒C / 粘B、雜B | 8 10YR2/1 黒    | ローム中D・小D・粒C、炭化粒C / 粘A、雜C |
| 2 10YR3/4 暗褐色 | ローム小A・粒A、炭化粒C / 粘B、雜B       | 9 10YR2/3 黒褐色  | ローム小B・粒B / 粘B、雜B         |
| 3 10YR4/4 黒   | ローム小A・粒A / 粘B、雜B            | 10 10YR3/3 暗褐色 | ローム小B・粒B / 粘B、雜B         |
| 4 10YR2/2 黒褐色 | ローム中C・小C・粒B / 粘B、雜B         | 11 10YR2/2 黒褐色 | ローム中C・小B・粒C / 粘B、雜B      |
| 5 10YR3/3 暗褐色 | ローム小B・粒A / 粘B、雜B            | 12 10YR2/3 黒褐色 | ローム中C・小B・粒B / 粘B、雜B      |
| 6 10YR2/1 黒   | ローム小C・粒C、炭化粒C / 粘B、雜B       | 13 10YR2/2 黒褐色 | ローム中C・粒C / 粘B、雜B         |
| 7 10YR2/1 黒   | ローム小D・粒C / 粘A、雜B            | 14 10YR3/3 暗褐色 | ローム大B・中B・小B・粒A / 粘B、雜B   |

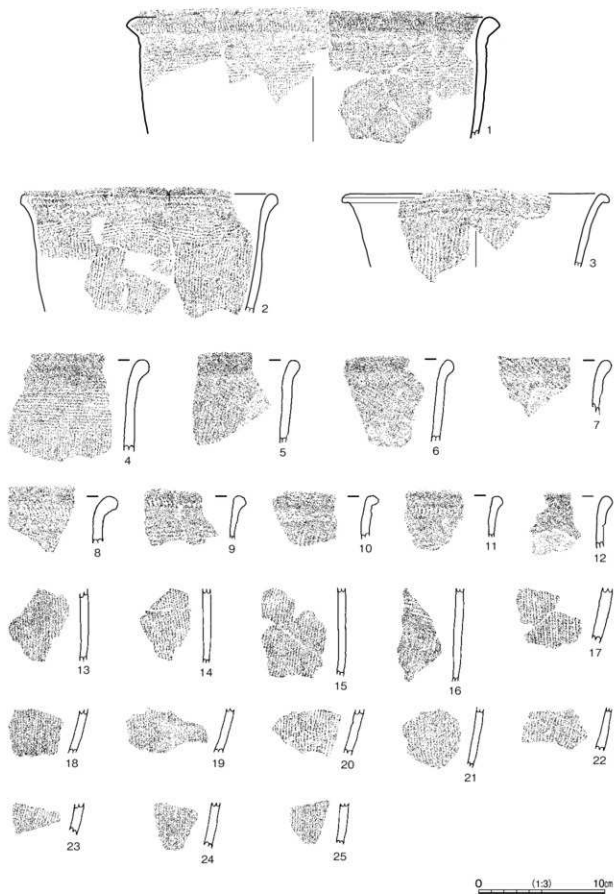
第12図 第1号不明遺構実測図



第 13 图 第 1 号不明遺構遺物出土状況実測図



第 14 图 第 1 号不明遺構遺物分布図



第15图 第1号不明遺構出土遺物実測図

第5表 第1号不明遺構出土遺物一覧(第15図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	28.0	(95)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁厚部上端LR単節縄文施文、下層指環状・ナデ部部破位のLR単節縄文施文、胴部破位の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 10% PL10
2	縄文土器	深鉢	[198]	(94)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部1列の無節縄文施文、口縁厚部上層指環状・ナデ部部破位の単節縄文施文、胴部破位の無節縄文施文	B1e8・B1e9 第1層	早期遺物 10% PL10
3	縄文土器	深鉢	[200]	(57)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部LR単節縄文施文、口縁厚部下層1列の縦線無節印文施文、胴部破位のLR単節縄文施文	B1e8 第1層	早期遺物 5% PL10
4	縄文土器	深鉢	-	(73)	-	長石・石英	暗赤褐	普通	口唇部・口縁厚部下層1列の縦線無節印文施文、下層ナデ部部破位のLR単節縄文施文、胴部破位のLR単節縄文施文	B1e8 第1層	早期遺物 5% PL11
5	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口唇部単節縄文施文、胴部破位のLR単節縄文施文、胴部破位の単節縄文施文	B1e8 第1層	早期遺物 5% PL11
6	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口唇部LR単節縄文施文、胴部破位のLR単節縄文施文、胴部破位のLR単節縄文施文	B1e8 第4層	早期遺物 5% PL11
7	縄文土器	深鉢	-	(43)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口唇部単節縄文施文、胴部破位の単節縄文施文	B1e8 第1層	早期遺物 5% PL11
8	縄文土器	深鉢	-	(38)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁厚部2列のLR単節縄文施文・下層ナデ部部破文	B1e8 第4層	早期遺物 5% PL11
9	縄文土器	深鉢	-	(34)	-	長石・石英	橙	普通	口縁厚部上端LR単節縄文施文、胴部破位の単節縄文施文	B1e8・B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
10	縄文土器	深鉢	-	(34)	-	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	口唇部単節縄文施文、口縁厚部下層2列の縦線無節印文施文、胴部破位の単節縄文施文	B1e8 第1層	早期遺物 5% PL11
11	縄文土器	深鉢	-	(32)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁厚部上端LR単節縄文施文、胴部破位の単節縄文施文	B1e6 第4層	早期遺物 5% PL11
12	縄文土器	深鉢	-	(41)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口唇部単節縄文施文、口縁厚部下層指環状・ナデ部部破位の単節縄文施文	B1e8 第1層	早期遺物 5% PL11
13	縄文土器	深鉢	-	(58)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	縦位の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
14	縄文土器	深鉢	-	(59)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	縦位の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
15	縄文土器	深鉢	-	(71)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	縦位の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
16	縄文土器	深鉢	-	(74)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部破位の無節縄文施文	B1e8 第1層	早期遺物 5% PL11
17	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英	明赤褐	普通	胴部破位の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
18	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	縦位の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
19	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	縦方向の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
20	縄文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・石英	橙	普通	縦方向の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
21	縄文土器	深鉢	-	(47)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	縦方向の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
22	縄文土器	深鉢	-	(34)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	縦方向の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
23	縄文土器	深鉢	-	(24)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	縦方向の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
24	縄文土器	深鉢	-	(37)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	縦方向の無節縄文施文	B1e9 第1層	早期遺物 5% PL11
25	縄文土器	深鉢	-	(32)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	縦方向の無節縄文施文	B1e8 第1層	早期遺物 5% PL11

## 2 古墳時代の遺構と遺物

竪穴建物跡10棟、土坑2基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

## (1) 竪穴建物跡

## 第1号竪穴建物跡(第16・17図 第6表 PL5)

位置 調査区北部のJ8c7区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 一辺4.10mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁は高さ8~22cmで、直立している。

床 ほほぼ平坦で、硬化していない。

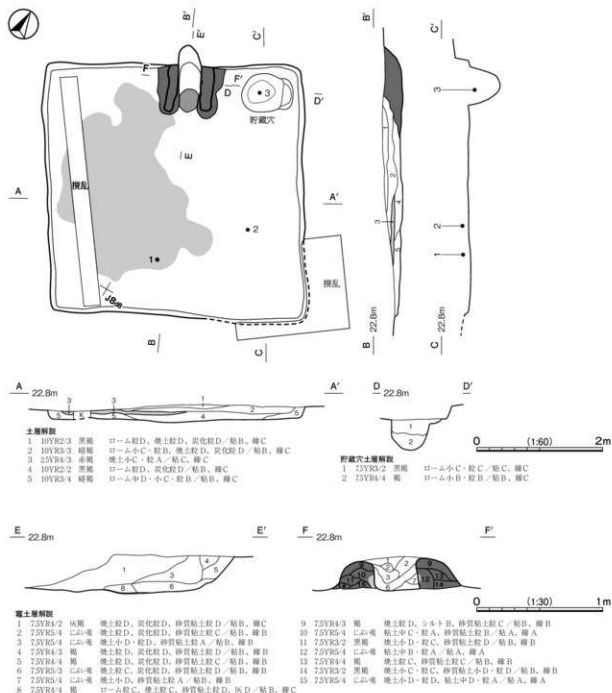
竪 北壁の中央部に位置している。規模は、焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は30cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土や粘土ブロックを多く含む第9~15層を積み上げて構築している。袖部の内側は、被熱により赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さである。火床面は被熱により赤変しているが、硬化していない。煙道部は壁外に33cmほど張り出し、奥壁で緩やかに立ち上がっている。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径81cm、短径60cmの楕円形で、深さ50cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。覆土にロームブロックを中量程度含んでいることから、人為堆積である。

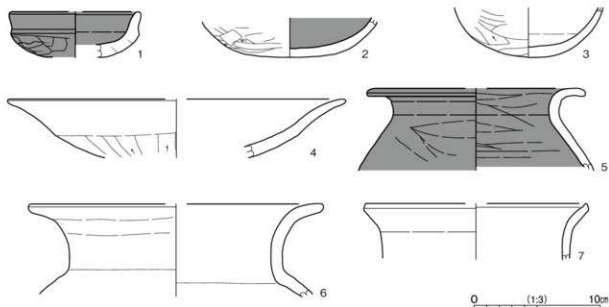
**覆土** 5層に分層できる。第1・2層は、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。建物の西部で確認された焼土粒子を多量に含む第3層からは、炭化材や炭化物の含有は無く、埋め戻しの際に投げ込まれたものと考えられ、第3～5層は、人為堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片75点(坏7、高坏3、鉢1、甕63、瓶1)が出土している。遺物は、建物西部から多く出土している。1・2は南部の覆土下層から、3は貯蔵穴の覆土上層から、それぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第16図 第1号堅穴建物跡実測図



第17図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第6表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧(第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師器	坏	100	(36)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 輪縁痕	体部外面ヘラ張り 内面	覆土下層	20%
2	土師器	坏	-	(32)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面ヘラ張り 内面ナデ	内面ナデ	覆土下層	30%
3	土師器	坏	-	(40)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ張り 内面ナデ	内面ナデ	貯蔵穴 覆土上層	30%
4	土師器	高坏	266	(47)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ	体部外面ヘラ張り 内面	覆土	10%
5	土師器	甕	162	(65)	-	長石・石英	黒	普通	口縁部内外面横ナデ	体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土	5%
6	土師器	甕	230	(74)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ	頸部ヘラナデ 内面窄減	覆土	10%
7	土師器	甕	176	(45)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部内外面横ナデ	内面	覆土	5%

#### 第2号竪穴建物跡(第18～22図 第7表 PL5・6・12)

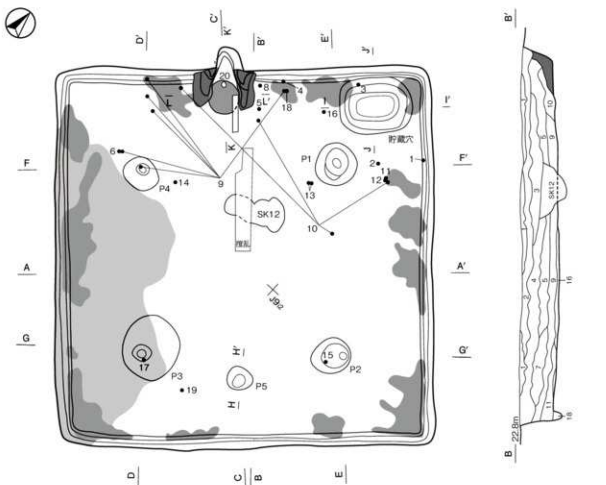
**位置** 調査区北部のJ9h1区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

**重複関係** 第12号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.06m、短軸6.00mの方形で、主軸方向はN-42°-Wである。壁は高さ43～53cmで、直立している。

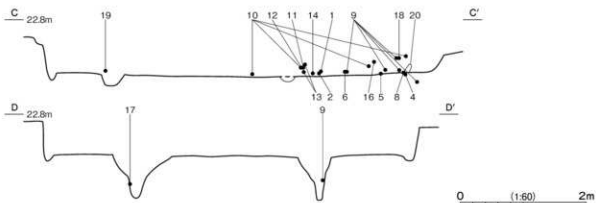
**床** 平坦で、硬化していない。壁溝が全周している。

**竈** 北西壁中央部やや西寄りに位置している。規模は、焚口部から煙道部まで134cmで、燃焼部幅は54cmである。竈は地山を床面から10cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや砂質粘土を含む第16層を埋土して整地している。支脚は竈の中央部で確認し、整地時に設置されている。袖部は、整地面の上に砂質粘土を主体とした第15層を積み上げて構築しており、袖部の内側は、被熱により赤変している。火床部は、床面とほぼ同じ高さである。火床面は第16層上面で、被熱により深さ3cmほどの範囲が赤変しているが、硬化していない。煙道部は壁外に35cmほど張り出し、奥壁で直立している。

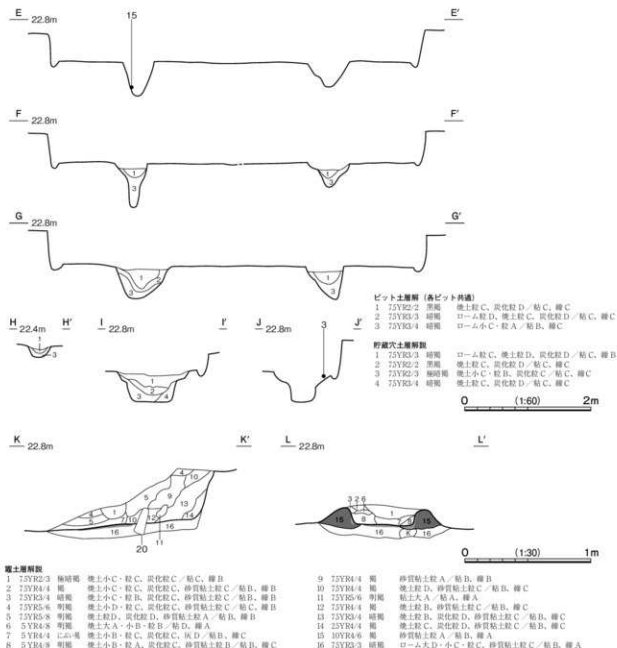


土層解説

1	TSYK3-3	埴層	ロ-ム小C・粘B / 粘B, 雜B	10	TSYK2-3	埴層	ロ-ム小C・粘B / 粘C, 雜C
2	TSYK2-2	埴層	ロ-ム小C・粘C / 粘B, 雜B	11	TSYK3-4	埴層	ロ-ム小C・粘B / 粘C, 雜C
3	30YK2-3	赤層	ロ-ム小D・粘D / 粘B, 雜C	12	TSYK2-3	埴層	ロ-ム小B・粘A / 粘C, 雜C
4	30YK2-3	赤層	ロ-ム小D・粘C / 粘B, 雜C	13	TSYK3-3	埴層	ロ-ム小C・粘A / 粘B, 雜B
5	TSYK2-3	埴層	ロ-ム小C・粘C / 粘C, 雜C	14	TSYK3-4	埴層	ロ-ム粘A / 粘B, 雜C
6	TSYK4-6	赤層	焼土小C・粘A / 粘C, 雜C	15	TSYK3-3	埴層	ロ-ム小C・粘B / 粘B, 雜C
7	TSYK2-3	埴層	ロ-ム小B・粘C / 粘C, 雜C	16	TSYK3-4	埴層	ロ-ム小B・粘C / 粘B, 雜C
8	TSYK2-3	埴層	ロ-ム小C・粘C, 焼土粘C, 炭化粘D / 粘C, 雜C	17	5YK4-8	赤層	ロ-ム粘C, 焼土粘A / 粘B, 雜B
9	TSYK3-4	埴層	焼土粘C, ロ-ム小C・粘B / 粘C, 雜C	18	TSYK4-6	埴層	ロ-ム粘B / 粘B, 雜B



第 18 図 第 2 号堅穴建物跡実測図 1)



第19図 第2号竪穴建物跡実測図(2)

ピット 5か所。P1～P4は、深さ40～68cmで、配置から主柱穴である。P5は、深さ17cmで、竈と対峙する位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。各ピットとも上部が漏斗状に広がっており、覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸116cm、短軸88cmの隅丸長方形で、上部に段を有している。深さは45cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。4層に分層でき、覆土に焼土や炭化物を多く含む不自然な状況から、人為堆積である。

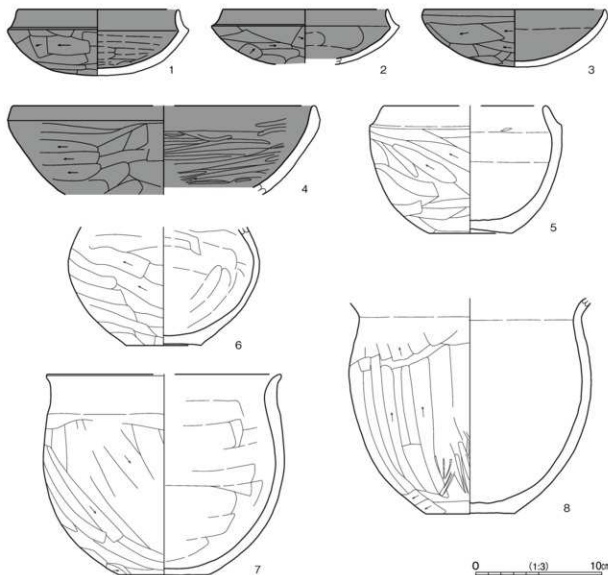
覆土 18層に分層できる。第1～4層は、黒褐色土を主体とし、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第5層以下は、出土土器片の接合が確認されており、短期間に埋まっている。また、焼土粒子を



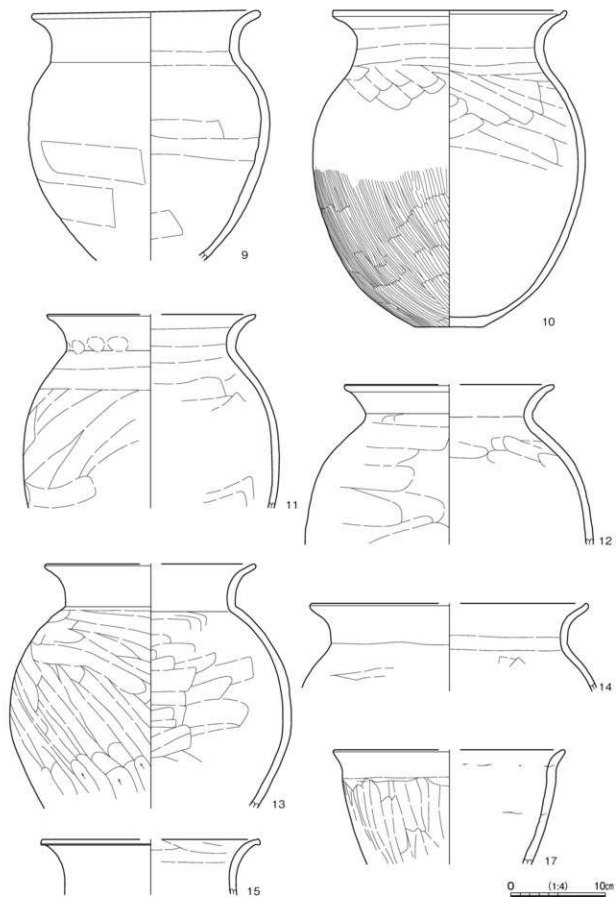
多量に含む第6層からは、炭化材や炭化物の含有が無く、埋める際に投げ込まれたものと考えられ、第5層以下は人為堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片 385点(坏46、鉢24、甕308、瓶7)、土製品1点(支脚)が出土している。遺物は、竈周辺から中央部にかけての覆土中で多く出土している。1は東壁際の覆土下層から正位で出土している。3は貯蔵穴の覆土上層から、5は竈の右袖横の床面から、それぞれ斜位で出土している。6は西壁寄りの覆土下層から破砕した状態で出土している。8は竈の右袖横から逆位の状態で出土している。10は竈周辺の覆土中層と上層及び中央部の覆土下層から、9は竈周辺の覆土下層と中層及びP4の覆土中層から、それぞれ出土した破片が接合している。20は煙道部側にやや傾いて、竈火床部に下部を埋設した状態で出土している。また、焼土塊が壁際の床面直上から出土している。

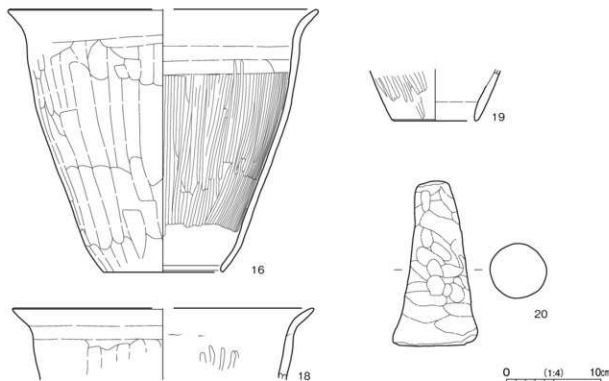
**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。壁際の床面直上に焼土塊が堆積している状況から、廃絶時に建物などを焼却した可能性がある。



第20図 第2号堅穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 21 图 第 2 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第22図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第7表 第2号竪穴建物跡出土遺物一覧(第20～22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	126	5.3	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	90% PL12
2	土師器	坏	130	(4.4)	-	長石・石英	赤褐色	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	40% PL12
3	土師器	坏	144	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	野崎穴 覆土上層	80% PL12
4	土師器	坏	[239]	(7.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	床面	20%
5	土師器	鉢	[128]	10.1	6.5	長石・石英	橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	床面	70% PL12
6	土師器	鉢	-	(9.4)	6.0	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	50%
7	土師器	甕	[185]	15.9	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	40%
8	土師器	甕	-	(17.1)	7.0	長石・石英	橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	床面	60%
9	土師器	甕	235	(26.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	P4 覆土中層 覆土下・中層	80% PL12
10	土師器	甕	246	33.5	7.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下・上層	70%
11	土師器	甕	[219]	(20.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	20%
12	土師器	甕	[219]	(16.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	20%
13	土師器	甕	[220]	(25.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下・中層	30%
14	土師器	甕	[290]	(9.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	5%
15	土師器	甕	[228]	(5.9)	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	P2 覆土下層	5%
16	土師器	瓶	[324]	27.8	12.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土中層	40% PL12
17	土師器	瓶	[244]	(12.1)	-	長石・石英・赤色粒子・灰状物質	橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	P3 覆土中層	10%
18	土師器	瓶	[316]	(7.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土上層	5%
19	土師器	瓶	-	(5.4)	[8.4]	長石・石英・赤色粒子・灰状物質	橙	普通	口縁部内外面横ナデ ナデ 体部外面ヘラ削り 内面	覆土下層	5%

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
20	支脚	3.2	9.0	17.4	840.75	長石・石英	橙	円錐状 両端部平坦 外面指頭による整形	覆土床面	PL12

### 第3号竪穴建物跡(第23～25図 第8表 PL 6・13)

**位置** 調査区北部のK 9e1区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長軸9.24m、短軸9.08mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁は高さ40～58cmで直立している。

**床** はほぼ平坦で、硬化していない。壁溝がほぼ全周している。

**竈** 北壁中央部に位置している。規模は、焚口部から煙道部まで171cmで、燃焼部幅は70cmである。竈は地山を床面から10cmほど掘りくぼめ、砂質粘土を含む第14層を埋土して整地している。袖部は、整地面上に粗砂質粘土の第12層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は被熱により、深さ3cmほどの範囲が赤変しているが、硬化していない。砂質粘土を含む第11層は、締まりが強く天井部が残存していると考えられる。煙道部は壁外に48cmほど張り出し、奥壁で外傾している。

**ピット** 5か所。P1～P4は、深さ42～76cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ27cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。上部が漏斗状に広がっており、覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

**貯蔵穴** 北東コーナーからやや竈寄りに位置している。長軸111cm、短軸90cmの長方形で、深さ57cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。覆土は6層に分層でき、ローム粒子や焼土ブロックを含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

**覆土** 16層に分層できる。第1～3層は、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第4層以下は、出土した土器片が接合しており、短期間に埋まっていることから人為堆積である。

**遺物出土状況** 土器片620点(坏130、甕486、甕3、ミニチュア土器1)、須恵器片3点(隠)、土製品5点(土玉4、支脚1)、鉄製品2点(鐵)が出土している。ほか、混入した縄文時代の石器1点が出土している。土器は、壁際の覆土上層から下層にかけて多く出土している。1・2は逆位で、それぞれ南壁際と西壁際の床面から、3・4は斜位で貯蔵穴の覆土上層から出土している。9は南壁際覆土下層から逆位で、13は南壁際床面から横位で出土している。15・18は東壁寄りの覆土下層、17は南壁際覆土下層から、19は南東部の覆土上層から、20はP4の覆土下層から、それぞれ出土している。5は床面と覆土中層、6は南壁寄りの西部床面と東部覆土下層から、12は北東コーナー寄りの床面と覆土下層から中層にかけて、14は北東コーナーの覆土中層と南壁寄りの覆土下層から、それぞれ出土した破片が接合している。また、焼土塊が西壁際と北東コーナー付近の壁際床面から出土している。

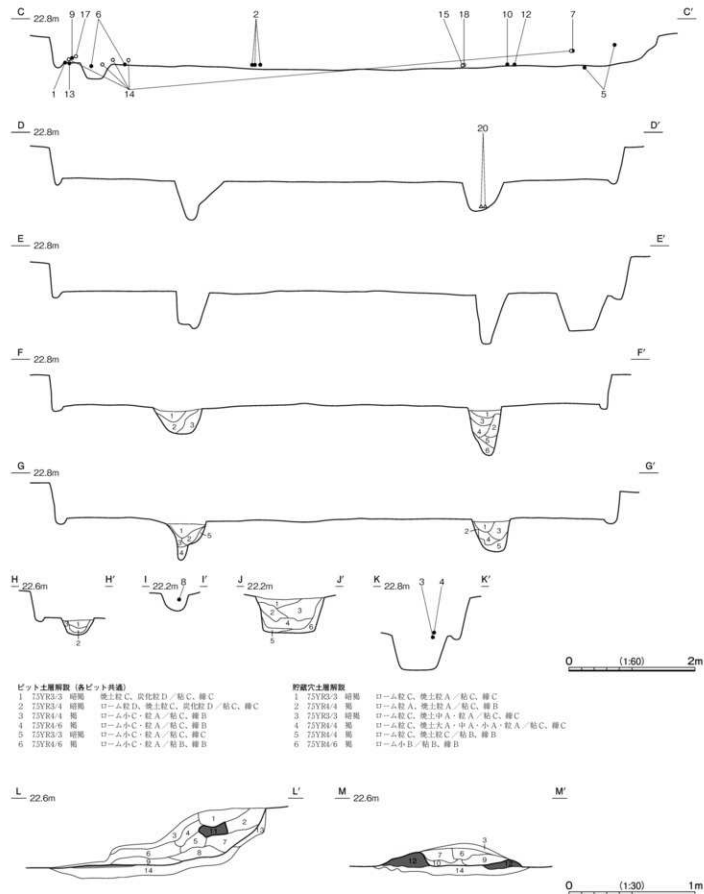
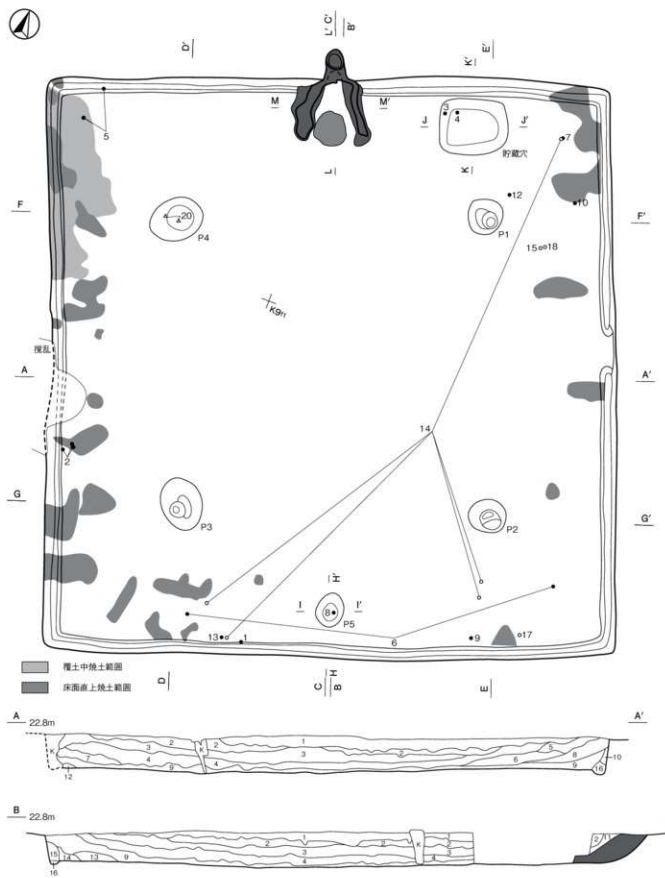
**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。床面の焼土塊から、廃絶時に建物などを焼却した可能性がある。また、頭部を打ち欠いた甕や同一個体の破片が散在している状況に加え、ミニチュア土器や土玉などが出土しており、建物廃絶に伴う祭祀と推測できる。

#### 壁土層解説

1	10YR3/3	暗褐色	ローム粒C、焼土粒D、砂質粘土粒D/粘B、雜土	8	7.5YR3/4	暗褐色	焼土中D・小B・粒B、砂質粘土小D/粘C、雜C
2	7.5YR3/4	暗褐色	焼土小D・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒D/粘B、雜土	9	7.5YR3/4	暗褐色	焼土小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜土
3	7.5YR4/4	褐色	焼土小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜土	10	5YR3/6	暗褐色	焼土小B・粒A、砂質粘土粒B/粘B、雜土
4	7.5YR4/4	暗褐色	焼土粒D、砂質粘土粒A/粘B、雜土	11	7.5YR4/4	褐色	砂質粘土大A・粘A、雜A
5	10YR3/4	暗褐色	焼土小C・粒B、砂質粘土粒D/粘B、雜C	12	7.5YR3/4	暗褐色	焼土中D・粒D、砂質粘土大A・粘A、雜A
6	7.5YR3/4	暗褐色	焼土小D・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜土	13	5YR3/2	暗褐色	ローム中C、砂質粘土D/粘B、雜B
7	5YR3/2	暗褐色	焼土小D・粒B、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜土	14	7.5YR4/4	褐色	ローム粒C、焼土小C・粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜土

#### 土層解説

1	7.5YR3/2	黄褐色	ローム粒C、雜砂C/粘C、雜土	9	7.5YR3/2	黄褐色	ローム小B・粒B/粘C、雜C
2	10YR2/2	黄褐色	ローム粒C/粘B、雜C	10	7.5YR4/4	暗褐色	ローム小C・粒A/粘B、雜C
3	10YR2/1	黄褐色	ローム粒D/粘B、雜C	11	7.5YR4/4	暗褐色	ローム粒C、砂質粘土粒C/粘A、雜土
4	10YR2/3	黄褐色	ローム小D・粒C/粘B、雜C	12	7.5YR3/4	暗褐色	ローム小C・粒B/粘B、雜土
5	10YR2/3	黄褐色	ローム粒D/粘C、雜C	13	7.5YR3/4	暗褐色	ローム小C・粒B/粘B、雜土
6	7.5YR3/2	黄褐色	ローム小C・粒C/粘C、雜C	14	7.5YR3/4	暗褐色	ローム小C・粒B/粘B、雜土
7	10YR2/3	黄褐色	ローム粒C/粘C、雜C	15	7.5YR4/4	暗褐色	ローム小C・粒B/粘B、雜土
8	2.5YR3/2	黄褐色	ローム小C・粒C/粘C、雜C	16	7.5YR2/3	暗褐色	ローム小C・粒B/粘B、雜土



ピット土層相図 (赤ピット共通)

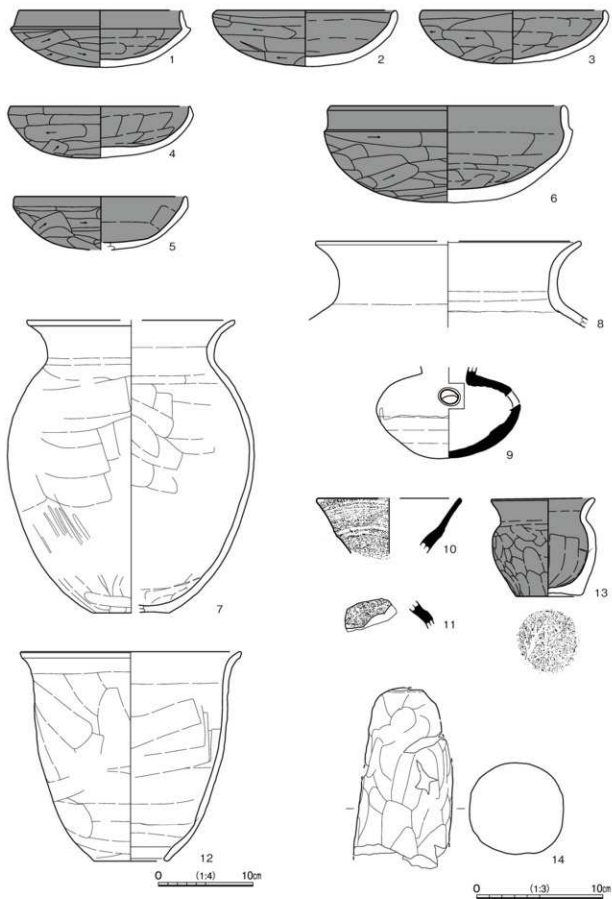
- 1 25YR3/3 細砂 焼土粒C、炭化粒D、粘C、練C
- 2 25YR3/4 細砂 ローム粒A、焼土粒C、炭化粒D、粘C、練C
- 3 25YR4/4 細砂 ローム粒A、焼土粒A、粘C、練B
- 4 25YR4/4 粘 ローム小C・粘A、粘C、練B
- 5 25YR3/3 細砂 ローム小C・粘A、粘C、練C
- 6 25YR4/4 粘 ローム小C・粘A、粘B、練B

貯蔵穴土層相図

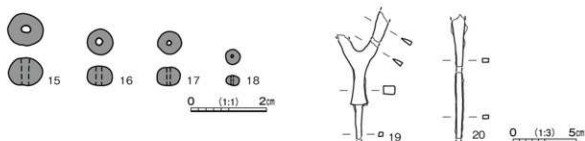
- 1 25YR3/3 細砂 ローム粒C、焼土粒A、粘C、練C
- 2 25YR4/4 粘 ローム粒A、焼土粒A、粘C、練B
- 3 25YR3/3 細砂 ローム粒C、焼土粒A、粘C、練C
- 4 25YR4/4 粘 ローム粒C、焼土粒A、ローム小A・粘A、粘C、練C
- 5 25YR4/4 粘 ローム粒C、焼土粒C、粘B、練B
- 6 25YR4/6 粘 ローム小B、粘B、練B

第23図 第3号貯穴建物跡実測図





第24图 第3号竖穴建物跡出土物実測図(1)



第25図 第3号建物跡出土遺物実測図(2)

第8表 第3号竪穴建物跡出土遺物一覧(第24・25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土脚器	坏	128	4.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面	90% PL13	
2	土脚器	坏	141	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面	95% PL13	
3	土脚器	坏	144	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	貯蔵穴 覆土上層	90% PL13	
4	土脚器	坏	142	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	黒黒	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	貯蔵穴 覆土上層	80% PL13	
5	土脚器	坏	135	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子	黒黒	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土中層・床面	60%	
6	土脚器	坏	185	7.8	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	床面・覆土下層	70% PL13	
7	土脚器	罍	[220]	31.0	8.0	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面上半ヘラナデ 下半ヘラナデ 内面ヘラナデ	覆土上層・床面	20%	
8	土脚器	罍	[209]	(6.7)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ	輪積痕	P5 覆土上層	5%
9	須臾器	盥	-	(7.3)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	ロクロナデ 自然軸	覆土下層	80% PL13	
10	須臾器	盥	[112]	(4.3)	-	長石・石英	灰	普通	頸部1条の横 椀下に櫛歯状工具(5本*)による突起	床面	5%	
11	須臾器	盥	-	(2.2)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部上位櫛歯状工具(3本*)による2条の流状文	覆土下層	5%	
12	土脚器	瓶	232	22.2	[7.8]	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ	床面・覆土下層	70%	
13	土脚器	ミナナフ	80	7.8	5.1	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ヘラナデ 底部木重痕一部ヘラナデ	床面	95% PL13	
番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考		
14	支脚	(3.0)	(7.6)	(14.3)	(525.5)	長石・石英	橙	外面指痕による整形	覆土下層			
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考		
15	土玉	0.91	0.74	0.25	0.61	長石・石英	黒	一方向からの穿孔	覆土下層	PL13		
16	土玉	0.70	0.54	0.15	0.31	長石・石英	黒	一方向からの穿孔	覆土	PL13		
17	土玉	0.61	0.50	0.10	0.20	長石・石英	黒	一方向からの穿孔	覆土下層	PL13		
18	土玉	0.41	0.25	0.05	0.05	長石・石英	黒	一方向からの穿孔	覆土下層	PL13		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考			
19	鏝	鏝身(3.3) 刃先(2.4)	(3.1) (1.2)	0.4 (0.3)	(12.85) (1.86)	鉄	刃先端部欠損 鏝身部一部欠損 櫛歯式	覆土上層	PL13			
20	鏝	上部(4.1) 下部(5.2)	(1.2) (0.7)	0.3	(3.12) (2.61)	鉄	刃先端部欠損 鏝身部一部欠損 一部欠損	P4 覆土下層	PL13			

第4号竪穴建物跡(第26～30図 第9表 PL6・7・14・15)

位置 調査区北部のI 8 0区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

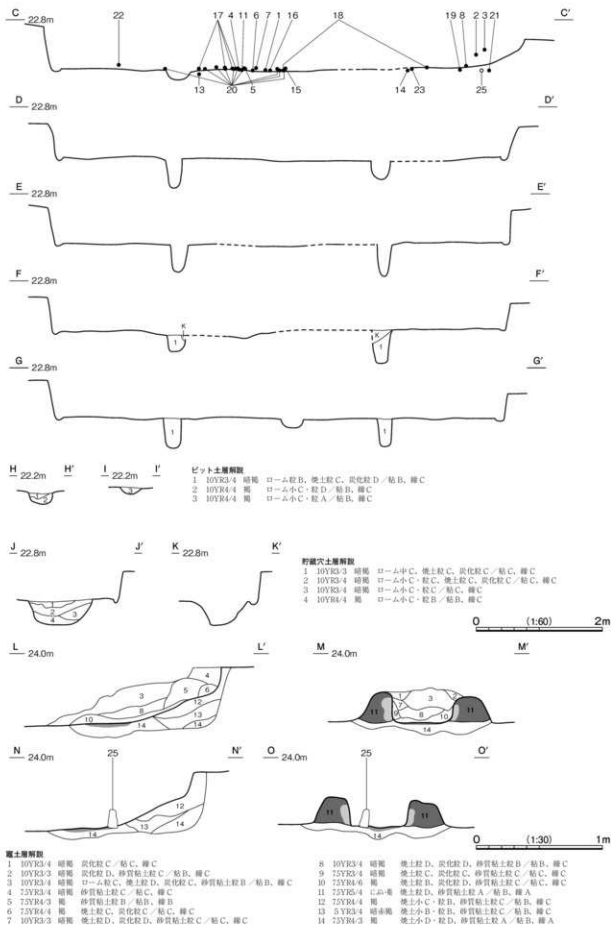
規模と形状 長軸7.48m、短軸7.35mの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁は高さ40～60cmで、直立している。

床 はほぼ平坦で、硬化していない。壁溝が全周している。

竈 北壁の中央部に位置している。規模は、焚口部から煙道部まで134cmで、燃焼部幅は45cmである。竈は地山を床面から10cmほど掘りくぼめ、支脚を燃焼部の中央部やや西寄り設置し、砂質粘土を含む第14層を埋







第27図 第4号竪穴建物跡実測図(2)

土して整地している。袖部は、整地面の上に砂質粘土を主体とした第11層を積み上げて構築しており、内側は被熱により赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変しているが、硬化していない。煙道部は壁外に30cmほど張り出し、奥壁で外傾している。

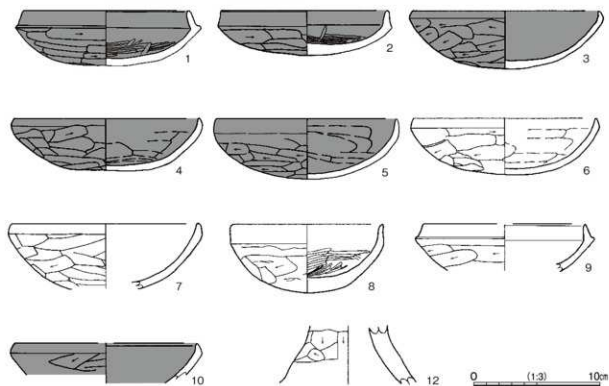
**ピット** 6か所。P1～P4は、深さ30～50cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ20cmで、竈と対峙する位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。いずれも柱抜き取り後の流入土である。P6は建物跡東部に位置し、深さは10cmで、性格は不明である。

**貯蔵穴** 北東コーナー部に位置している。長径100cm、短径90cmの不整隅丸長方形で、深さ38cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。覆土は4層に分層でき、ロームブロックや焼土粒子を含むことから、人為堆積である。

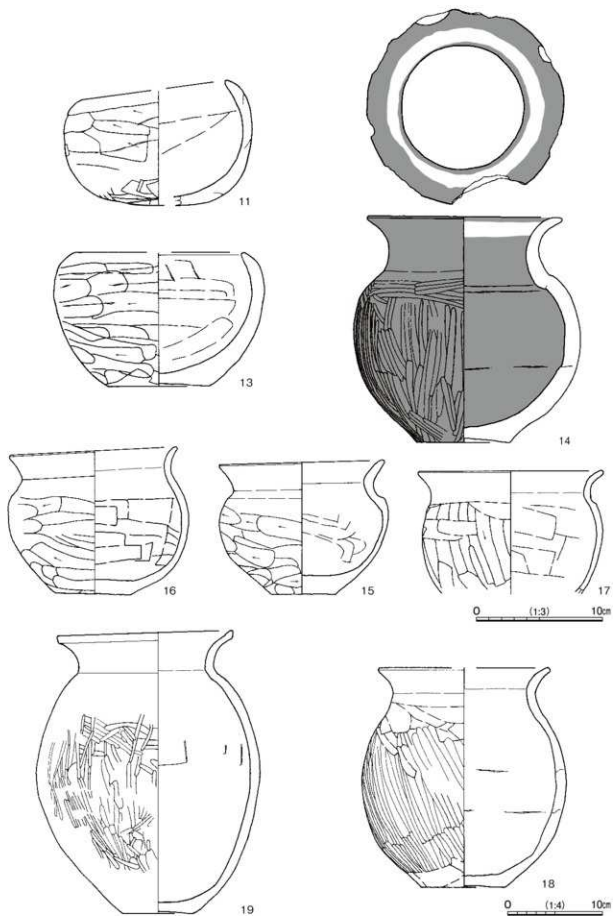
**覆土** 28層に分層できる。第1～5層は黒褐色・暗褐色土で、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第6層は焼土粒子を多量に含むが、炭化材や炭化物の含有はなく、埋め戻しによるものと考えられ、第7層以下は、ロームブロックを含み、不規則な堆積状況を呈することから、人為堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片462点(坏233、碗10、高坏1、鉢1、甕215、瓶2)、土製品3点(勾玉1、支脚2)が出土している。1・4～7・16は中央部の床面から正位で、11・15は中央部やや東寄りの覆土下層から、それぞれ逆位で出土している。2・3は北壁寄りの覆土中層から斜位で、14・23はP1付近の床面から、それぞれ横位で出土している。14の口縁部には、23の下端部によるものと推定される擦痕が認められ、組み合わせて用いられていた可能性がある。8・19は竈の火床面から、25は竈の火床部のやや西寄りに下部を埋設した状態で、13はP6の覆土下層から、24は南東部覆土中層から、それぞれ出土している。また、南部の床面からは、焼土・粘土塊と炭化物が出土している。

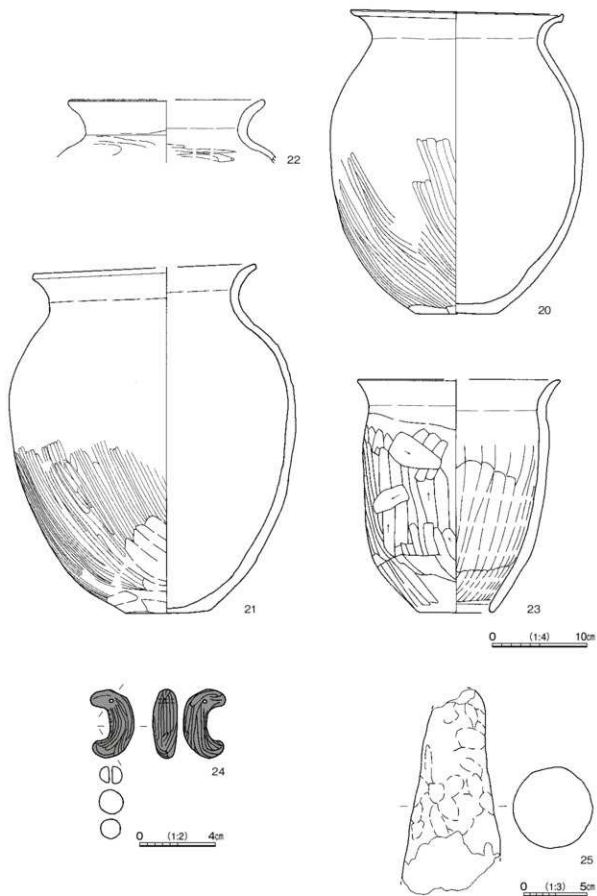
**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。焼土・粘土塊と炭化物が出土していることから、廃絶時に建物などを焼却した可能性がある。



第28図 第4号堅穴建物跡出土遺物実測図(1)



第29图 第4号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第30图 第4号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)

第9表 第4号竪穴建物跡出土土物一覧(第28～30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	130	4.4	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り	床面	95% PL14
2	土師器	坏	132	3.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り	覆土中層	95% PL14
3	土師器	坏	148	4.6	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り	覆土中層	95% PL14
4	土師器	坏	145	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り	床面	90% PL14
5	土師器	坏	143	4.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り	床面	80% PL14
6	土師器	坏	146	4.5	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り	床面	80% PL14
7	土師器	坏	148	(5.2)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り	床面	50%
8	土師器	坏	120	5.5	-	長石・石英・針状物質	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 輪縁部 内面ナデ 側壁摩擦 底部へう張り	竈火床面	100% PL14
9	土師器	坏 [128]	(3.7)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面ナデ	覆土下層	10%	
10	土師器	坏 [145]	(3.2)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面ナデ	覆土下層	5%	
11	土師器	柄	[11.4]	10.0	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 輪縁部 内面ナデ 側壁摩擦 底部へう張り	覆土下層	90% PL14
12	土師器	高坏	-	(4.7)	-	長石・石英	明赤褐	普通	脚部下端横ナデ 脚部外面へう張り 内面ナデ	覆土下層	5%
13	土師器	鉢	[13.4]	10.6	8.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 輪縁部 内面へう張り 底部へう張り	P 6 覆土下層	60% PL14
14	土師器	甕	15.1	17.9	7.3	長石・石英・赤色粒子・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 内面縦設置による樽通気 体部外面へう張り 内面ナデ 底部へう張り	床面	90% PL14
15	土師器	甕	12.8	10.7	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り 底部へう張り	覆土下層	90%
16	土師器	甕	13.2	11.8	5.9	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り 底部へう張り	床面	80% PL15
17	土師器	甕	14.5	(9.8)	-	長石・石英・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 後横位へのナデ 内面へう張り	基面～覆土下層	60%
18	土師器	甕 [18.0]	23.3	8.8	7.5	長石・石英	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 底部へう張り 下部ナデ 内面ナデ 側壁・側壁摩擦 底部ナデ	床面	50%
19	土師器	甕	18.5	30.0	7.5	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り 底部へう張り	竈火床面	70% PL15
20	土師器	甕	22.4	32.1	8.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面ナデ 底部へう張り	基面～覆土上層	70% PL15
21	土師器	甕 [23.5]	36.9	8.7	8.7	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 下部へう張り 内面ナデ 底部へう張り	床面	80% PL15
22	土師器	甕 [20.3]	(6.7)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 底部外面へう張り 内面へう張り	床面・覆土上層	10%	
23	土師器	瓶	[21.2]	24.7	8.0	長石・石英・赤色粒子・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう張り 内面へう張り	床面	80% PL15

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
24	勾玉	3.6	2.3	1.3	7.82	長石・石英	にぶい褐	孔径0.2cm 一方向からの穿孔 全面磨き	覆土中層	PL15

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
25	支脚	(3.4)	(7.8)	(16.3)	(46.8)	長石・石英	明赤褐	外面指摺による整形	竈火床面	

## 第5号竪穴建物跡(第31～34図 第10表 PL 7・16)

位置 調査区南部のT 9a区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

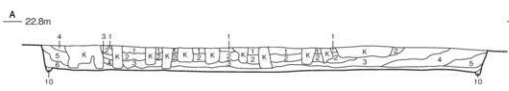
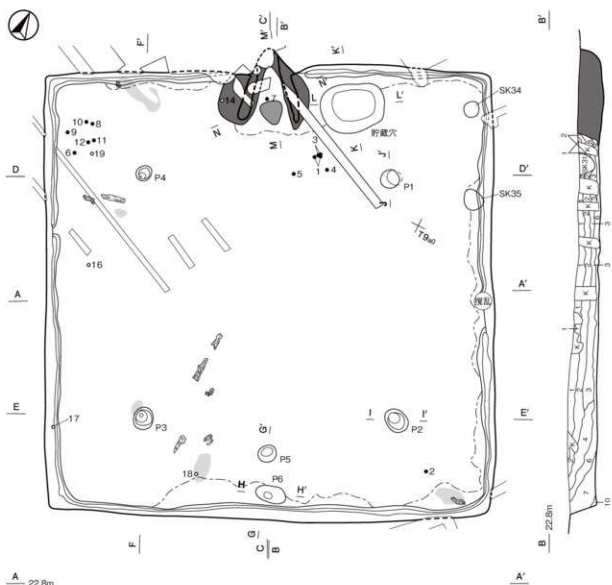
重複関係 第31・32・34・35号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.26m、短軸7.16mの方形で、主軸方向はN-27°-Wである。壁は高さ28～44cmで、直立している。

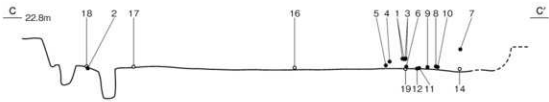
床 はほぼ平坦で、壁溝がほぼ全周している。全面が硬化しており、特に南部の出入口付近は、強く硬化している。

竈 北壁の中央部に位置している。煙道部が覆乱を受けているため、確認できた規模は、竈口部から残存している煙道部まで126cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は、地山の上に砂質粘土を含む第9～12層を積み上げて構築しており、内側は被熱により赤変硬化している。火床部は、床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。確認できた煙道部は、壁外に35cmほど張り出し、奥壁で外傾している。

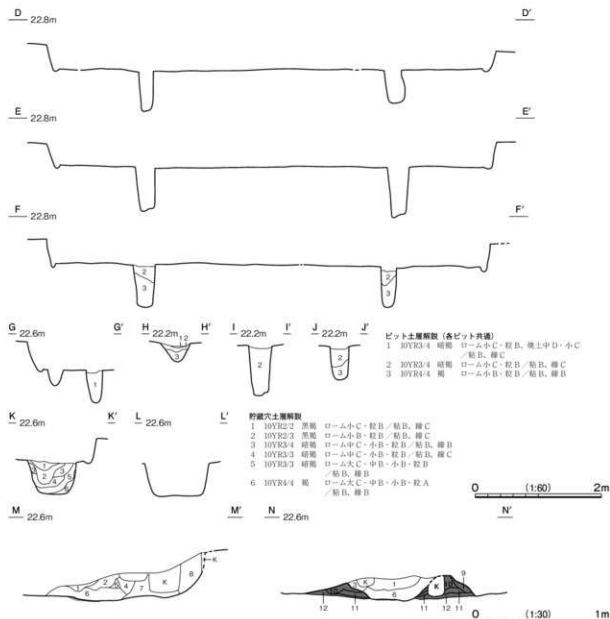
ピット 6か所。P 1～P 4は、深さ55～78cmで、配置から主柱穴である。P 5・P 6は、深さ50・30cmで、



- 土層解説
- |              |                      |                |                      |
|--------------|----------------------|----------------|----------------------|
| 1 10YR23 黒地  | ローム小C・柱B/柱B、柱C       | 6 10YR4-6 地    | ローム大B・中B・小A・柱A/柱C、柱B |
| 2 10YR22 赤地  | ローム小B・柱B/柱C、柱C       | 7 10YR4-6 地    | ローム大B・中A・小A・柱A/柱B、柱C |
| 3 10YR23 暗褐色 | ローム中C・小B・柱B/柱B、柱C    | 8 10YR3-4 暗褐色  | ローム中C・小C・柱B/柱B、柱B    |
| 4 10YR14 地   | ローム大C・中B・小B・柱A/柱C、柱B | 9 10YR4-4 地    | ローム中C・小B・柱B/柱C、柱B    |
| 5 10YR4-6 地  | ローム大C・中B・中A・柱A/柱B、柱B | 10 10YR5-6 黄褐色 | ローム大B・中A・小A・柱A/柱B、柱B |



第31図 第5号竪穴建物跡実測図(1)



**ピット土層解説 (各ピット共通)**

1	10YR3/4 暗褐色	ローム小C・粒B、焼土中D・小C / 粒B、雜C
2	10YR3/4 暗褐色	ローム小C・粒B / 粒B、雜C
3	10YR4/4 暗褐色	ローム小B・粒B / 粒B、雜B

**貯蔵穴土層解説**

1	10YR2/2 黒褐色	ローム小C・粒B / 粒B、雜C
2	10YR2/3 黒褐色	ローム小B・粒B / 粒B、雜C
3	10YR3/4 暗褐色	ローム中C・小B・粒B / 粒B、雜B
4	10YR3/3 暗褐色	ローム中C・小B・粒B / 粒B、雜C
5	10YR3/3 暗褐色	ローム大C・中B・小B・粒B / 粒B、雜B
6	10YR4/4 暗褐色	ローム大C・中B・小B・粒A / 粒B、雜B

**覆土層解説**

1	10YR4/4 暗褐色	ローム粒C、焼土小D・粒D、炭化粒D、砂質粘土小C・粒C / 粘C、雜B
2	10YR4/6 暗褐色	ローム小C・粒C、焼土粒B、砂質粘土小C・粒C / 粘B、雜B
3	7.5YR5/3 暗褐色	焼土小C・粒A、炭化粒C、砂質粘土小C・粒B / 粘C、雜B
4	7.5YR3/4 暗褐色	ローム粒C、焼土粒D、砂質粘土小B・粒A / 粘B、雜B
5	7.5YR4/6 暗褐色	ローム粒C、焼土小C・粒C、砂質粘土小C・粒C / 粘B、雜B
6	7.5YR5/8 暗褐色	焼土小B・粒A、炭化粒B、砂質粘土小B・粒B / 粘B、雜C
7	7.5YR4/6 暗褐色	焼土粒A、炭化物C・粒C、砂質粘土小D・粒C / 粘C、雜B
8	7.5YR3/4 暗褐色	ローム小C・粒C、焼土中C・小B・粒A、炭化物C・粒B、砂質粘土小D・粒C / 粘B、雜B
9	10YR7/6 暗褐色	ローム小C・粒C、焼土中C・小B・粒B、砂質粘土小A・粒A / 粘C、雜C
10	10YR5/3 暗褐色	焼土小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土小A・粒A / 粘C、雜A
11	10YR4/3 暗褐色	焼土粒B、砂質粘土小A・粒A / 粘C、雜C
12	10YR4/6 暗褐色	ローム小C・粒C、焼土小C・粒B、砂質粘土小B・粒B / 粘B、雜B

第 32 図 第 5 号竪穴建物跡実測図(2)

竈と対峙する位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土はいずれも、柱抜き取り後の流入土と考えられる。

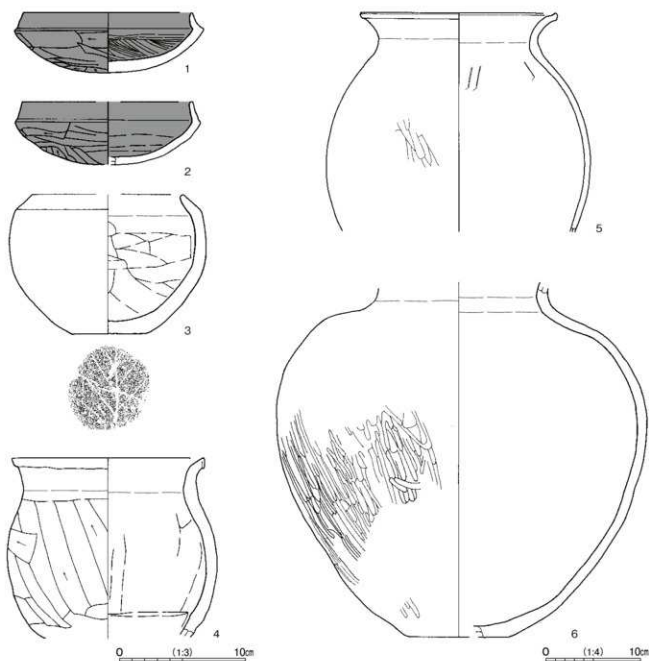
**貯蔵穴** 北壁際の竈右袖寄りに位置している。長径 102cm、短径 78cm の隅丸長方形で、深さ 50cm である。底面は平坦で、壁は外傾している。覆土は 6 層に分層でき、ロームブロックを含むことから、人為堆積である。

**覆土** 10 層に分層できる。第 1～3 層は黒褐色土と暗褐色土で、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第 4～10 層は、ローム粒子やロームブロックを多量に含むことから、人為堆積である。

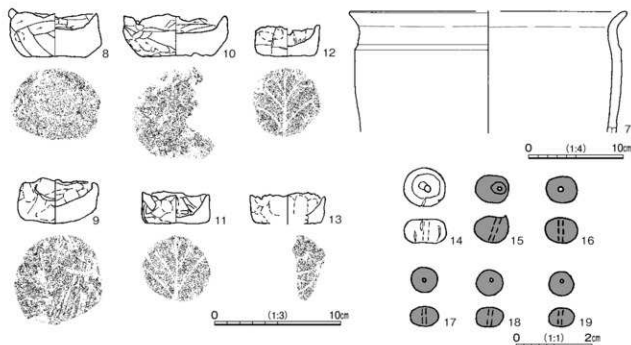


**遺物出土状況** 土師器片 340点(坏34、碗2、甕288、瓶9、手捏7)、土製品6点(土玉)が出土している。遺物は、主に竈周辺の覆土から出土しており、1・3は竈前面の覆土中層から、4・5は覆土下層から、それぞれ出土している。6は北西コーナー部の床面から横位で出土しており、その周囲から8～12がまとまって出土している。14は竈左袖上から、16・17は西壁際、18は南壁際の床面から、15は南西部の覆土下層から、それぞれ出土している。また、焼土塊や炭化材が、北壁の西部と東壁寄り的一部、南壁寄りの床面に散在した状態で出土している。

**所見** 時期は、出土遺物から6世紀後半と考えられる。床面から焼土塊や炭化材が出土していることから、廃絶時に建物などを焼却した後に、土玉や手捏土器を使用した祭祀が行われた可能性がある。



第33図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第34図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第10表 第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(第33・34図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	134	48	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう割り 内面へう割り	覆土中層	80% PL16
2	土師器	坏	[134]	(5.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう割り 内面へう割り	床面	40%
3	土師器	碗	[120]	11.1	6.0	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面摩滅 内面へう割り	覆土中層	60%
4	土師器	羹	15.2	(14.3)	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう割り 内面へう割り	覆土下層	70% PL16
5	土師器	羹	20.7	(23.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう割り 内面へう割り	覆土下層	50%
6	土師器	羹	-	(37.7)	11.0	長石・石英	明黄褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面へう割り 内面へう割り	床面	70% PL16
7	土師器	瓶	[29.0]	(12.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部内外面ナデ	覆土上層	5%
8	土師器	手控	6.7	3.8	5.0	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	内外面指痕による成形後へう割り	床面	100% PL16
9	土師器	手控	5.5	3.6	5.0	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外面へう割り 体部外面へう割り 指痕によるナデ 底部本業痕	床面	90% PL16
10	土師器	手控	[8.0]	(3.3)	[5.8]	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内外面へう割り 体部外面へう割り 指痕によるナデ 底部本業痕	床面	80% PL16
11	土師器	手控	5.4	2.5	4.8	長石・石英	明赤褐	普通	外面へう割り 指痕によるナデ 内面指痕によるナデ 工具痕 底部本業痕	床面	100% PL16
12	土師器	手控	5.0	2.5	4.4	長石・石英	褐	普通	外面指痕によるナデ 内面指痕によるナデ 工具痕 底部本業痕	床面	100% PL16
13	土師器	手控	[5.8]	2.5	[5.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内外面指痕によるナデ 底部本業痕	覆土中層	50% PL16

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	土玉	1.0~1.1	0.7	0.2	0.79	長石・石英	明赤褐	一方からの穿孔 全面磨き	甕軸上	PL16
15	土玉	0.7~0.9	0.8	0.1	0.50	長石・石英	黒褐	一方からの穿孔 全面磨き	覆土下層	PL16
16	土玉	0.8~0.9	0.7	0.1	0.48	長石・石英	黒褐	一方からの穿孔 全面磨き	床面	PL16
17	土玉	0.7	0.5	0.1	0.32	長石・石英	黒	一方からの穿孔 全面磨き	床面	PL16
18	土玉	0.7	0.5	0.1	0.30	長石・石英	黒	一方からの穿孔 全面磨き	床面	PL16
19	土玉	0.6~0.7	0.5	0.1	0.25	長石・石英	黒褐	一方からの穿孔 全面磨き	床面	PL16

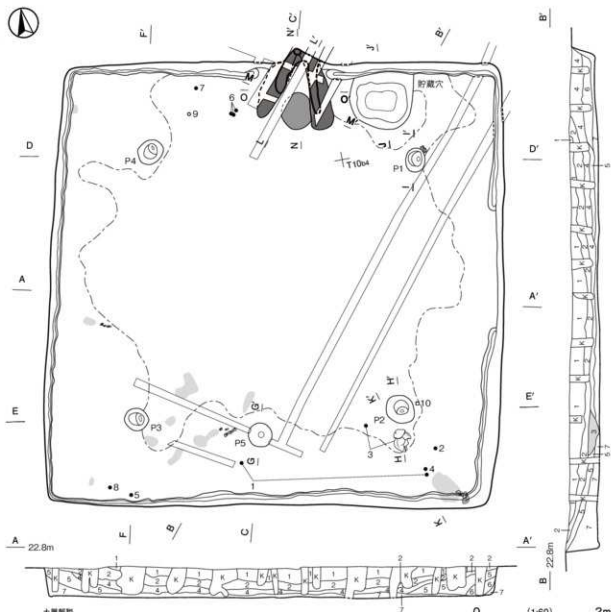
第6号竪穴建物跡 (第35～38図 第11表 PL 8・16・17)

位置 調査区南部のT10b3区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 一辺7.20mの方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁は、高さ35～52cmで直立している。

床 平坦で、壁溝が東壁中央部を除いた部分に巡っている。建物の中央部と竈周辺が硬化しており、特に貯蔵穴の周囲は、硬化が強い。

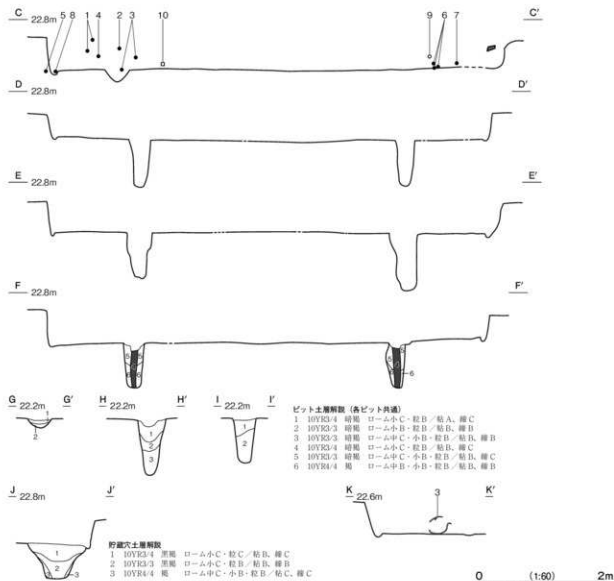
竈 北壁の中央部に位置している。確認できた規模は、焚口部から残存している煙道部まで130cmで、燃焼部幅は60cmである。袖部は、地山の上に砂質粘土を含む第14～16層を積み上げて構築しており、内側は被熱により赤変硬化している。火床部は、床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。砂質粘土を含む第13層は、締まりが強く天井部が残存していると考えられる。確認できた煙道部は、壁外に25cmほど張り出し、



土層解説

- |   |         |     |                                 |
|---|---------|-----|---------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 赤褐色 | ローム小B・粒B/粘B、礫C                  |
| 2 | 10YR2/3 | 赤褐色 | ローム中B・小B・粒A/粘B、礫C               |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム中C・小C・粒B、焼土大C・中B・小B・粒B/粘B、礫B |
| 4 | 10YR2/3 | 赤褐色 | ローム大B・中B・小B・粒A、焼土小C・粒C/粘C、礫C    |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム大B・中B・小B・粒A、焼土小C・粒B/粘B、礫C    |
| 6 | 10YR4/6 | 暗褐色 | ローム大B・中B・小A・粒A/粘B、礫C            |
| 7 | 10YR4/4 | 暗褐色 | ローム大B・中B・小A・粒A/粘C、礫C            |

第35図 第6号竪穴建物跡実測図1)



第36図 第6号堅穴建物跡実測図(2)

奥壁で外傾している。煙道部下にピット状の掘り込みがあるが、性格は不明である。

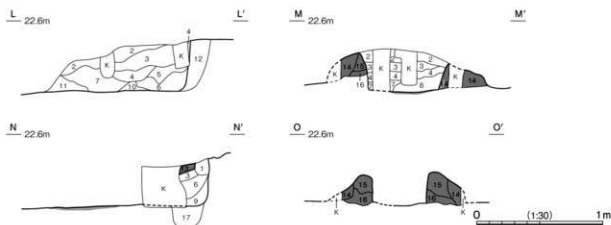
**ピット** 5か所。P1～P4は、深さ70～90cmで、配置から主柱穴である。P5は、深さ20cmで、竈に対峙する位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P3・P4の第4層は柱痕跡、第5・6層は掘方の埋土である。P1・P2・P5の覆土は、柱抜き取り後の流入土と考えられる。

**貯蔵穴** 北壁際の竈右袖寄りに位置している。長径100cm、短径92cmの隅丸長方形で、深さ55cmである。底面は平坦で、壁は外傾し、底面から30cmのところ上部が広がっている。覆土は3層に分層でき、ロームブロックを含むことから、人為堆積である。

**覆土** 7層に分層できる。第1・2層は黒褐色土で、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。なお、第3層は焼土粒子を多量に含むが、炭化材や炭化物の含有はなく、埋め戻しによるものと考えられる。また、第4～7層はロームブロックを多量に含むことから、いずれも人為堆積である。

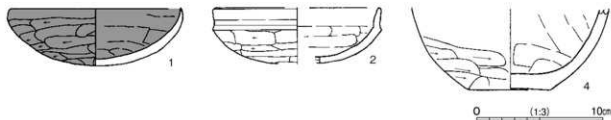
**遺物出土状況** 土師器片 131 点 (坏 50、甕 76、ミニチュア土器 1、手捏 4)、土製品 4 点 (勾玉 1、不明 3)、石器 1 点 (粘板岩砥石) が出土している。土器は、壁際から多く出土している。1 は南東部の覆土中層と南部の覆土上層、3 は南東部の床面と覆土下層、6 は竈左袖西側の床面と覆土下層から出土した破片が、それぞれ接合したものである。5・8 は南壁際床面から正位で、2・4 は南東部の覆土中層から、7・9 は北壁付近の覆土下層から、それぞれ出土している。10 は南東部の覆土下層と南西部の覆土中から出土したものが接合したものであり、使用中に欠損した可能性がある。南東部の覆土下層から出土したものは、欠損部付近を継続して使用していた痕跡が残る。また、焼土塊と炭化物が、北壁東部と北西コーナー部、西壁中央部の際、南壁寄りの床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 6 世紀後半と考えられる。床面から焼土塊と炭化物が出土していることから、廃絶時に建物などを焼却した後に、ミニチュア土器や手捏土器、土製勾玉を使用した祭祀が行われた可能性がある。

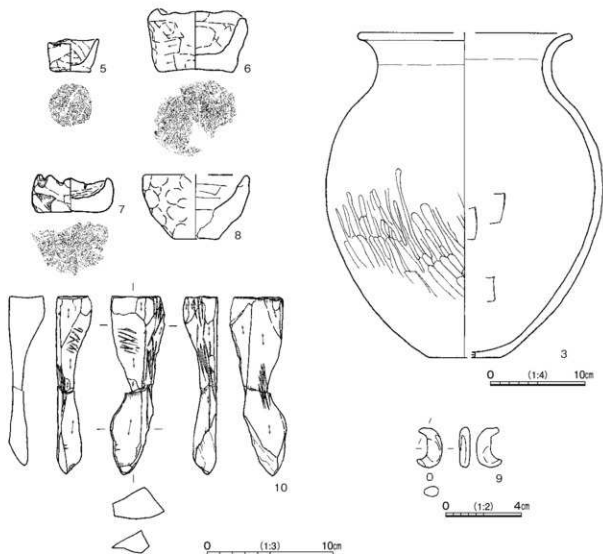


**覆土層解説**

- |    |          |      |   |
|----|----------|------|---|
| 1  | 10YR5/4  | 2a-壊 | ローム小C・粒B、砂質粘土小B・粒B / 粘B、雜B                        |
| 2  | 10YR4/6  | 瓦    | ローム小C・粒B、焼土小C・粒C、砂質粘土小C / 粘B、雜B                   |
| 3  | 10YR5/4  | 2a-壊 | ローム中C・小C・粒B、焼土粒C、砂質粘土小B / 粘C、雜B                   |
| 4  | 10YR5/4  | 2a-壊 | ローム小C・粒C、焼土小C・粒B、炭化物粒C、砂質粘土小B・粒B / 粘B、雜B          |
| 5  | 10YR4/4  | 瓦    | ローム小B・粒B、焼土粒C、炭化物粒C、砂質粘土小B・粒B / 粘B、雜C             |
| 6  | 10YR5/8  | 赤黄   | ローム中C・小B・粒B、焼土中C・小C・粒B、炭化物粒C、砂質粘土中B・小B・粒B / 粘B、雜A |
| 7  | 10YR6/8  | 明黄   | ローム小C・粒B、焼土中B・小B・粒B、炭化物粒C・粒C、砂質粘土中B・小B・粒B / 粘B、雜A |
| 8  | 7.5YR4/4 | 瓦    | 焼土中C・小C・粒B、砂質粘土小C・粒B / 粘B、雜B                      |
| 9  | 10YR4/4  | 瓦    | ローム粒C、炭化物粒C / 粘B、雜B                               |
| 10 | 10YR6/8  | 明黄   | ローム中C・小B・粒B、砂質粘土中B、小A、粒A / 粘B、雜A                  |
| 11 | 10YR4/6  | 瓦    | ローム小B・粒B、炭化物粒C、砂質粘土小D・粒C / 粘B、雜B                  |
| 12 | 7.5YR4/4 | 瓦    | ローム粒C、焼土粒D、砂質粘土中A・小A・粒A / 粘B、雜A                   |
| 13 | 10YR4/4  | 瓦    | 砂質粘土小A・粒A / 粘C、雜A                                 |
| 14 | 10YR5/4  | 2a-壊 | ローム粒B、焼土粒D、砂質粘土小C・粒B / 粘B、雜B                      |
| 15 | 10YR4/6  | 瓦    | 砂質粘土小C・粒B / 粘C、雜B                                 |
| 16 | 10YR4/6  | 瓦    | 焼土粒D、砂質粘土小C・粒A / 粘C、雜B                            |
| 17 | 10YR4/4  | 瓦    | ローム小B・粒B、焼土粒C、炭化物粒C / 粘B、雜C                       |



第 37 図 第 6 号竈穴建物跡・出土遺物実測図



第38図 第6号竖穴建物跡出土遺物実測図

第11表 第6号竖穴建物跡出土遺物一覧(第37・38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.6	4.6	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中～上層	50%
2	土師器	坏	[13.2]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層	30%
3	土師器	甕	[22.2]	34.3	[8.0]	長石・石英	明褐	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面・覆土下層	70% PL17
4	土師器	甕	-	(6.5)	6.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	覆土中層	40%
5	土師器	ミナチュア	4.0	2.7	3.2	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内外面ヘラナデ 底部木葉痕	床面	100% PL16
6	土師器	手捏	7.0	5.0	6.2	長石・石英・赤色鉄子・黒色鉄子	橙	普通	内外面指頭による成形後ヘラ削り 底部木葉痕	床面・覆土下層	80% PL16
7	土師器	手捏	5.4	3.0	5.4	長石・石英・赤色鉄子・黒色鉄子	にぶい赤褐	普通	内外面刷毛状工具による成形後指頭によるナデ 底部ヘラ削り	覆土下層	50%
8	土師器	手捏	[8.0]	5.2	[3.6]	長石・石英・赤色鉄子	にぶい黄褐	普通	体部外面指頭による成形 内面ヘラナデ	床面	30%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
9	勾玉	2.1	1.3	0.5	1.18	長石・石英	明赤褐	穿孔なし 指頭による成形 部分的に磨き		覆土下層	PL17
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
10	砥石	14.2	4.2	2.8	111.75	粘板岩	紙面4面 片方は欠損後も使用		覆土下層	PL17	

第7号竪穴建物跡 (第39～41図 第12表 PL 8・17)

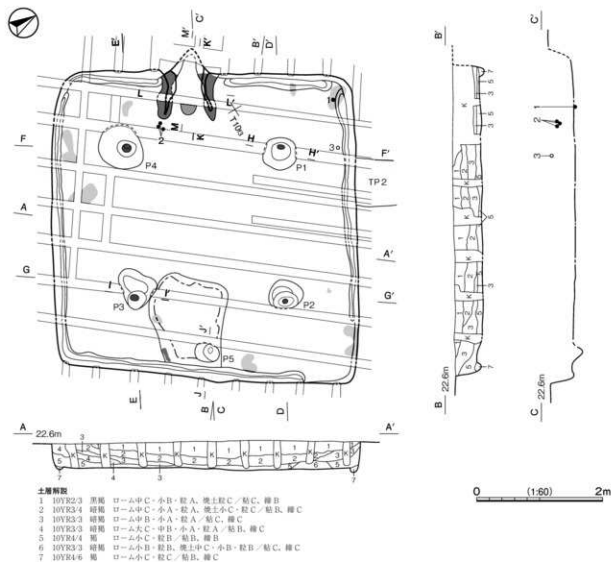
位置 調査区南部のT103区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第2号陥し穴を掘り込んでいる。

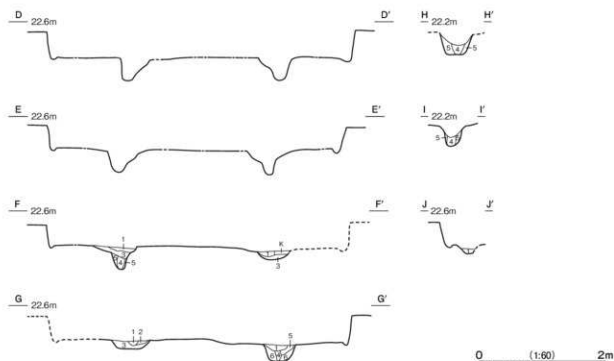
規模と形状 長軸4.89m、短軸4.85mの方形で、主軸方向はN-54°-Wである。壁は、高さ33～45cmで直立している。

床 平坦で、壁溝が北・東・西コーナー部を除いて巡っている。P5付近で、東西約12m、南北約1.0m、高さ3cmほどの高まりが認められ、硬化している。

竈 北西壁中央部のやや南寄りに位置している。確認できた規模は、焚き口から残存している煙道部まで95cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は、地山の上に砂質粘土を含む第10・11層を積み上げて構築しており、内側は被熱により赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変しているが、硬化していない。確認できた煙道部は、壁外に17cmほど張り出し、奥壁で外傾している。煙道部下にピット状の掘り込みがあるが、性格は不明である。

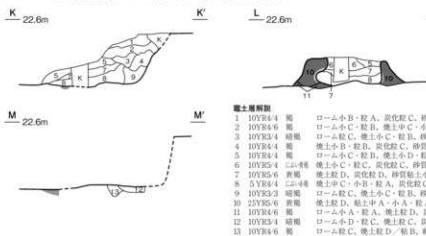


第39図 第7号竪穴建物跡実測図(1)



ピット土層解説 (あびつ共通)

- 1 10YR3-4 暗褐色 rome小C・粒C / 粘土、礫C
- 2 10YR3-4 暗褐色 rome小C・粒B / 粘土、礫C
- 3 10YR3-3 暗褐色 rome中C・小B・粒B、焼土小C・粒B / 粘土、礫C
- 4 10YR3-3 暗褐色 rome中C・小B・粒B / 粘土、礫C
- 5 10YR4-6 黄褐色 rome中B・小B・粒B / 粘土、礫B
- 6 10YR4-4 黄褐色 rome大C・中B・小B・粒B / 粘土、礫A



覆土層解説

- 1 10YR4-4 黄褐色 rome小B・粒A、炭化粒C、砂質粘土小B・粒B / 粘土、礫B
- 2 10YR4-6 黄褐色 rome小C・粒B、焼土中C・小C・粒C、砂質粘土粒B / 粘土、礫A
- 3 10YR3-4 暗褐色 rome粒C、焼土小C・粒B、砂質粘土小B・粒B / 粘土、礫B
- 4 10YR4-4 黄褐色 焼土小B・粒B、炭化粒C、砂質粘土小B・粒B、粘土、礫B
- 5 10YR4-4 黄褐色 rome小C・粒B、焼土小D・粒C、炭化粒B、砂質粘土小D・粒C / 粘土、礫A
- 6 10YR5-4 黄褐色 焼土小C・粒C、炭化粒C、砂質粘土中C・小C・粒B / 粘土、礫A
- 7 10YR5-6 黄褐色 焼土粒D、炭化粒D、砂質粘土小B・粒A / 砂質粘土小B・粒A / 粘土、礫A
- 8 5YR4-4 暗褐色 焼土中C・小B・粒A、炭化粒C、砂質粘土粒C / 粘土、礫B
- 9 10YR3-3 暗褐色 rome粒C、焼土小C・粒B、砂質粘土小B・粒A / 粘土、礫A
- 10 2.5YR5-6 黄褐色 焼土粒D、粘土中A・小A・粒A、粘土、礫A
- 11 10YR4-6 黄褐色 rome小A・粒A、焼土粒D、炭化粒D / 粘土、礫B
- 12 10YR3-4 暗褐色 rome小D・粒C、焼土粒C、炭化粒C / 粘土、礫B
- 13 10YR4-6 黄褐色 rome粒C、焼土粒D / 粘土、礫B

第40図 第7号竪穴建物跡実測図(2)

ピット 5か所。P1～P4は、深さ35～37cmで、配置から主柱穴である。底面で径10～15cmの硬化部分が確認できた。P5は、深さ15cmで、底に対峙する位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。各ピットとも、上部が漏斗状を呈しており、覆土はいずれも柱抜き取り後の流入土である。

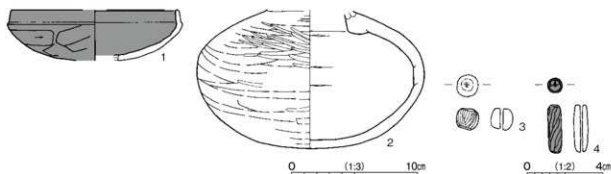
**覆土** 7層に分層できる。第1～2層は黒褐色土と暗褐色土で、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第3～7層はロームブロックを多量に含むことから、人為堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片75点(坏17, 壺1, 甕57)、土製品3点(土玉1, 管玉1, 不明土製品1)が出土している。1は北コーナーの床面の焼土塊から、3は北部の覆土上層、4は覆土下層から、それぞれ出土している。2は北西壁寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。また、焼土塊が壁際床面直上から



散在した状態で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。焼土塊が出土していることから、廃絶時に建物などを焼却した後に、土玉や土製管玉を使用した祭祀が行われた可能性がある。



第41図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図

第12表 第7号竪穴建物跡出土遺物一覧(第41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[131]	(40)	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	40%
2	土師器	壺	-	(110)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部上平ヘラ削り 下平ヘラナデ 内面ヘラナデ 輪横直	覆土中層	40% PL17
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
3	土玉	1.2	1.1	0.15	1.98	長石	橙	一方向からの穿孔 全面磨き	覆土上層	PL17	
4	管玉	0.8	2.6	0.15	2.18	長石・石英・砂粒	黒	一方向からの穿孔 全面磨き	覆土下層	PL17	

#### 第8号竪穴建物跡(第42・43図 第13表 PL8・17)

**位置** 調査区南部のU10a3区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

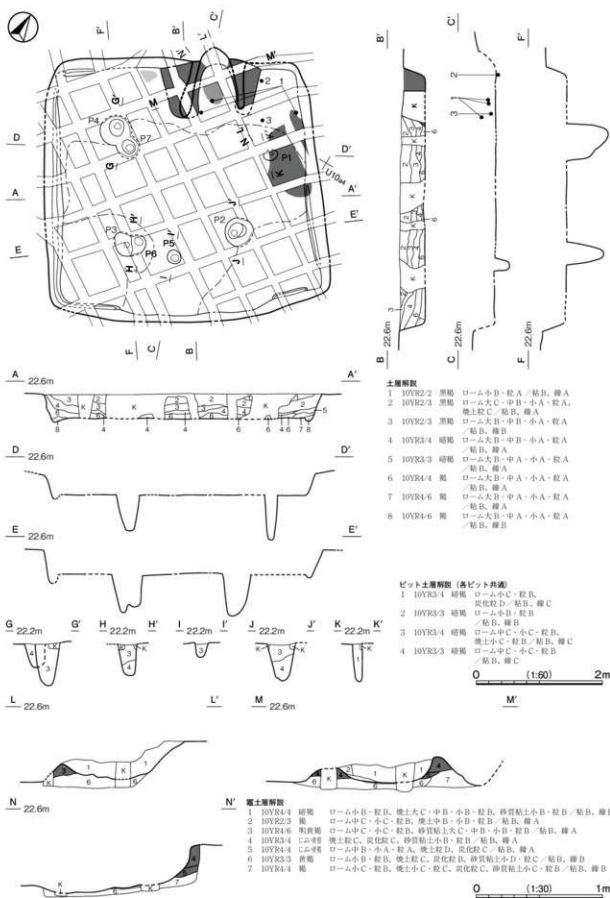
**規模と形状** 長軸4.47m、短軸4.19mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁は、高さ30～39cmで直立している。

**床** 平坦である。壁溝が北壁の西部、西壁、南壁の西・東部、東壁の南部で巡っている。また、中央部と南壁の出入口部付近の床面が硬化している。

**竈** 北壁中央部やや東寄りに位置している。確認できた規模は、焚口部から残存している煙道部まで110cmで、燃焼部幅は60cmである。竈は、地山を若干掘り込み第6・7層で火床部から袖部の基部まで整地している。袖部は、砂質粘土を含む第3～5層を積み上げて構築している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。確認できた煙道部は、壁外に20cmほど張り出し、奥壁で外傾している。

**ピット** 7か所。P1～P4とP6・P7は、深さ35～70cmで、配置から主柱穴と考えられる。なお、P4がP7を掘り込んでおり、柱の建て替えが行われている。また、P3とP6の関係も同様である。P5は深さ25cmで、竈と対峙する位置であることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土はいずれも、柱抜き取り後の流入土と考えられる。

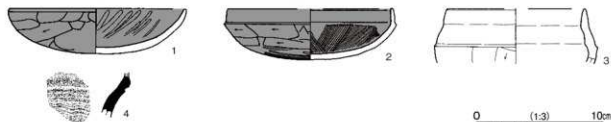
**覆土** 8層に分層できる。第1・2層は黒褐色土で、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第3～8層はロームブロックを多量に含むことから、人為堆積である。



第42図 第8号竪穴建物跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片 120点(坏9、碗1、甕97、瓶10、手捏3)、須恵器片1点(甕カ)が出土している。土器は、主に北東部の覆土中から出土している。1は竈の覆土下層と北東部の覆土中層の破片が接合したものである。2は北東部の床面から、3は覆土下層から、それぞれ出土している。4は南東部の覆土中層から出土している。竈左袖脇の床面から焼土塊が、また、東壁際中央部の覆土下層から床面にかけて、斜めに堆積した粘土塊が出土している。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第43図 第8号竪穴建物跡出土遺物実測図

第13表 第8号竪穴建物跡出土遺物一覧(第43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.1	3.6	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ削き	覆土下層 覆土中層	100% PL17
2	土師器	坏 [130]	4.0	-	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面上半ヘラ削り下半ヘラ削き 内面縦位のヘラ削き	床面	45%
3	土師器	碗 [108]	(4.3)	-	-	長石・石英・赤色粘土・黒色粘土	浅黄褐色	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土下層	30%
4	須恵器	甕*	-	(3.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部1条の横 残下に轆轤状工具(6本)による波状文	覆土中層	5%

#### 第9号竪穴建物跡(第44～46図 第14表 PL 8・9・17・18)

**位置** 調査区南部のU10e4区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

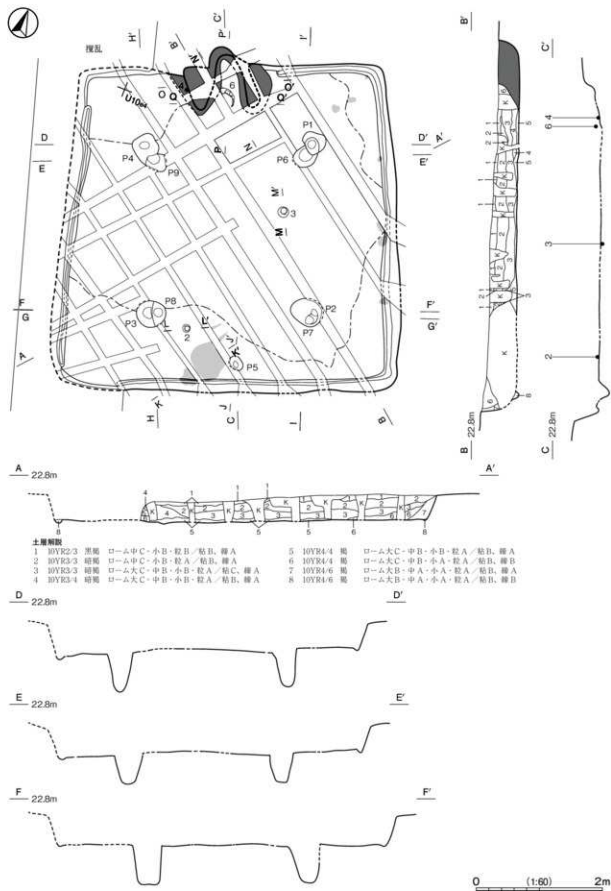
**規模と形状** 長軸5.56m、短軸5.20mの方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁は高さ25～48cmで、直立している。

**床** ほほ平坦で、壁溝が南西・北西コーナー部を除いて巡っている。また、コーナー部と南壁際を除いた広範囲で、床面が硬化している。

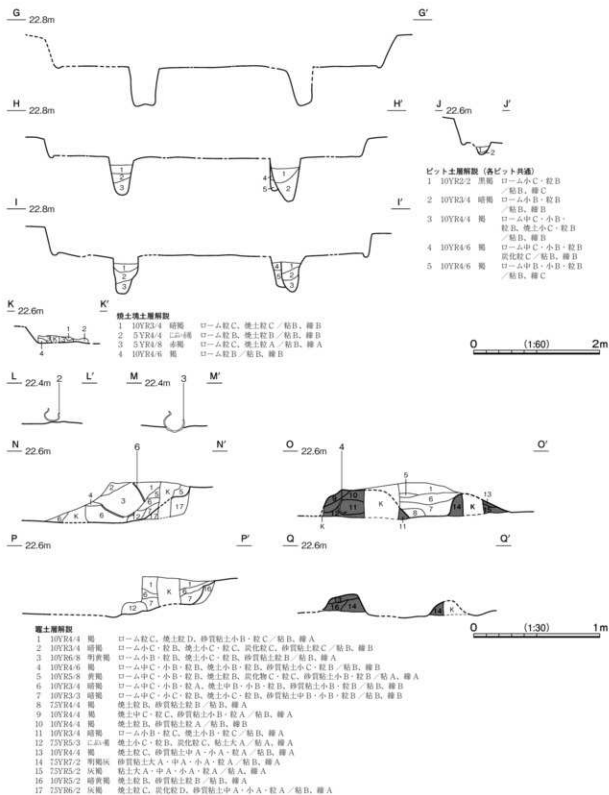
**竈** 北壁の中央部に位置している。掘乱により確認できた規模は、焚口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は、地山の上に砂質粘土を含む第9～16層を積み上げて構築している。確認できた袖部の内側は、被熱により赤変しているが、硬化していない。火床部は床面とほほ同じ高さで、火床面は赤変しているが、硬化していない。煙道部は第16層を貼り付けて構築しており、壁外に33cmほど張り出し、奥壁で外傾している。

**ピット** 9か所。P1～P4とP6～P9は、深さ46～65cmで、配置から主柱穴と考えられる。土層の重複関係から、P1がP6を、P2がP7を、P4がP9をそれぞれ掘り込んでおり、柱の建て替えが行われている。P5は深さ17cmで、竈と対峙する位置にあることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土はいずれも、柱抜き取り後の流入土である。

**覆土** 8層に分層できる。第1・2層は、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第3～7層は、ロームブロックを多量に含むことから、人為堆積である。南壁際から出土した厚さ7～10cmの焼土塊は



第44図 第9号竪穴建物跡実測図(1)

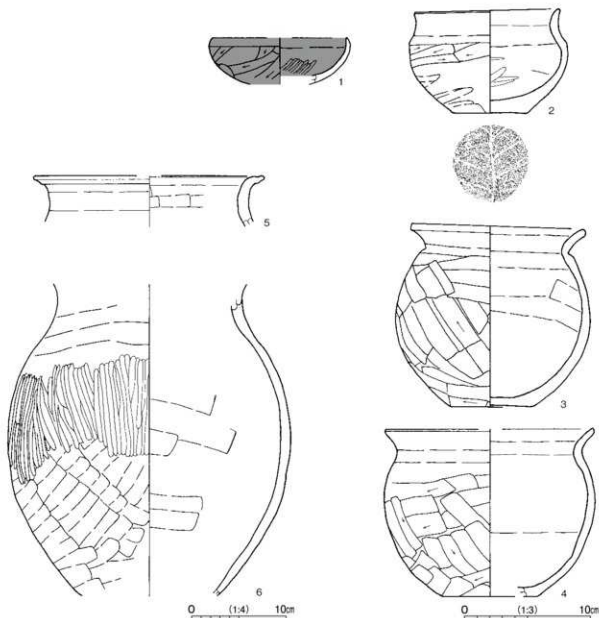


第45図 第9号掘穴建物跡実測図2)

炭化物の含有はなく、埋め戻しによるものと考えられる。

**遺物出土状況** 土師器片 187点 (坏23、碗1、甕160、瓶3) が散在した状態で出土している。ほか、混入した須恵器片1点が出土している。2は南壁寄り、3は中央部の床面から、それぞれ正位で出土している。4は

竈左袖脇の覆土下層から、6は竈の火床面に据え付けられた粘土塊の直上から、それぞれ斜位で出土している。5は竈の覆土中から出土した土器片が接合したものである。また、東壁際と南壁際からは焼土塊が出土している。所見 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。



第46図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図

第14表 第9号竪穴建物跡出土遺物一覧(第46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[106]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラ削き	覆土上層	20%
2	土師器	碗	11.4	8.2	6.1	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面上半ヘラ削り 下半ヘラナデ 内面ヘラ削き 底部本葉張	床面	100% PL18
3	土師器	甕	13.6	14.6	6.7	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ 底部ヘラ削り	床面	95% PL18
4	土師器	甕	[16.4]	13.3	(7.6)	長石・石英・雲母	にぶい赤黄	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	甕左袖 覆土下層	30% PL17
5	土師器	甕	[24.6]	(5.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ 胴部外面ナデ 内面ヘラナデ	甕覆土	5%
6	土師器	甕	-	(33.0)	-	長石・石英	褐	普通	胴部外面横ナデ 体部外面上半ヘラ削り 下半ヘラナデ 内面ヘラナデ	甕覆土下層	30%

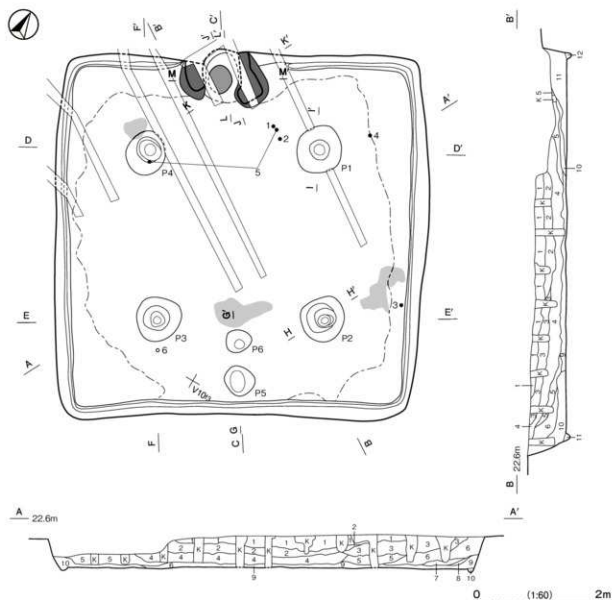
第10号竪穴建物跡 (第47～49図 第15表 PL9・18)

位置 調査区南部のV10e2区、標高22mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.92m、短軸5.80mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁は、高さ39～59cmで直立している。

床 ほぼ平坦であり、壁溝が全周している。北・東・西壁際を除いた広範囲が硬化している。

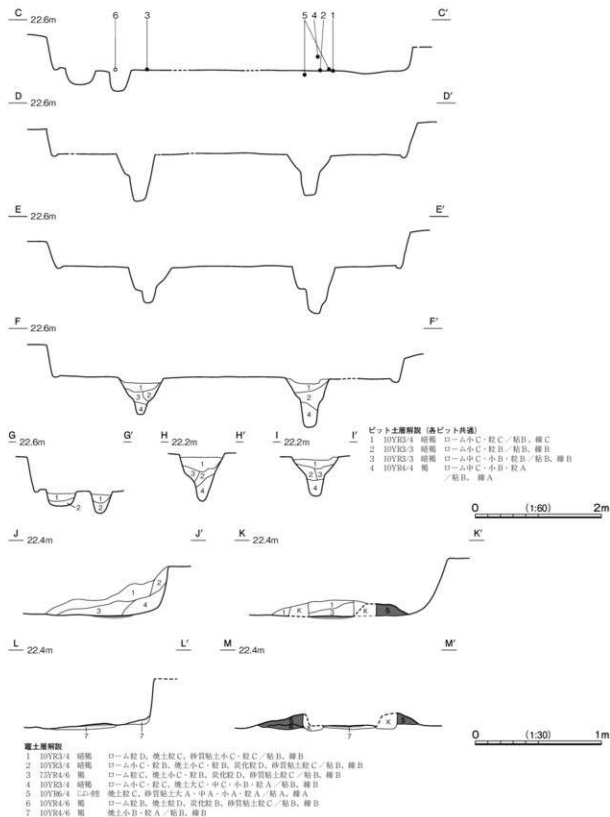
竈 北壁のほぼ中央部に位置している。確認できた規模は、焚口部から残存している煙道部まで85cmで、燃燒部幅は50cmである。袖部は、地山に砂質粘土を多量に含む第5・6層を積み上げて構築しており、内側は被熱により赤変硬化している。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変しているが、硬化はしていない。



土層解説

1 10YR2/3	黒褐色	ローム中C・小B・粒B/粘B, 雜B	8 10YR3/4	暗褐色	ローム大C・中B・小A・粒A/粘B, 雜B
2 10YR2/3	黒褐色	ローム中C・小B・粒A/粘B, 雜A	9 10YR4/6	褐色	ローム大B・中B・小A・粒A, 焼土小C・粒B
3 10YR3/3	暗褐色	ローム大C・中C・小B・粒A/粘B, 雜B			粘B, 雜A
4 10YR3/4	暗褐色	ローム大C・中C・小B・粒A, 焼土粒C/粘B, 雜B	10 10YR4/6	褐色	ローム大B・中B・小A・粒A/粘B, 雜B
5 10YR4/4	褐色	ローム大C・中B・小B・粒A/粘B, 雜A	11 10YR5/4	紅褐色	ローム大B・中A・小A・粒A/粘B, 雜B
6 10YR4/6	褐色	ローム大C・中B・小B・粒A, 焼土小C・粒C/粘B, 雜B	12 10YR4/4	褐色	ローム大B・中A・小A・粒A/粘B, 雜B
7 10YR4/6	褐色	ローム大C・中B・小B・粒A/粘B, 雜C			

第47図 第10号竪穴建物跡実測図(1)



第 48 図 第 10 号竪穴建物跡実測図(2)

煙道部は壁外に 15cmほど張り出し、奥壁で外傾している。

ピット 6 箇所。P 1～P 4 は、深さ 53～75cm で、配置から主柱穴と考えられる。P 5・P 6 は、深さ 23・35cm で、竈と対峙する位置であることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。各ピットの覆土は、全て

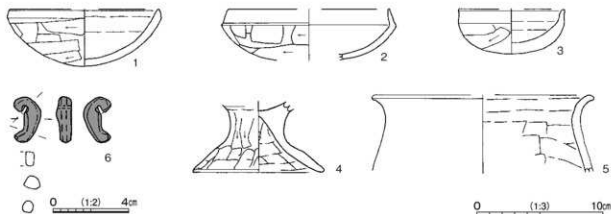


断面がロート状を呈しており、柱抜き取り後の流入土である。

**覆土** 12層に分層できる。第1～4層は黒褐色と暗褐色土で、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第5層以下はロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片112点(坏50、高坏1、甕61)、土製品1点(勾玉)、石器1点(雲母片岩砥石)が出土している。1・2・5は竈前面、3は東壁際、6は南西部の床面から、それぞれ出土している。4は東壁寄りの覆土中層から、逆位で出土している。また、焼土塊が、P4・P6の北部と東壁際中央よりやや南部の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半と考えられる。床面から焼土塊が出土していることから、廃絶時に建物などを焼却した可能性がある。



第49図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図

第15表 第10号竪穴建物跡出土遺物一覧(第49図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師器	坏	[118]	4.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内外面横ナデ 体部外面ヘラ削り	内面	床面 40% PL18	
2	土師器	坏	[128]	(4.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	口縁部内外面横ナデ	体部外面ヘラ削り	内面	床面 25%
3	土師器	坏	[84]	3.6	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内外面横ナデ	体部外面ヘラ削り	内面	床面 30%
4	土師器	高坏	-	(5.7)	10.2	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	脚部外面ヘラ削り	内面ナデ	覆土中層	40% PL18
5	土師器	甕	[170]	(6.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部内外面横ナデ	外面側縁 内面ヘラナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
6	勾玉	24	07-09	06-07	(1.92)	長石・石英	黒褐色	孔径0.15cm 部分的に磨き	床面	PL18

第16表 古墳時代竪穴建物跡一覧(第16～48図)

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	築造	内部施設				覆土	主な出土物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	厚さ				柱穴	出入口	ピット	竈				
1	J8c7	N-32°-W	方形	4.10 × 4.10	8-22	平坦	-	-	-	1	1	人為	土師器	6世紀後半		
2	J9b1	N-42°-W	方形	6.06 × 6.00	43-53	平坦	全周	4	1	-	1	1	自然土	土師器 土製品	6世紀後半	本跡→SK12
3	K9e1	N-20°-W	方形	9.24 × 9.08	40-58	平坦	ほぼ全周	4	1	-	1	1	自然土	土師器 須恵器 土製品 金銅製品	6世紀後半	
4	I8j0	N-45°-W	方形	7.48 × 7.35	40-60	平坦	全周	4	1	1	1	1	自然土	土師器 土製品	6世紀後半	
5	T9a0	N-27°-W	方形	7.26 × 7.16	28-44	平坦	ほぼ全周	4	2	-	1	1	自然土	土師器 土製品	6世紀後半	本跡→SK31・32・34・35
6	T10b3	N-13°-E	方形	7.20 × 7.30	35-52	平坦	ほぼ全周	4	1	-	1	1	自然土	土師器 土製品	6世紀後半	
7	T10f3	N-54°-W	方形	4.89 × 4.85	33-45	平坦	ほぼ全周	4	1	-	1	-	自然土	土師器 土製品	6世紀後半	TP 2→本跡

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	構造	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	(cm)				柱穴	出入口	ピット	竈				
8	U10a3	N-30°-W	方形	4.47 × 4.19	30~39	平坦	一部	6	1	-	1	-	自然 人為	土師器 須恵器	6世紀後半	
9	U10e4	N-18°-W	方形	5.56 × 5.20	25~48	平坦	ほぼ 全周	8	1	-	1	-	自然 人為	土師器	6世紀後半	
10	V10c2	N-30°-W	方形	5.92 × 5.80	39~59	平坦	全周	4	2	-	1	-	自然 人為	土師器 土製品 石	6世紀後半	

## (2) 土坑

### 第8号土坑(第50図 第17表 PL 9・18)

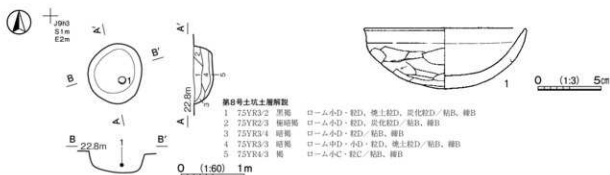
**位置** 調査区北部のJ 9h3区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長径0.93m、短径0.86mの円形である。深さは32cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 5層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片3点(坏1、甕2)が出土している。1は覆土中層から正位で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半である。性格は不明である。



第50図 第8号土坑・出土遺物実測図

第17表 第8号土坑出土遺物一覧(第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	128	48	-	長石・石英	にぶい濁	普通	口縁部内外面積ナテ 外部外面ヘラ傾り 内面	覆土中層	95% PL18

### 第11号土坑(第51図 第18表 PL 9)

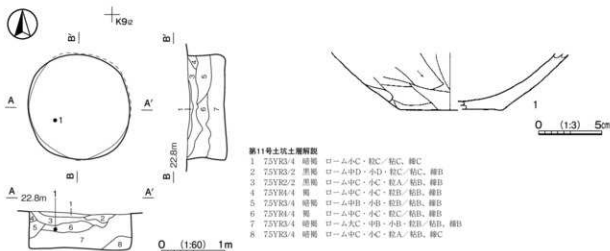
**位置** 調査区北部のK 9il区、標高23mほどの平坦な台地上に位置している。

**規模と形状** 長径1.73m、短径1.66mの円形である。深さは63cmで、底面は平坦である。壁は底面からやや内傾し、直立した後外傾している。

**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックを多く含む層が不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

**遺物出土状況** 土師器片6点(坏2、甕4)が出土している。1は覆土中層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後半である。性格は不明である。



第51図 第11号土坑・出土遺物実測図

第18表 第11号土坑出土遺物一覧(第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	-	(45)	[R0]	長石・石英・赤母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ開り 内面ナデ 底部へラ開り	甕土中層	10%

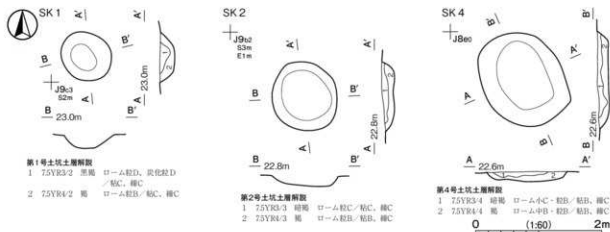
第19表 古墳時代土坑一覧(第50・51図)

番号	位置	長径方向	平面形	概 概		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
8	J9h3	-	円形	0.93 × 0.86	32	外傾	平坦	人為	土師器	
11	K9h1	-	円形	1.73 × 1.66	63	やや内傾	平坦	人為	土師器	

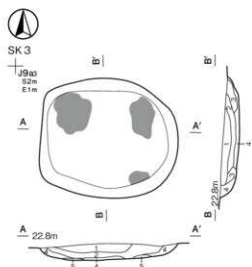
### 3 時期不明の遺構と遺物

#### (1) 土 坑

土坑 108 基を確認した。以下、実測図と一覧表で記載する。

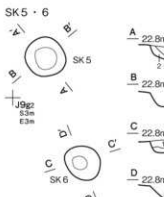


第52図 時期不明の土坑実測図(1)



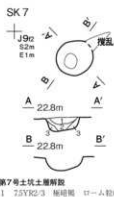
SK 3

- 第3号土坑土層解説
- 1 75YR2/3 極暗褐色 炭化粒C/粘B、礫C
  - 2 75YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C、炭化粒C/粘B、礫C
  - 3 75YR3/4 暗褐色 ローム粒B、焼土粒C、炭化粒C/粘B、礫C
  - 4 75YR4/4 暗褐色 ローム小B・粒A/粘B、礫C
  - 5 75YR3/4 暗褐色 ローム粒C、焼土小B、炭化粒C/粘B、礫C



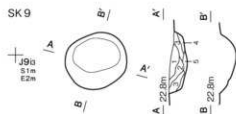
SK 5・6

- 第5号土坑土層解説
- 1 75YR2/3 極暗褐色 ローム小D・粘B、礫C
  - 2 75YR3/4 暗褐色 ローム粒B/粘B、礫C
- 第6号土坑土層解説
- 1 75YR2/3 極暗褐色 ローム小D/粘B、礫C
  - 2 75YR3/4 暗褐色 ローム粒B/粘B、礫C



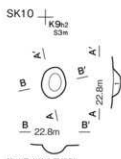
SK 7

- 第7号土坑土層解説
- 1 75YR2/3 極暗褐色 ローム粒C、炭化粒D/粘B、礫C
  - 2 75YR3/4 暗褐色 ローム粒B/粘B、礫C
  - 3 75YR3/3 暗褐色 ローム粒B/粘B、礫C



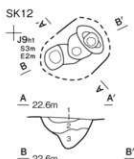
SK 9

- 第9号土坑土層解説
- 1 75YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、炭化粒D/粘B、礫B
  - 2 75YR3/2 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B
  - 3 75YR2/3 極暗褐色 ローム粒D、炭化粒D/粘B、礫B
  - 4 75YR3/4 暗褐色 ローム小D・粒C、炭化粒D/粘B、礫B
  - 5 75YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C、粘B、礫B



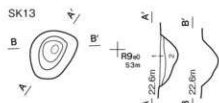
SK 10

- 第10号土坑土層解説
- 1 75YR3/4 暗褐色 ローム小D・粒B/粘B、礫B



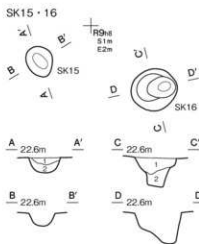
SK 12

- 第12号土坑土層解説
- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒C/粘C、礫C
  - 2 10YR2/2 暗褐色 ローム小D・粒D/粘C、礫C
  - 3 10YR2/2 暗褐色 ローム粒D/粘C、礫C



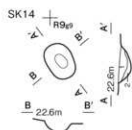
SK 13

- 第13号土坑土層解説
- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C/粘B、礫B
  - 2 10YR4/4 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、礫C



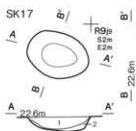
SK 15・16

- 第15号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒B
  - 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小B・粒B/粘B、礫C
- 第16号土坑土層解説
- 1 10YR2/3 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、礫C
  - 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小B・粒B/粘B、礫C



SK 14

- 第14号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、礫C
  - 2 10YR4/4 暗褐色 ローム小B・粒B/粘C、礫C

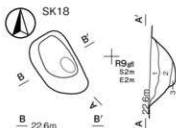


SK 17

- 第17号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、礫B
  - 2 10YR4/4 暗褐色 ローム小B・粒B/粘A、礫A

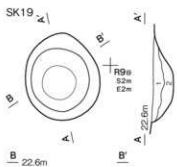


第 53 図 時期不明の土坑実測図(2)



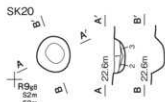
第18号土坑土層解説

- 1 10YK2-3 遺層 ローム小C・粒C・粘B、粘B
- 2 10YK3-4 暗層 ローム小B・粒B・粘C
- 3 10YK3-3 暗層 ローム中C・小B・粒B  
粘B、粘C



第19号土坑土層解説

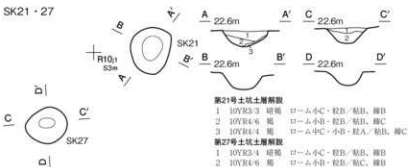
- 1 10YK3-3 暗層 ローム小B・粒B・粘A、粘A
- 2 10YK4-4 層 ローム中C・小B・粒B・粘B、粘A



第20号土坑土層解説

- 1 10YK2-2 遺層 ローム小C・粒C  
粘B、粘B
- 2 10YK2-3 遺層 ローム小C・粒B  
粘B、粘C
- 3 10YK3-4 暗層 ローム中C・小C・粒B  
粘B、粘B

SK21・27

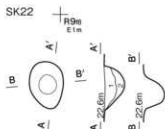


第21号土坑土層解説

- 1 10YK3-3 暗層 ローム小C・粒B、粘B、粘B
- 2 10YK4-6 層 ローム小B・粒B、粘C
- 3 10YK4-4 層 ローム中C・小B・粒A、粘C、粘C

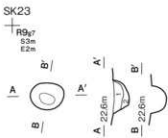
第27号土坑土層解説

- 1 10YK3-4 暗層 ローム小C・粒B、粘B、粘B
- 2 10YK4-6 層 ローム小B・粒B、粘C、粘B



第22号土坑土層解説

- 1 10YK2-2 遺層 ローム小C・粒B、粘B、粘C
- 2 10YK3-4 暗層 ローム小B・粒B、粘C、粘B



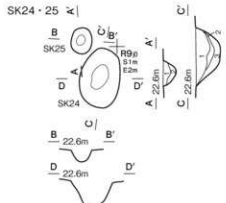
第23号土坑土層解説

- 1 10YK3-4 暗層 ローム小C・粒C  
粘B、粘B
- 2 10YK4-4 層 ローム小C・粒B  
粘C、粘C



第26号土坑土層解説

- 1 10YK2-2 遺層 ローム小C・粒C  
粘B、粘C
- 2 10YK3-4 暗層 ローム小C・粒B  
粘B、粘B
- 3 10YK4-4 層 ローム中C・小C・粒B  
粘B、粘C



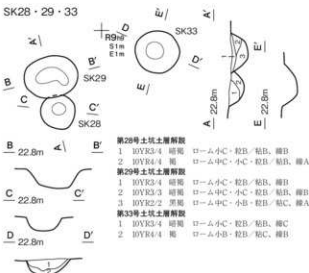
第24号土坑土層解説

- 1 10YK3-4 暗層 ローム小C・粒B、粘B、粘C
- 2 10YK3-3 暗層 ローム小B・粒B、粘B
- 3 10YK4-6 層 ローム中C・小B・粒B、粘B、粘C

第25号土坑土層解説

- 1 10YK3-3 暗層 ローム小C・粒B、粘B、粘B
- 2 10YK4-6 層 ローム小B・粒B、粘C、粘B

SK28・29・33



第28号土坑土層解説

- 1 10YK3-4 暗層 ローム小C・粒B、粘B、粘B
- 2 10YK4-4 層 ローム中C・小C・粒B、粘B、粘A

第29号土坑土層解説

- 1 10YK3-4 暗層 ローム小C・粒B、粘B、粘B
- 2 10YK3-3 暗層 ローム中C・小C・粒B、粘B、粘B
- 3 10YK2-2 遺層 ローム中C・小B・粒B、粘C、粘A

第33号土坑土層解説

- 1 10YK3-4 暗層 ローム小C・粒B、粘C、粘C
- 2 10YK4-4 層 ローム小B・粒B、粘C、粘B

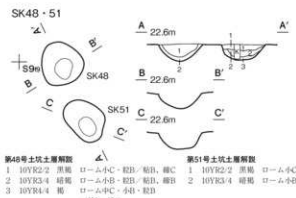
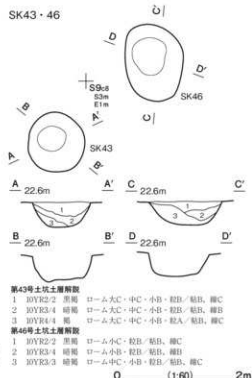
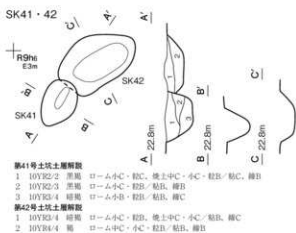
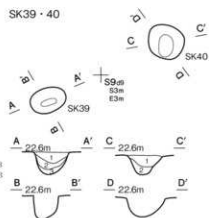
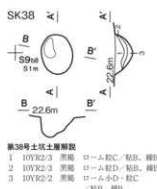
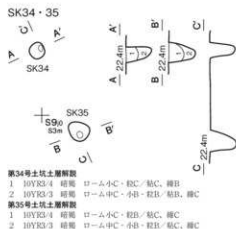
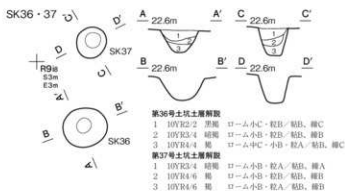


第30号土坑土層解説

- 1 10YK2-2 遺層 ローム小C・粒C、粘B、粘C
- 2 10YK3-4 暗層 ローム中C・小C・粒B、粘B、粘B

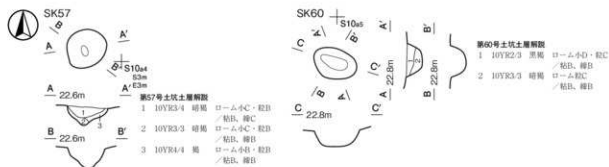
第54図 時期不明の土坑実測図(3)

0 (1:60) 2m

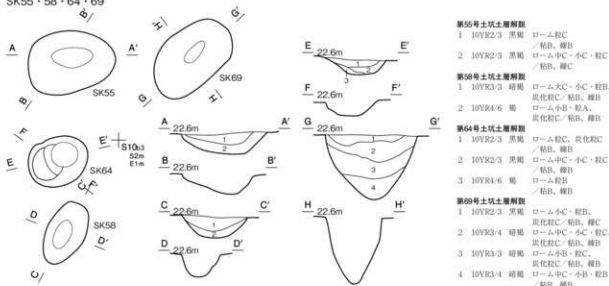


第55図 時期不明の土坑実測図(4)

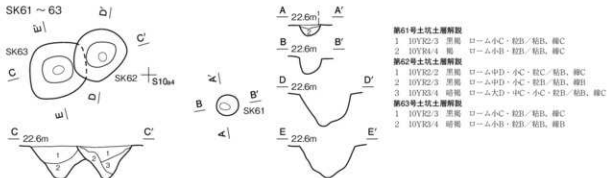




SK55・58・64・69



SK61~63

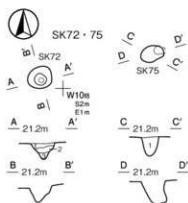


SK66



第57図 時期不明の土坑実測図(6)



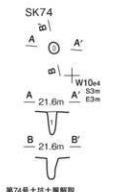


第72号土坑土層解説

- 1 10YR3-3 埴輪 ローム小D・粘B・粘D、粘B、粘D、粘B、粘D、粘B、粘D、粘B、粘D
- 2 10YR4-4 埴 ローム粘A・粘B、粘B
- 3 10YR4-6 埴 ローム粘C・粘B、粘B

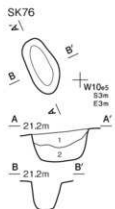
第75号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 埴輪 ローム小D・粘D、粘B、粘B



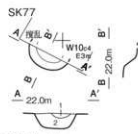
第74号土坑土層解説

- 1 10YR2-3 埴輪 ローム粘C  
粘B、粘B



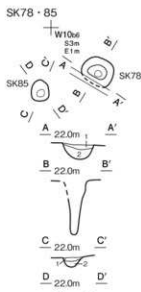
第76号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 埴輪 ローム小C・粘B  
粘B、粘B
- 2 10YR3-4 埴輪 ローム小B・粘B  
粘B、粘B



第77号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 埴輪 ローム小C・粘B  
炭化粘C・粘B、粘B
- 2 10YR4-4 埴輪 ローム小B・粘A  
炭化粘C・粘B、粘B

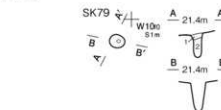


第78号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 埴輪 ローム小C・粘B  
粘C、粘B
- 2 10YR3-4 埴輪 ローム小C・粘C  
粘B、粘B

第85号土坑土層解説

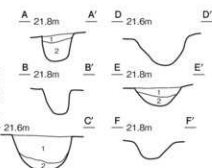
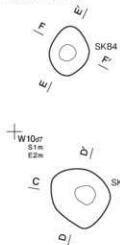
- 1 10YR3-4 埴輪 ローム小C・粘C、炭化粘C  
粘B、粘B
- 2 10YR4-4 埴輪 ローム小B・粘B  
粘B、粘B



第79号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 埴輪 ローム中C・小C・粘B、粘B、粘A
- 2 10YR4-4 埴輪 ローム中C・小B・粘B、粘B、粘B

SK80・81・84



第80号土坑土層解説

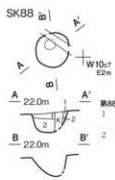
- 1 10YR3-4 埴輪 ローム小D・粘C、粘B、粘B
- 2 10YR4-4 埴輪 ローム小C・粘C、粘B、粘B

第81号土坑土層解説

- 1 10YR4-6 埴輪 ローム小B・粘B、炭化粘D・粘B、粘B
- 2 10YR4-4 埴輪 ローム粘C、炭化粘C・粘B、粘B

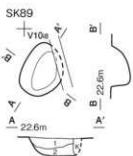
第84号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 埴輪 ローム小C・粘C、粘B、粘C
- 2 10YR3-4 埴輪 ローム小C・粘C、粘B、粘B



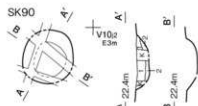
第88号土坑土層解説

- 1 10YR3-4 埴輪 ローム小C・粘B  
粘B、粘B
- 2 10YR4-6 埴輪 ローム小B・粘B  
粘B、粘B



第89号土坑土層解説

- 1 10YR3-3 埴輪 ローム中C・小B・粘B  
粘B、粘B
- 2 10YR4-4 埴輪 ローム粘C・中C・小B  
粘A・粘B、粘B

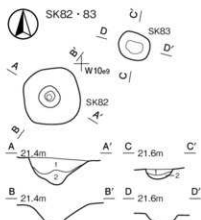


第90号土坑土層解説

- 1 10YR3-3 埴輪 ローム小C・粘B、粘B、粘C
- 2 10YR4-6 埴輪 ローム小B・粘B、粘B、粘B



第58図 時期不明の土坑実測図(7)

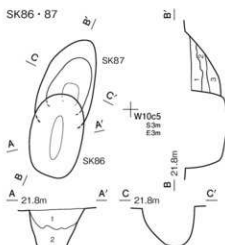


第82号土坑土層解説

- 1 10YK3/4 埴埴 ローム中C・小C・粒C、炭化粒C  
/粒B、糠C
- 2 10YK3/4 埴埴 ローム大B・小B・粒B、炭化粒C  
/粒B、糠B

第83号土坑土層解説

- 1 10YK3/4 埴埴 ローム小C・粒C、炭化粒C  
/粒B、糠C
- 2 10YK3/4 埴埴 ローム大B・小C・粒C、炭化粒D  
/粒B、糠B

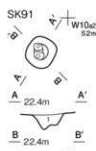


第86号土坑土層解説

- 1 10YK3/4 埴埴 ローム小C・粒B/粒B、糠B
- 2 10YK3/3 埴埴 ローム中C・小C・粒B/粒B、糠B

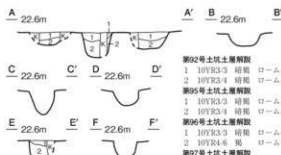
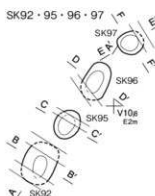
第87号土坑土層解説

- 1 10YK3/4 埴埴 ローム小C・粒B、糠B
- 2 10YK3/3 埴埴 ローム中C・小C・粒B、粒B、糠B
- 3 10YK4/4 埴 ローム中C・小B・粒B、粒B、糠A



第91号土坑土層解説

- 1 10YK3/3 埴埴 ローム中D・小C・粒C  
/粒B、糠C



第92号土坑土層解説

- 1 10YK3/3 埴埴 ローム小C・粒B/粒B、糠B
- 2 10YK3/4 埴埴 ローム小B・粒B/粒B、糠B

第95号土坑土層解説

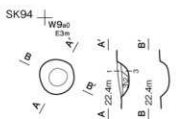
- 1 10YK3/3 埴埴 ローム小D・粒C、粒C、糠B
- 2 10YK3/4 埴埴 ローム小C・粒B/粒B、糠B

第96号土坑土層解説

- 1 10YK3/3 埴埴 ローム小C・粒B/粒B、糠B
- 2 10YK4/6 埴 ローム中C・小C・粒B/粒B、糠C

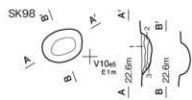
第97号土坑土層解説

- 1 10YK3/3 埴埴 ローム小C・粒B/粒B、糠B
- 2 10YK4/4 埴 ローム小B・粒B/粒B、糠B



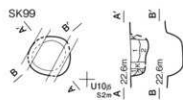
第94号土坑土層解説

- 1 10YK3/3 埴埴 ローム中D・小C・粒C/粒B、糠B
- 2 10YK3/4 埴埴 ローム中D・小C・粒B/粒B、糠B
- 3 10YK4/4 埴 ローム大D・中C・小C/粒B、糠B



第98号土坑土層解説

- 1 10YK3/3 埴埴 ローム小C・粒C/粒B、糠C
- 2 10YK4/4 埴 ローム小C・粒B/粒B、糠B
- 3 10YK5/6 黄埴 ローム大A・中A・小C/粒B、糠A



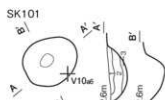
第99号土坑土層解説

- 1 10YK3/3 埴埴 ローム小C・粒B/粒B、糠B
- 2 10YK4/6 埴 ローム小B・粒B/粒B、糠B



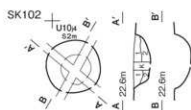
第100号土坑土層解説

- 1 10YK3/3 埴埴 ローム小C・粒B/粒B、糠C
- 2 10YK4/6 埴 ローム小B・粒B/粒B、糠B



第101号土坑土層解説

- 1 10YK3/3 埴埴 ローム小C・粒B/粒B、糠B
- 2 10YK4/4 埴 ローム小B・粒B/粒B、糠B
- 3 10YK4/6 埴 ローム中C・小B・粒B/粒B、糠B



第102号土坑土層解説

- 1 10YK3/4 埴埴 ローム小C・粒B/粒B、糠B
- 2 10YK3/3 埴埴 ローム小B・粒B/粒B、糠B

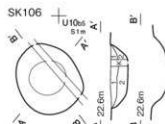


第59図 時期不明の土坑実測図(8)



SK103

- 第103号土坑土層解説
- 1 10YR3/3 埴層 ローム小B・粒B/粒B、礫B
  - 2 10YR4/6 埴層 ローム中C・小B・粒B/粒B、礫B



SK106

- 第106号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 埴層 ローム小B・粒B、炭化粒C/粒C、礫B
  - 2 10YR3/3 埴層 ローム中C・小C・粒C/粒B、礫B



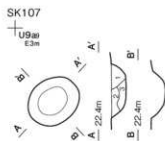
SK104

- 第104号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 埴層 ローム小C・粒B/粒B、礫B
  - 2 10YR3/3 埴層 ローム中C・小C・粒B/粒B、礫B
  - 3 10YR4/4 埴層 ローム中C・小B・粒B/粒B、礫B



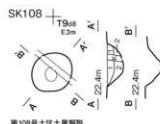
SK105

- 第105号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 埴層 ローム小B・粒B、炭化粒C/粒B、礫B
  - 2 10YR4/6 埴層 ローム大A・中A・粒C/粒B、礫C
  - 3 10YR4/6 埴層 ローム中B・小B・粒C、炭化粒C/粒B、礫B



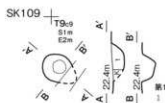
SK107

- 第107号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 埴層 ローム中B・小B・粒C、炭化粒D/粒B、礫C
  - 2 10YR3/4 埴層 ローム中C・小C・粒C/粒B、礫C
  - 3 10YR4/6 埴層 ローム大C・中C・小B・粒A/粒B、礫B



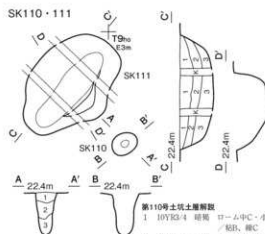
SK108

- 第108号土坑土層解説
- 1 10YR3/3 埴層 ローム小B・粒B/粒B、礫A
  - 2 10YR4/6 埴層 ローム中C・小B・粒B/粒B、礫B



SK109

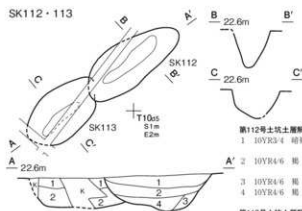
- 第109号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 埴層 ローム小C・粒B/粒B、礫B



SK110・111

SK110

- 第110号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 埴層 ローム中C・小B・粒B/粒B、礫C
  - 2 10YR3/3 埴層 ローム中C・小B・粒A/粒B、礫B
  - 3 10YR4/4 埴層 ローム中B・小B・粒A/粒B、礫B



SK112・113

SK112

- 第112号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 埴層 ローム中C・小B・粒B、炭化粒C/粒B、礫B
  - 2 10YR4/6 埴層 ローム小B・粒A、炭化粒C/粒B、礫B
  - 3 10YR4/6 埴層 ローム中B・小C・粒C/粒B、礫C
  - 4 10YR4/6 埴層 ローム小B・粒B、炭化粒C/粒B、礫B

SK113

- 第113号土坑土層解説
- 1 10YR3/4 埴層 ローム粒B、炭化粒C/粒B、礫B
  - 2 10YR3/4 埴層 ローム中C・小B・粒B/粒C、礫C

0 (1:60) 2m

第60図 時期不明の土坑実測図(9)

第20表 時期不明の土坑一覧(第52～60図)

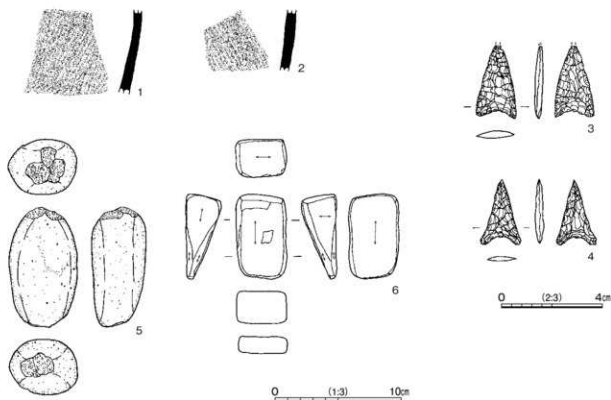
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	J9c3	N-35°-W	楕円形	0.85 × 0.75	24	外傾	皿状	自然	土師器	
2	J9c2	N-32°-W	楕円形	1.16 × 1.05	20	外傾	平皿	自然	土師器	
3	J9a3	N-80°-E	楕円形	2.20 × 0.91	26	外傾	平皿	人為	土師器	焼土塊有り
4	J8e0	N-39°-W	楕円形	1.57 × 1.28	17	外傾	平皿	自然	土師器	
5	J9g2	-	円形	0.66 × 0.63	24	外傾	皿状	自然		
6	J9g3	N-56°-W	楕円形	0.60 × 0.51	20	外傾	皿状	自然	土師器	
7	J9f2	-	円形	0.58 × 0.54	21	外傾	皿状	自然	土師器	
9	J9i3	N-69°-E	楕円形	0.98 × 0.87	27	外傾	皿状	自然	土師器	
10	K9i2	N-12°-E	楕円形	0.48 × 0.38	14	外傾	皿状	自然		
12	J9h1	N-63°-E	楕円形	[1.15] × 0.85	50	外傾	凸凹	自然		SI 2→本跡
13	R9e9	N-38°-E	楕円形	0.84 × 0.66	28	外傾	皿状	自然		
14	R9g9	N-30°-W	楕円形	0.59 × 0.42	19	外傾	皿状	自然		
15	R9b8	N-25°-W	楕円形	0.52 × 0.42	23	外傾	皿状	自然		
16	R9b8	N-80°-E	楕円形	0.74 × 0.66	49	外傾	有段	自然		
17	R9j9	N-73°-W	楕円形	1.00 × 0.72	22	外傾	皿状	自然		
18	R9g8	N-40°-W	楕円形	1.09 × 0.65	40	外傾	皿状	自然		
19	R9j9	N-4°-E	楕円形	1.40 × 1.19	32	外傾	皿状	自然		
20	R9g8	-	円形	0.58 × 0.54	20	外傾	平皿	自然		
21	R10i1	N-15°-E	楕円形	0.73 × 0.62	25	外傾	皿状	自然		
22	R9f8	N-10°-W	楕円形	0.76 × 0.54	33	外傾	皿状	自然		
23	R9h7	N-85°-W	楕円形	0.53 × 0.43	25	外傾	皿状	自然		
24	R9j0	N-12°-E	楕円形	0.92 × 0.65	40	外傾	平皿	人為		
25	R9j0	N-11°-E	楕円形	0.41 × 0.32	20	外傾	皿状	人為		
26	S9b9	N-83°-W	楕円形	0.80 × 0.70	33	外傾	皿状	人為		
27	S9a0	N-77°-E	楕円形	0.68 × 0.56	24	外傾	平皿	人為		
28	R9b9	-	円形	0.55 × 0.54	20	外傾	皿状	自然		本跡→SK29
29	R9b9	N-75°-E	楕円形	0.86 × 0.65	30	外傾	平皿	自然		SK28→本跡
30	S9d0	-	円形	0.46 × 0.42	29	外傾	皿状	自然		
31	T9a9	N-86°-W	楕円形	0.38 × 0.31	25	外傾	皿状	自然		SI 5→本跡
32	S9j9	N-75°-W	楕円形	0.67 × 0.44	28	外傾	皿状	自然		SI 5→本跡
33	R9b9	-	円形	0.69 × 0.69	25	外傾	皿状	自然		
34	S9j9	-	円形	0.27 × 0.25	41	外傾 垂直	皿状	人為		SI 5→本跡
35	S9j0	N-52°-W	楕円形	0.35 × 0.30	43	外傾	皿状	人為		SI 5→本跡
36	R9f8	N-86°-E	楕円形	0.71 × 0.62	35	外傾	皿状	人為		
37	R9b8	-	円形	0.50 × 0.47	43	外傾	平皿	人為		
38	S9b8	N-11°-W	楕円形	0.63 × 0.50	33	外傾	皿状	自然		
39	S9d9	N-71°-E	楕円形	0.59 × 0.39	37	外傾	皿状	自然	土師器	
40	S9d0	-	円形	0.61 × 0.56	30	外傾	皿状	自然	土師器	
41	R9b6	N-31°-E	楕円形	0.79 × 0.54	45	外傾	平皿	人為		SK42→本跡
42	R9b7	N-64°-E	楕円形	1.34 × 0.80	31	外傾	平皿	人為	石器	本跡→SK41
43	S9c8	-	円形	0.94 × 0.90	43	外傾	平皿	人為	土師器	
44	S9c8	N-73°-E	楕円形	0.85 × 0.76	45	外傾	平皿	自然	土師器	
45	S9c8	-	円形	0.46 × 0.42	25	外傾	平皿	自然		
46	S9c8	N-15°-W	楕円形	1.25 × 0.92	38	外傾	平皿	自然	土師器	
47	S9d8	N-19°-E	楕円形	0.92 × 0.60	40	外傾	皿状	自然	土師器	

番号	位置	方位方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
48	S99	-	円形	0.70 × 0.68	25	外傾	皿状	人為		
49	S99	N-3°-W	楕円形	0.98 × 0.65	39	外傾	平坦	自然		
50	S9b0	N-31°-W	楕円形	0.55 × 0.50	30	外傾	平坦	自然	土師器	
51	S99	N-49°-W	楕円形	0.73 × 0.53	28	外傾	皿状	自然		
52	S10c3	-	円形	0.49 × 0.48	27	外傾	皿状	自然		
53	S10b3	N-60°-W	楕円形	0.48 × 0.38	25	外傾	皿状	自然		
54	S10d4	N-62°-E	楕円形	1.04 × 0.92	47	外傾	平坦	自然	土師器	
55	S10b3	N-86°-E	楕円形	1.29 × 1.00	33	外傾	皿状	自然		
56	S10b4	N-55°-W	楕円形	1.17 × 0.84	22	外傾	平坦	人為		
57	S10a4	N-41°-E	楕円形	0.68 × 0.59	32	外傾	皿状	自然		
58	S10b3	N-28°-E	楕円形	1.04 × 0.60	35	外傾	皿状	自然	土師器	
59	S10b3	N-11°-W	楕円形	1.03 × 0.72	37	外傾	有段	自然		
60	S10e5	N-68°-W	楕円形	0.72 × 0.48	25	外傾	平坦	自然		
61	S10a4	-	円形	0.25 × 0.33	17	外傾	皿状	自然		
62	R103	N-52°-E	楕円形	0.88 × 0.75	51	外傾	有段	人為	土師器	SK63→本跡
63	R103	N-33°-E	楕円形	1.04 × 0.90	51	外傾	有段	人為		本跡→SK62
64	S10b3	N-70°-E	楕円形	0.97 × 0.77	23	外傾	皿状	自然	土師器	
66	R103	N-17°-W	楕円形	0.53 × 0.29	20	外傾	皿状	自然		
67	S10c3	-	円形	0.69 × 0.65	30	外傾	皿状	自然		
68	S10c5	N-70°-W	楕円形	0.57 × 0.50	19	外傾	皿状	自然	土師器	
69	S10b3	N-46°-E	楕円形	1.45 × 0.90	104	外傾	皿状	人為		
71	W10d7	-	円形	0.57 × 0.55	29	外傾	平坦	自然		
72	W108	N-53°-E	楕円形	0.40 × 0.36	25	外傾	有段	自然		
73	W10e3	-	円形	0.26 × 0.25	21	外傾	皿状	自然		
74	W10e4	-	円形	0.17 × 0.16	37	垂直	皿状	自然		
75	W108	N-73°-E	楕円形	0.38 × 0.26	37	外傾 内傾	平坦	自然		
76	W10e5	N-24°-W	楕円形	0.91 × 0.48	46	外傾	平坦	自然		
77	W10e4	N-63°-W	[円形-楕円形]	0.68 × (0.24)	24	外傾	平坦	人為		
78	W10b6	N-60°-W	楕円形	0.50 × [0.42]	86	外傾	皿状	人為		
79	W109	N-68°-W	楕円形	0.24 × 0.21	47	垂直	皿状	自然		
80	W10d8	-	円形	0.51 × 0.47	41	外傾	平坦	自然		
81	W10d7	N-51°-W	楕円形	0.98 × 0.83	55	外傾	皿状	自然		
82	W10e8	-	円形	1.00 × 0.95	43	外傾	有段	人為		
83	W10d9	N-57°-W	楕円形	0.53 × 0.42	16	外傾	皿状	人為		
84	W10c7	N-7°-E	楕円形	0.79 × 0.65	27	外傾	平坦	自然		
85	W10b6	N-2°-W	楕円形	0.34 × 0.28	15	外傾	皿状	自然		
86	W10e5	N-9°-E	楕円形	[1.33] × 0.83	72	外傾	平坦	人為		SK67→本跡
87	W10e5	N-21°-E	[楕円形]	(1.00) × 0.85	65	外傾	皿状	人為		本跡→SK66
88	W10e7	-	円形	0.58 × 0.53	32	外傾	皿状	自然		
89	V108	N-22°-E	楕円形	0.85 × 0.64	31	外傾	皿状	人為		
90	V102	-	円形	0.86 × 0.79	19	外傾	平坦	人為		
91	W10a1	N-30°-E	不整形	0.49 × 0.45	24	外傾	凹凸	自然		
92	V108	N-25°-E	楕円形	[0.68] × 0.52	20	外傾	皿状	自然		
94	W9a0	-	円形	0.56 × 0.54	17	外傾	平坦	人為		
95	V108	N-33°-E	楕円形	0.49 × 0.39	40	外傾	皿状	自然		
96	V108	N-28°-E	楕円形	0.64 × 0.40	27	外傾	平坦	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
97	V108	N-55°-E	[楕円形]	[0.41] × 0.37	30	外傾	皿状	自然		
98	V1045	N-61°-E	楕円形	0.67 × 0.51	16	外傾	皿状	人為		
99	U105	-	円形	0.68 × [0.66]	27	外傾	平皿	人為		
100	U102	-	円形	0.33 × 0.32	17	外傾	皿状	自然		
101	U105	N-66°-E	楕円形	0.88 × 0.76	30	外傾	皿状	人為		
102	U104	-	円形	0.86 × 0.82	27	外傾	皿状	人為		
103	U105	N-64°-W	楕円形	0.73 × 0.65	17	外傾	皿状	人為		
104	U10g2	-	円形	0.44 × 0.42	27	外傾	平皿	人為	土師器	
105	U10d5	N-70°-W	楕円形	0.83 × 0.69	35	外傾	平皿	自然		
106	U10b4	N-38°-W	楕円形	1.14 × 0.98	26	外傾	平皿	自然		
107	U9a9	N-47°-E	楕円形	0.85 × 0.73	24	外傾	平皿	人為	須恵器	
108	T9d8	-	円形	0.68 × 0.62	26	外傾	皿状	自然		
109	T9c9	N-48°-W	楕円形	[0.61] × 0.44	22	外傾	平皿	自然		
110	T9b0	N-50°-E	楕円形	0.43 × 0.32	66	外傾	皿状	人為		
111	T9b0	N-44°-E	楕円形	1.83 × 1.30	52	外傾	平皿	自然	土師器 須恵器	
112	T10d5	N-53°-E	楕円形	1.73 × 0.72	59	外傾	皿状	人為	土師器	SK113→本跡
113	T10d5	N-45°-E	楕円形	[1.33] × 0.77	45	外傾	皿状	人為	土師器	本跡→SK112

## (2) 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物の主なものについて、実測図及び一覧表で記載する。



第 61 図 遺構外出土遺物実測図

第21表 遺構外出土遺物一覧(第61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(6.8)	-	長石・石英	赤灰	普通	外面格子叩き 内面ヘラナデ	SK107 甕土中層	5% PL18
2	須恵器	甕	-	(4.9)	-	長石・石英	赤灰	普通	外面格子叩き 内面ヘラナデ	SI 9 甕土中層	5% PL18

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	石鏝	(2.9)	1.6	0.3	(1.26)	チャート	両面押圧潤滑 先端部欠損 四角無葉鏝	表土	PL18
4	石鏝	2.6	1.6	0.3	0.74	チャート	両面押圧潤滑 四角無葉鏝	表土	PL18
5	敲石	9.5	5.4	4.3	275.11	石英斑岩	上下端部敲打痕	SK12 甕土	
6	砥石	6.8	4.0	2.8	(98.66)	凝灰岩	全面砥面	表土	PL18

## 第4節 総括

### 1 はじめに

向田遺跡は、平成28年度と平成30年度の2回にわたって調査を実施し、縄文時代の陥し穴3か所、遺物包含層1か所、不明遺構1か所、古墳時代の竪穴建物跡10棟、土坑2基、時期不明の土坑108基を確認した。ここでは、各時代の遺構について概観し、特徴的な遺構と遺物について述べる。

### 2 縄文時代の遺構と遺物

第1号遺物包含層は、調査区南端の緩やかな傾斜部に位置しており、ほぼ埋まった谷の上層部に形成されている。この埋没谷は、長い年月をかけて自然堆積したものと考えられる。その窪地から出土した土器片は、口縁部が肥厚し外反する特徴をもち、口縁部と頸部、胴部の3つの文様帯で構成される早期前葉の井草Ⅰ式土器である。また、第1号遺物包含層から約10mほど北部に位置している第1号不明遺構は、楕円形で舟底状に窪んだ形状である。遺構の中央部東側には、覆土層に黒色土を主体としたローム粒子混じりの層が堆積しており、第1号遺物包含層と同時期の土器片が出土している。出土した土器片は、接合関係が認められることから、一括廃棄されたものと考えられる。

土器について詳しく説明すると(第62図)、口縁部が肥厚して外反し、そこに1列から2列の縄文が施されている土器が多い。1は口唇部に原体側面圧痕文が、口縁肥厚部上端に縄文が施文されている。2は口唇部と口縁肥厚部上端に、同一方向の単節縄文が施文されている。3のように口縁肥厚部下端に1列の原体側面圧痕文が施文されているものと、4のように2列施文されているものもある。また、5は爪型文と考えられる。頭部は横位の縄文施文が主体であるが、斜位の縄文施文もみられる。胴部は、井草Ⅰ式の特徴とされる間隔が密な縦位の縄文が施文されているものが大半である。その他、8のような単節縄文が大多数であるが、9や10のような無節縄文のものや、6のような無文のものも含まれる<sup>1)</sup>。特に7は、口縁部が肥厚して外反する井草Ⅰ式の特徴を残しつつも、口縁肥厚部下端の指頭押圧後に縦位の熱糸文が施文され、口縁部と胴部の2か所の文様帯構成を示しており、一形式新しい井草Ⅱ式と考えられる。

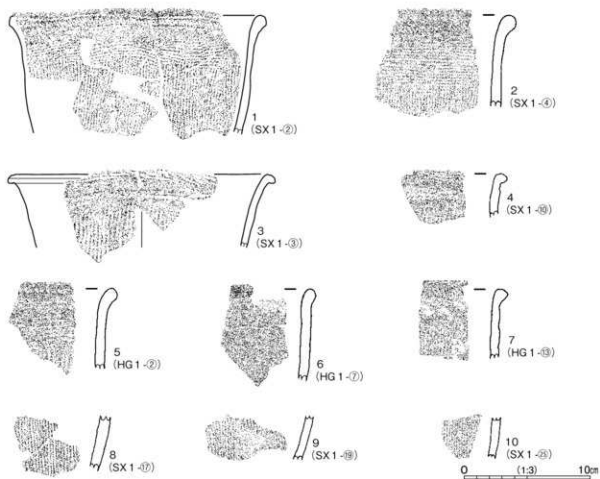
### 3 古墳時代の遺構と遺物

#### (1) 土器編年について

当該期の竪穴建物跡は、出土した土師器坏や甕の様相から、いずれも6世紀後半と考えられる(第63図)。ここでは櫻村氏<sup>2)</sup>の編年を参考に、出土した坏と甕、瓶を中心に特徴を述べる。

坏は、主に次の2種類が出土している。1つは、1のような須志器蓋の模倣で、碗形のタイプである。もう1つは、2のような須志器身の模倣で、内傾または直立する口縁部と体部の境に突出する稜をもつタイプである。全体的には、口径8.4～23.9cm(平均13.8cm)、器高3.2～7.8cm(平均4.5cm)であり、残存率30%以上の黒色処理率は、60%ほどである。整形は体部外面にヘラ削り、内面に横ナデやヘラ磨きが施されているものがほとんどである。大型の甕は、9のように長胴気味の体部に縦方向のヘラ磨きを施し、口縁部をつまみ上げる「常総型甕」の素形が出土しているが、8のように口縁部が大きく外反し、口縁部をつまみ上げが見られない前段階の形態のものが、10%程度残存している。瓶は、10のような無底





第62図 縄文時代早期前葉土器実測図

式で、口縁部が若干つまみ上げられ、体部外面はヘラナデやヘラ削りが、内面はヘラナデやヘラ磨きが施されているものが出土している。

坏は、法量に差がみられ、第3号堅穴建物跡からは、6のような器高の1/3に稜を持つ口径18.5cm、器高7.8cmの大型のものが出土している。また、第10号堅穴建物跡からは、4の口径8.4cm、器高3.6cmの小型のものが、第8号堅穴建物跡からは、3の口径14.1cm、器高3.6cmのものや、5の口径13.0cm、器高4.0cmの口径が広く器高が低いものも出土している。坏の平均値を求めたところ、当遺跡の北部調査区（第1～4号堅穴建物跡）と南部調査区（第5～10号堅穴建物跡）の遺構では、若干ではあるが南部で出土したものに小型化の傾向がみられる（第22表）。さらに、第10号堅穴建物跡からも、7の小型化が進んだ高坏の脚部が出土しており、南部で確認された遺構の方が若干新しくなる可能性がある。

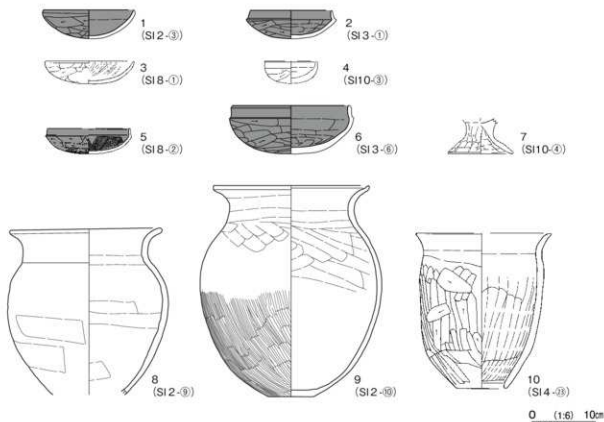
また、第4号堅穴建物跡からは、組み合わせで用いられたとみられる甕と甔が出土しており、甕の口縁部に、甔のはめ込みによって付けられたとみられる擦痕が明瞭に残っている。それぞれ竈付近から出土しており、当該期における煮焚具の使用法を示す良好な資料である。

(2) 建物の廃絶に伴う建築材の焼却について

建物の廃絶に伴う建築材の焼却について、焼土や炭化材の出土状況、柱穴の状況などから、以下2点の可能性がある。

第22表 古墳時代の各堅穴建物跡から出土した埴の口径・器高の平均値一覧

堅穴建物跡No. 平均 (cm)	SI - 1	SI - 2	SI - 3	SI - 4	SI - 5	SI - 6	SI - 7	SI - 8	SI - 9	SI - 10
口径	10.3	16.0	14.6	13.9	13.4	13.4	13.1	13.0	10.6	11.0
器高	3.6	5.3	5.0	4.4	4.9	4.5	4.0	3.8	3.7	4.1



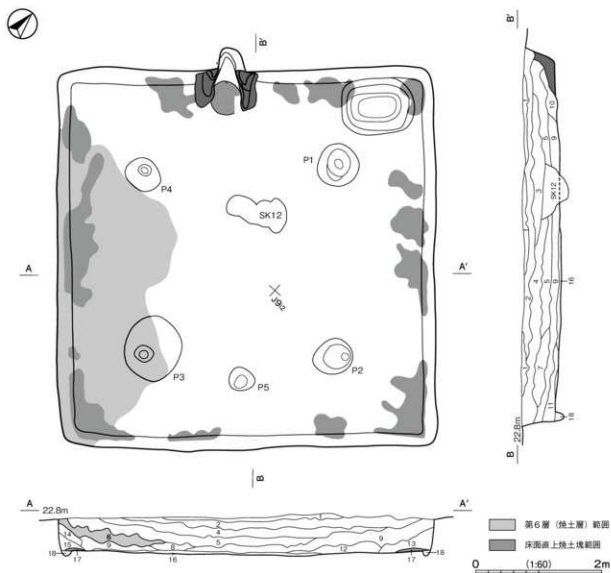
第63図 向田遺跡出土の埴・甕・瓶

まず、当遺跡の堅穴建物跡の多くは、ある程度解体された後に、建築材などを故意に焼却した可能性がある（第23表）。10棟の床面や覆土中から、焼土や炭化物が出土している。第2～10号堅穴建物跡からは、焼土塊が主に壁際の床面から、第4～6号堅穴建物跡では、炭化材も出土している。また10棟中9棟は、柱穴から柱を抜き取っているか、床面付近で切り取っている可能性があり、住居解体後に建築材の一部を持ち去っている可能性もある。壁際から焼土が確認される状況については、焼却が行われた際、土葺きの屋根では焼土が残しやすいことが指摘されていることから<sup>3)</sup>、上屋が解体され、壁際の土葺き屋根が残った可能性が考えられる。

次に、建物を解体した後、建築材などを別の場所で焼却し、覆土に混入した可能性がある。第1～4号堅穴建物跡では、炭化材を含まず、焼土粒子を多量に含んだ焼土層が確認できた。これらは共通して、主に建物跡の西側に広がっていた（第64図）。第6・7・9号堅穴建物跡でも、焼土の量や粒径等、前者と様相が異なるが、床面よりもやや高い位置から焼土ブロックを含む層を確認している。

第23表 古墳時代の竪穴建物跡における焼土・炭化材出土状況

竪穴建物跡No. 出土状況など	SI-1	SI-2	SI-3	SI-4	SI-5	SI-6	SI-7	SI-8	SI-9	SI-10
焼土層	○	○	○	○	-	○	○	-	○	-
床面に 焼土	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
床面に 炭化材	-	-	-	○	○	○	-	-	-	-
柱穴の 状況	-	抜き取り	抜き取り	抜き取り	抜き取り	一部 抜き取り	抜き取り	抜き取り	抜き取り	抜き取り



第64図 第2号竪穴建物跡の第6層（焼土層）及び焼土塊範囲

(3) 祭祀行為について

竪穴建物跡の床面から、ミニチュア土器、手捏土器、土製勾玉・土玉・管玉などが出土している（第24表）。手捏土器は祭祀専用の土器として知られており<sup>41)</sup>、当遺跡出土の土製勾玉や土玉、管玉は頭飾形の祭具として使用した可能性がある。一般的に祭祀遺構では、これらの遺物とともに、土器破砕後の散布、土器の集積などが確認されることが知られている。第3号竪穴建物跡においては、須恵器甕の頸部を故意に打ち

欠いたと考えられる状況に加え、土製支脚が破砕された状態で出土している。また、第4・5号竪穴建物跡では、土器がまとまって遺棄されたように出土していたことから、土器や土製品を用いた建物焼絶に伴う祭祀が行われた可能性がある<sup>51</sup>。

また、(2)で述べた建物跡から出土した焼土や焼土層については、焚火儀礼によって土地を浄化するなど、地鎮祭の可能性があるが、それらの出土状況からは明らかにできなかった。

第24表 祭祀遺物出土状況

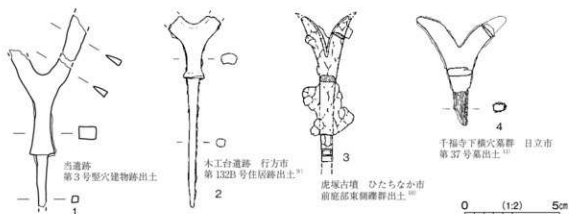
竪穴建物跡 No. 祭祀遺物はか	SI - 3	SI - 4	SI - 5	SI - 6	SI - 7	SI - 10
ミニチュア土器	○	-	-	○	-	-
手捏土器	-	-	○	○	-	-
土製勾玉	-	○	-	-	-	○
土 玉	○	-	○	-	○	-
管 玉	-	-	-	-	○	-
その他の 出土状況	煎部を故意に打ち 欠いたと考えられ る煎部土器。破砕 された土製支脚が 出土。	坏・甕が建物跡床 面中央部に正位で まとまって出土。	土器器臺の周囲に 手捏土器が複数ま とまって出土。	-	-	-

#### (4) 鉄鍬について

第3号竪穴建物跡から、雁股鍬と長頭式鍬かの2点の鉄鍬が出土している。古墳時代の鉄鍬は、3世紀から4世紀にかけて集落からの出土が多く、5世紀になると古墳の副葬品としての出土がみられる<sup>61</sup>。茨城県域では、6世紀以降に、出土例が増加するとされている<sup>71</sup>。以下、当遺跡から出土した2種類の鉄製鍬について述べる。

古墳時代の雁股鍬は、A式とB式の2形式に類別でき、A式は6世紀後葉に、B式は7世紀前葉に出現する。A式は、先端がV字状の刃部を呈し、鍬身部は外湾して丸みを帯びている。B式は、A式に比べ鍬身部が内湾して反る形状が特徴である<sup>81</sup>。本県における古墳時代の雁股鍬の出土例としては、行方市木工台遺跡、日立市千福寺37号墳、ひたちなか市虎塚古墳の3例がある。木工台遺跡の第132B号竪穴建物跡出土の鍬は、鍬身部先端の大部分欠損しており、詳細な形状は不明であるが、出土遺物などから6世紀後葉とみられる<sup>91</sup>。また、千福寺37号墳及び虎塚古墳出土の雁股鍬は、いずれも出土遺物から7世紀とみられる<sup>10-111</sup> (第65図)。

当遺跡第3号竪穴建物跡から出土した雁股鍬は、鍬身部先端が欠損しているが、下部の方は外湾して丸めであり、また刃部の開きが深い。茎間はやや斜方向に広がり、茎間から鍬身中央にかけてやや内湾している。これらの形状から、6世紀後葉と考えられ、集落遺跡からの出土では、木工台遺跡と並んで最古級の可能性がある。また、雁股鍬と共に出土した鍬は、鍬身部と直線状を呈する頭部の形状から、長頭式か短頭式、平根式のいずれかとみられる。いずれにしても鍬身部と直線状を呈する頭部及び基部で構成される形状で茎部の断面は円形か方形の形状を呈する特徴がみられる。長頭式鍬は、県内でも5世紀前葉から数多く存在し、行方市の三味塚古墳からの出土が知られている。本跡から出土したものは、頭部の一部と鍬身先端部が欠損により形状が不明であるが、遺存している長さが93cmほどであり、方形の断面を呈していることから長頭鍬と推測できる。



第65図 本県出土の古墳時代の雁股鍬

#### 4 おわりに

これまで、各時代を概観し、また、特徴的な遺物について述べてきた。当遺跡は、乙戸川を望む台地緑辺部という立地であり、縄文時代には、狩猟をはじめとする人々の活動の場となっていたことが判明した。出土した縄文時代早期前葉の土器は、口縁部の残存率が高いものが多く、文様などの豊富な情報を得ることができた。また、6世紀後半になって集落が形成されたことが明らかとなった。出土した雁股鍬は希少な遺物であり、本県における6世紀後半の資料として注目される。乙戸川流域には、当財団が調査した下小池遺跡や実穀寺子遺跡など、5世紀から6世紀前半の集落や、南部に隣接する反子遺跡からは、7世紀前葉の集落が確認されており、乙戸川流域における集落変遷を考える貴重な資料を得ることができた。今後、周辺遺跡の調査がさらに進展し、より一層古墳時代の様相が解明されていくことを期待したい。

#### 註

- 1) 戸沢充則編『縄文時代研究事典』東京堂出版 1986年10月
- 2) 櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート2号』茨城県教育財団 1993年6月  
櫻村宣行「常総型甕」編年小考-茨城県南部を中心として-」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会 1998年2月
- 3) 高橋泰子「焼失家屋の一考察-型穴建物の上部構造復元をめぐる-」『土曜』第6号 2002年5月
- 4) 小出義治「土師器と祭祀」雄山閣 1990年12月
- 5) 田中大輔「土器集積に関する覚書」『國學院大學伝統文化リサーチセンター研究紀要』第1巻 2009年3月
- 6) 荻浦尚「関東における古墳副葬鉄鍬の変遷」『鉄台史学』171号 2021年2月
- 7) 千葉隆司「古墳時代の鉄鍬(3)-茨城県における6・7世紀の様相-」『要良岐考古』第21集 1999年5月
- 8) 註6)と同じ
- 9) 荒井保雄 高野節夫「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書 木工台遺跡2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第152集 1999年6月
- 10) 茨城県勝田市教育委員会編「史跡虎塚古墳保存整備報告書」茨城県勝田市教育委員会 1981年3月
- 11) 日立市埋蔵文化財発掘調査会編「千福寺下横穴墓群 第2次発掘調査報告」『日立市文化財調査報告』第16集 日立市教育委員会 1986年3月

# 付 章 自 然 科 学 分 析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

茨城県稲敷郡阿見町小池に所在する向田遺跡では、古墳時代後期の竪穴建物跡、縄文時代早期の陥し穴などが確認されている。

本分析調査では、古墳時代後期の竪穴建物跡から検出された炭化材について樹種同定を実施し、当時の木材利用について検討する。

## 1 試料

分析試料は、古墳時代後期の竪穴建物跡（SI 6、SI 5）から検出された炭化材 5 点（炭化材 1、炭化材 2、炭化材 3、炭化材 4、炭化材 7）である。いずれも炭化により小片の割材となっており、1 つの試料に複数の細片化した炭化材が入っている。

## 2 分析方法

各試料の全体を観察した結果、それぞれの試料に入っている炭化材の小片は、基本的に同一の樹種であった。そこで、保存状態の良い試料を一片選択し、剃刀を用いて木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面を作成する。双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。各試料で観察された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。木材組織の名称や特徴については、高地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995、1996、1997、1998、1999）を参考にする。

## 3 結果

結果を表 1 に示す。炭化材 2 はタケ亜科であったが、他はコナラ亜属クスギ節である。以下に検出された種類の特徴を述べる。

表 1 炭化材同定結果

・イネ科タケ亜科 (Gramineae subfam.

Bambusoideae)

原生木部の小径の道管の左右に 1 対の大型の道管があり、その外側に篩部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞（維管束鞘）

が囲んで維管束を形成するが、繊維細胞は放射方向に広く、接線方向に狭いため、全体として放射方向に長い菱形となる。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。

・コナラ属コナラ亜属クスギ節 (Quercus subgen. Quercus sect. Cerris) ブナ科

環孔材で、孔圈部は 1～3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20 細胞高のものと同複合放射組織とがある。

試料名		種類	備考
SI-6	炭化材 1	クスギ節	割材片複数
SI-6	炭化材 2	タケ亜科	タケ類複数
SI-5	炭化材 3	クスギ節	割材片複数
SI-5	炭化材 4	クスギ節	割材片複数
SI-5	炭化材 7	クスギ節	割材片複数

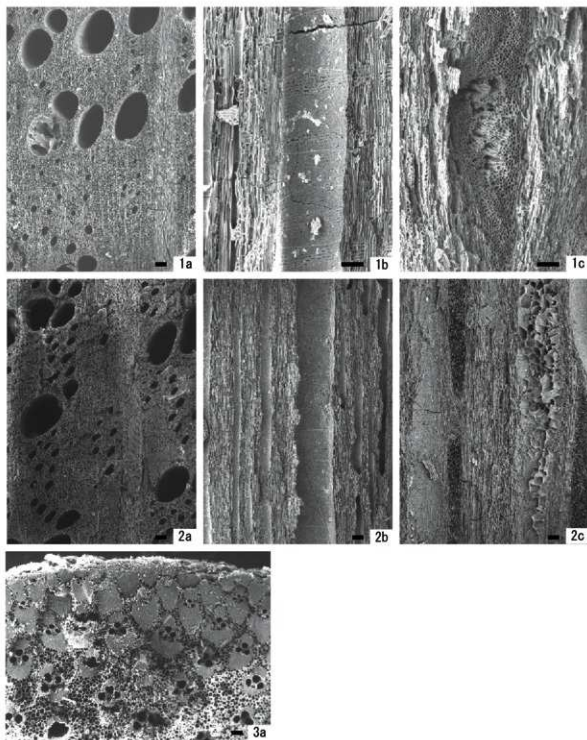
#### 4 考察

検出された種類は2種類で、5点中4点がコナラ亜属クスギ節である。クスギはやや重硬で強度があるため、建築材や器具材に用いられることもあるが、良質な薪炭材として用いられることが多い。クスギは里山林の主要な構成種であるほか、河川沿いにも多く分布することから、遺跡近くで得やすい樹種であり、当時は建築材や薪炭材等様々な用途で使われたことが推測される。クスギは成長が早く、萌芽による再生も早いので、継続的に木材を得ることができる点も、多く使われた理由の一つと思われる。タケ類も、古来より有用な植物として利用されており、軽くて割裂性がよく、加工性の高い素材として、生活の中に広く用いられる。今回出土したものは、直径3～4cm程度の中型種とみられるが、これらは農・漁業資材や竹細工などに向く太さであり、当時はさまざまな用途に利用されていたと思われる。

伊東・山田編(2012)の木材データベースによると、茨城県内では古墳時代以降の住居跡から多くのクスギ節の炭化材が検出されている。また、阿見町では薬師入遺跡で検出された古墳時代の住居跡から多量のクスギ節が検出されている(野村, 2008)。これらは古墳時代の建築部材として利用されていたと考えられ、本分析調査でクスギとされた炭化材についても、建築部材として利用されていた可能性が高く、先述した県内の事例とも矛盾しない。

#### 引用文献

- 林 昭三 1991 日本産木材 顕微鏡写真集 京都大学木質科学研究所
- 伊東隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ 木材研究・資料31 京都大学木質科学研究所 81-181
- 伊東隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ 木材研究・資料32 京都大学木質科学研究所 66-176
- 伊東隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ 木材研究・資料33 京都大学木質科学研究所 83-201
- 伊東隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ 木材研究・資料34 京都大学木質科学研究所 30-166
- 伊東隆夫 1999 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ 木材研究・資料35 京都大学木質科学研究所 47-216
- 伊東隆夫・山田昌久(編) 2012 木の考古学 出土木製品用材データベース 海青社 449p
- 野村敏江 2008 薬師入遺跡出土炭化材の樹種同定「薬師入遺跡2 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ下巻」茨城県教育財団文化財調査報告書第296集 茨城県竜ヶ崎土木事務所・財団法人茨城県教育財団 327-328
- Richter H.G., Gasser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修) 海青社 70p  
[Richter H.G., Gasser D., Heinz I. and Gasson P.E.(2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]
- 鳥地 謙・伊東隆夫 1982 図説木材組織 地球社 176p
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修) 海青社 122p [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]



- 1 クヌギ節(炭化材1)  
 2 クヌギ節(炭化材4)  
 3 タケ亜科(炭化材2)

a:木口 b:柎目 c:板目  
 スケールは100 $\mu$ m



写 真 图 版



向田遺跡出土土師器





平成28年度遺跡遠景（北から）



平成28年度遺跡全景（東から）

PL2



平成30年度遺跡遠景（南東から）



平成30年度遺跡全景（南東から）

第1号遺物包含層  
第1号不明遺構



埋没谷



埋没谷  
土層断面(A・Bライン)  
上層部第1号遺物包含層



PL4



第1号遺物包含層  
遺物出土状況



第1号不明遺構  
遺物出土状況



第1号不明遺構



第1号陷し穴



第2号陷し穴



第3号陷し穴



第1号竪穴建物跡



第1号竪穴建物跡 竈



第2号竪穴建物跡 遺物出土状況



第2号竪穴建物跡 床面直上焼土塊範囲



第2号竪穴建物跡 第6層(焼土層)範囲





第2号竖穴建物跡



第2号竖穴建物跡 竈



第3号竖穴建物跡 遺物出土状況



第3号竖穴建物跡 遺物出土状況



第3号竖穴建物跡



第3号竖穴建物跡 竈



第4号竖穴建物跡 第6層（焼土層）堆積状況



第4号竖穴建物跡 遺物出土状況





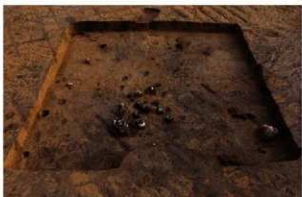
第4号竖穴建物跡 遺物出土状況



第4号竖穴建物跡



第4号竖穴建物跡 甕



第5号竖穴建物跡 遺物出土状況



第5号竖穴建物跡 遺物出土状況



第5号竖穴建物跡 遺物出土状況



第5号竖穴建物跡



第5号竖穴建物跡 甕



第6号竖穴建物跡 遺物出土状況



第6号竖穴建物跡 遺物出土状況



第6号竖穴建物跡



第7号竖穴建物跡



第7号竖穴建物跡 竈



第8号竖穴建物跡 遺物出土状況



第9号竖穴建物跡 遺物出土状況



第9号竖穴建物跡 遺物出土状況



第9号竖穴建物跡 焼土塊出土状況



第9号竖穴建物跡



第9号竖穴建物跡 竈



第10号竖穴建物跡 遺物出土状況



第10号竖穴建物跡 遺物出土状況



第10号竖穴建物跡

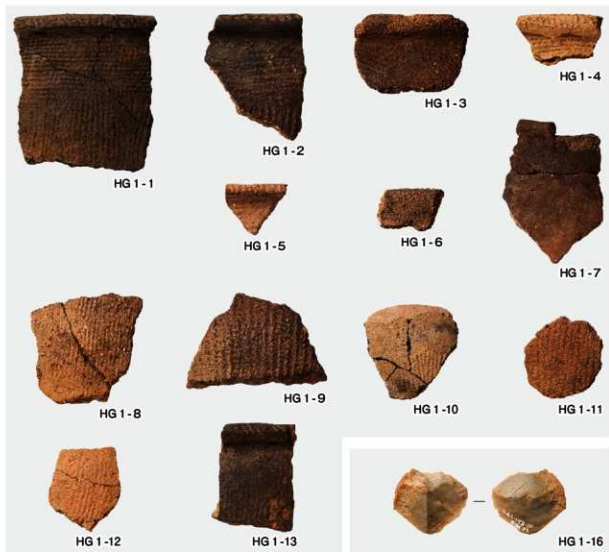


第8号土坑 遺物出土状況

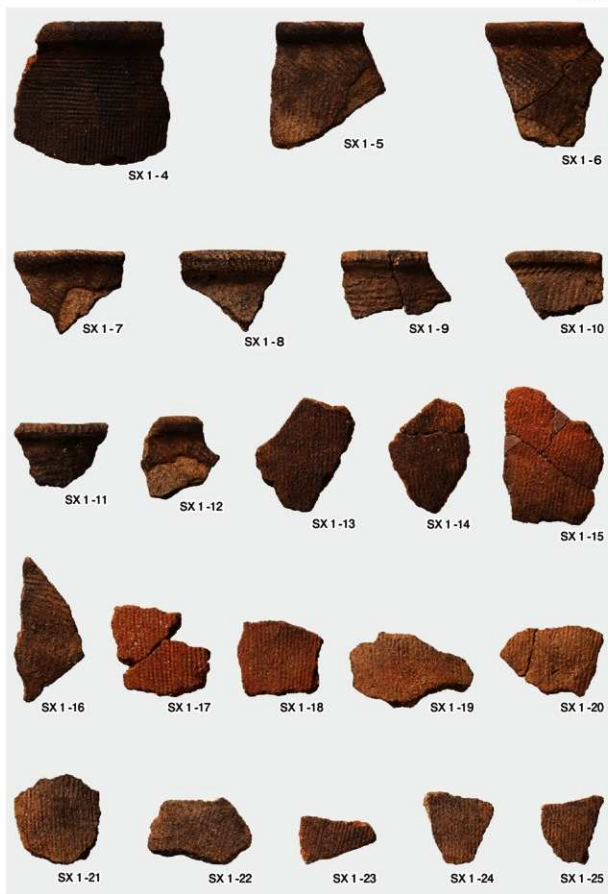


第11号土坑

PL10



第1号遺物包含層、第1号不明遺構出土遺物



第1号不明遺構出土遺物

PL12



SI 2-1



SI 2-2



SI 2-3



SI 2-9



SI 2-5

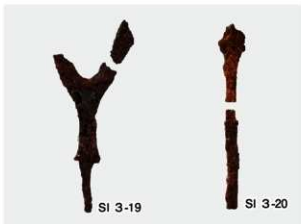


SI 2-16



SI 2-20

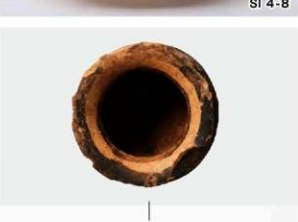
第2号竖穴建物跡出土遺物



第3号竖穴建物跡出土遺物

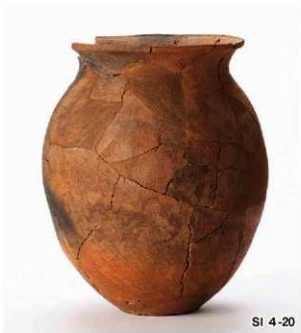


PL14



第4号竖穴建物跡出土遺物











第9・10号竪穴建物跡、第8号土坑、遺構外出土遺物

## 抄 録

ふりがな	むかえだいせき							
書名	向田遺跡							
副書名	主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第474集							
著者名	柳瀬彬							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2024(令和6)年1月22日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
向田遺跡	茨城県稲敷郡阿見町小池65-136番地ほか	08443 198	35度 59分 51秒	140度 11分 02秒	20 ~ 23m	20160401 ~ 20160531 20181001 ~ 20190131	10,165㎡	主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
向田遺跡	集落跡	縄文	陥し穴 遺物包含層 不明遺構		3基 1か所 1か所		縄文土器(深鉢)、石器(スタンブ形石器・礫器・剥片)	
			古墳	堅穴建物跡 土坑		10棟 2基		土師器(坏・碗・高坏・鉢・壺・甕・甔・ミニチュア土器・手捏土器)、須恵器(甕・甕)、土製品(勾玉・土玉・管玉・支脚)、石器(砥石)、金属製品(鉄鏃)
	その他	時期不明		土坑		108基		須恵器(甕)、石器(石鏃・砥石)
要約	調査区南部の埋没谷上層部と不明遺構からは、縄文時代早期前葉の土器片が出土した。また、縄文時代の陥し穴を3基確認したことから、縄文時代は、小規模なキャンプサイトや狩猟場として土地利用されたことが判明した。さらに、6世紀後半の古墳時代の堅穴建物跡10棟を確認した。ミニチュア土器や手捏土器、土製勾玉や土玉、管玉などが出土した堅穴建物跡もあり、祭祀が行われた可能性がある。							

## 印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign 2023
	図版作成	Adobe Illustrator 2023
	写真調整	Adobe Photoshop 2023
	Scanning	EPSON ES-1000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL 太ゴシックPro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign 2023 でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第474集

稲敷郡阿見町

## 向田遺跡

主要地方道土浦電ヶ崎線バイパス整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和6（2024）年1月22日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
HP <https://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 富士オフセット印刷株式会社  
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2  
TEL 029-231-4241



